

△(明治十六年八月第二十八號布告但書追加)

但定期取引約定中轉賣又ハ買戻ニ係ルモノハ第三條ニ據ル

第五條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其税金ハ之ヲ還付セス

第六條 税金ハ會所又ハ取引所ニ納ムヘシ

第七條 會所及取引所ハ仲買人ヨリ納メタル税金ヲ每一箇月取纏メ翌月十日限り地方
應ニ上納スヘシ

第八條 税金徴收ノ方法ハ大藏卿ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第九條 大藏卿ハ地方廳ニ委任シ又ハ臨時官吏ヲ派出シ納税ノ精算ヲ検査セシムヘシ

第十條 税金ヲ納メズシテ賣買取引スル者ハ脱税高三倍ノ罰金ニ處ス但此場合ニ於テ
ハ仲買人タルノ認許ハ其効ヲ失フモノトス

第十一條 前條ノ罰金ハ仲買人ノ身元金ニ對シテ第一先取ノ特權ヲ有ス可シ

第十二條 會所及取引所ニ於テ本則納税取締ヲ怠タル片ハ米商會所條例第十九條第一
節格式取引所條例第四十八條及ヒ本年第四十六號布告ニ依リ處分シ仍ホ其資本金ヲ
以テ納税ノ欠額ヲ追徴ス可シ

○第七款 米穀金銀貨諸物品限月賣買罰則 明治十三年四月
第二十一號布告

法律定規ニ違ヒ官許ヲ得タル米商會所株式及ヒ橫濱取引所外若クハ内タリモ米穀並ニ金銀貨幣及ヒ株式ノ限月若クハ現場(定期ヨリ起リタル現場ヲ云フ)賣買其他之ニ類似シタル取引ヲ爲シタル者及ヒ情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ無効ト爲スヘシ

但シ本條ヲ犯シタル者ヲ告發シタル者ニハ其告發ニ因テ科シタル罰金ノ全部ヲ給ス其自ラ犯シタル者事未タ發覺セサル前ニ於テ自首シタル時ハ其罪ヲ問ハス

△(明治十二年九月第四十九號太政官達)

近來米穀ニ製茶砂糖反物薪炭等種々ノ品物ヲ以テ限月若クハ現場賣買類似ノ商業ヲ爲ス者有之趣右ハ總テ本年(四月)第二十一號布告ニ依リ處分スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

△(明治十六年一月第四號布告)

米商會所株式取引所ノ限月若クハ現場賣買ノ方法ニ倣ヒ又ハ之ニ類似ノ方法ヲ用ヒ諸物品ノ賣買取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタルモノ若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ總テ明治十三年四月第二十一號布告ニ據リ處分スヘシ

△(明治十六年八月第二十九號布告)

米商會所及株式取引所ノ仲買人ニシテ米穀並ニ金銀貨幣公債証券株式ノ限月若ク

ハ現場(定期ヨリ起リタ)買買又ハ其類似ノ取引ヲ爲シタル者及ヒ情ヲ知テ買買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其買買取引ヲ誘助シタル者ハ五十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其買買取引ハ米商會所條例及株式取引所條例ノ手續ヲ爲サシム
 △(明治十五年八月第四十六號布告)
 米商會所及ヒ株式取引所ノ買買ニ不正惡弊アルカ又ハ買買取引上ノ景況穩當ナラサル爲メ公共ニ妨害ヲ及ホスト認ムル片ハ農商務卿ハ其會所及ヒ取引所又ハ仲買人ノ營業ノ一部又ハ全部ヲ停止若クハ禁止シ又ハ役員ヲ退罷セシムルコトアル可シ
 但本年第二十六号布告米商會所條例追加第二十條ハ削除ス

○第六章 株式

○第一款 株式取引所條例 明治十一年五月 第八號布告

第一章 株式取引所創立及開業ノ事

第一條 株式取引所ハ株式仲買人ノ集會シテ日本政府ノ諸公債證書及日本政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行并ニ諸會社ノ株券等ヲ買買取引スル所ナリ而シテ之ヲ創立セントスルモノハ其創立願書ハ其地方長官ノ與書ヲ受ケ之ヲ大藏省ヘ差出シ大藏卿ノ允許ヲ請フヘシ

第二條 此條例ヲ遵奉シテ株式取引所ヲ創立スルニハ其發起人少クトモ十名以上ニシテ其資本金額ハ二十萬圓(明治十三年第五十七號布告ヲ以テ十萬圓ト改正)以上タルヘシ而シテ其資本金額高ノ半數以上ニ當ル金額ヲ右發起人総員ニテ出ス可シ

第三條 大藏卿ハ此創立願書ヲ受領シテ其許可ス可キヤ否ヤヲ考案シ或ハ之ヲ許可シ或ハ許可セサルコトアル可シ

第四條 發起人右創立許可ヲ受クルニ於テハ諸般ノ規程ヲ議定シテ創立證書及定款申合規則各二通ヲ製シ株主一同記名調印ノ上地方長官ノ與書証印ヲ受ケ之ヲ大藏省ヘ差出ス可シ

但創立證書及ヒ定款等ハ創立許可ヲ得タル日ヨリ過クトモ三ヶ月間ニ差出スヘシ若シ右期限内ニ差出サハル片ハ其許可ハ無効ニ屬ス可シ

第五條 右創立證書及ヒ定款申合規則ハ左ノ主旨ニ從ヒ各取引所ノ便宜ニ依テ之ヲ制定スヘシ然レモ必ス此條例ノ旨趣ニ牴觸スルヲ得サルヘシ

創立證書ハ取引所ヲ創立スルニ付キ株主一同決定シタル綱領ノ條件及ヒ其責任ノ有限或ハ無限ノ有責任トハ負債償却ノ義務ニ於テ該取引所ノ株券限リ或ハ其株券資力ヲ竭クスナ明記シ必ス之ヲ遵守踐行ス可キ旨ヲ政府ニ對シ証スルモノナリニ至ルヲ云
 定款ハ取引所ヲ創立スルニ付キ株主一同其取引所ノ便宜ヲ商量決定シテ互ニ相確

守スヘキ約束條款ヲ記載スルモノナリ

申合規則ハ賣買取引ニ付キ賣主買主雙方ノ間ニ於テ取引所ニ對シ確守ス可キ規程ヲ記載スルモノナリ

第六條 大藏卿ハ右創立證書及定款申合規則ヲ檢按シテ不都合ナシト思考スルニ於テハ之ニ與書證印ヲ加ヘ免狀ト共ニ之ヲ其取引所ニ下付シテ開業ヲ許スヘシ

但爾後取引所ノ都合ニヨリ其創立證書及定款申合規則ヲ改正加除セントスル片ハ其時々大藏卿ノ認許ヲ受クヘシ

第七條 取引所ハ開業前ニ於テ其營業保証ノ爲メ資本金高ノ三分二以上ニ當ル現金又ハ公債證書(大藏省ヨリ指定スル價格ヲ以テ)ヲ大藏省ニ差出シ預置クヘシ

但シ開業免狀ヲ得タル後滿五ヶ月ニ至リ猶ホ本文ノ手續ヲ爲サス又ハ開業セサルコアル片ハ其免狀ハ取消タルヘシ

第八條 取引所ハ開業ノ日ヨリ滿五ヶ年ノ間其營業ヲ保續スルヲ得ヘシ右滿期ニ至リ尙ホ營業セント欲スル片ハ更ニ免許ヲ受ク可シ

第九條 取引所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀並ニ創立證書ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告ス可シ

第二章 株主並ニ株手形ノ事

第十條 各株主ヨリ入金シタル金額ハ分テ百圓以上一定ノ株式ト爲シ株手形ヲ製シ其株主タルモノヘ之ヲ交付ス可シ

第十一條 株主ハ其取引所ノ營業時間ハ何時ニテモ其金員及ヒ諸帖簿ヲ檢閱スルコトヲ得ヘシ

第十二條 株主ハ何等ノ事故アルトモ其取引所解散ノ期ニ至ラサル間ハ其株金ヲ取戻スコトヲ得ス

第十三條 株主ハ其取引所ノ承認ヲ得タル上其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓渡ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第十四條 株主タル者ハ其取引所ノ役員ヲラサル時間ハ何時ニテモ仲買人タルヲ得ヘシト雖モ仲買人ト爲タル片ハ仲買人ノ規則ヲ遵守ス可シ而シテ賣買上ニ於テハ之ヲ仲買人ト稱ス可シ

第三章 仲買人ノ事

第十五條 (明治十三年四月第二十號布告改正)丁年ニシテ仲買人ト爲ラント欲スル者ハ次條ニ定ムル身元金ヲ差入レ取引所ノ承認ヲ得タル上仲買人ト爲ラントスル願書ヲ大藏卿ニ捧テ其認許ヲ受クヘシ
仲買人ハ他人ノ委託ヲ受テ賣買取引ヲ爲スト自己ノ爲メニ爲ストヲ問ハス取引所

第三類 商法編 株式取引所條例

ニ對シテハ其實買取引上一切ノ責任ヲ負フ可シ

第十六條 (明治十三年四月第二十號布告改正) 株式仲買人ノ身元金ハ貳百圓以上金銀
仲買人ノ身元金ハ千圓以上タル可シ

第十七條 仲買人ハ丁年者ニ限ル可シ且ツ一度身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ其負債ノ
義務ヲ免レタル實證アルニアラサレハ入社ヲ許サハルヘシ

第四章 役員ノ事

第十八條 取引所ノ役員ト稱スル者ハ左ノ如シ

頭 取 肝 煎

其他支配人書記方計算方等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ取引所ノ便宜ニ任ス

第十九條 (明治十三年四月第廿號布告改正) 取引所ノ肝煎ハ五名以上トシ株主ノ總會

ニ於テ取引所ノ定規ニ從ヒ現ニ三十株以上ヲ所持スル株主中ヨリ之ヲ撰舉シ肝煎ハ
其同僚中ヨリ頭取壹人ヲ撰舉シ其住所姓名年齢等ヲ大藏卿ニ具申シテ其認許ヲ受ケ
ヘシ大藏卿ハ時トシテハ其改撰ヲ命スルコトアルヘシ

支配人以下ノ役員ハ頭取肝煎ノ衆議ニ依リ株主又ハ株主ニアラサル者ヲ撰任スルコ
ト得

第二十條 取引所役員ノ在職年限ハ一ケ年タルヘシ

第二十一條 頭取ハ取引所ノ事務ヲ總轄シ取引所一切ノ責ニ任スヘシ

第二十二條 頭取肝煎ハ其仲買人買賣上ノ差違レヲ解キ違約者ヲ處分スルノ責任アリ
トス

第二十三條 取引所諸役員職務上ノ責任權限等ハ其取引所ニ於テ適當ノ規程ヲ設ケ之
ヲ定款中ニ記載ス可シ

第五章 一般ノ規程

第二十四條 外國人ヲ取引所ノ株主並仲買人ト爲スコトヲ得ス

第二十五條 取引所ニ於テ株式買賣取引ヲ爲ス者ハ其取引所ノ承認ヲ經タル仲買人ニ
限ルヘシ

第二十六條 (明治十四年五月第廿八號布告削除)

第二十七條 取引所ノ役員タル者ハ其取引所ニ於テ買賣本人又ハ仲買人ト爲ル可ヲス

第二十八條 取引所ノ役員及ヒ仲買人ハ他ノ株式取引ヲ爲ス會社ノ役員又ハ仲買人或
ハ他ノ銀行並ニ諸會社(官許ヲ經タル合本會社)ノ役員タルヲ得ス

第二十九條 取引所ハ其營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外地所家屋ヲ所持スル
ヲ許サス又之ヲ買賣ス可カラス

第三十條 政府ニ於テ買賣ヲ許シタル諸公債證書及ヒ政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタ

ル銀行並ニ諸會社ノ株券等ノ賣買ヲ除クノ外此取引所ニ於テ一切他ノ物件ヲ賣買シ
他ノ事業ヲ營ムヘカラス

△(明治十三年十二月第五十七號布告但書追加)

但シ本條ニ掲載セサル諸會社ノ株券ト雖モ其營業確實ナリト認ムルモノハ大藏卿ニ
於テ其賣買ヲ許可スルヲ得

第三十一條 取引所ハ第一章第七條ニ掲ケタル營業保證ノ爲メ大藏省ヘ預クヘキ公債
證書ヲ除クノ外自ラ諸公債證書諸株券等ヲ賣買シ又ハ之ヲ所持ス可カラス

第三十二條 取引所ハ諸證據金ヲ使用スヘカラス又貸附金ヲ爲スヘカラス

第三十三條 (明治十五年十二月第六十四號布告改正) 取引所ニ於テ違約人ヲ處分スル
ハ其違約ニ依リ取引所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トヲ其者ノ證據
金及ヒ身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フコ
ト能ハサルトキハ取引所ニ於テ其責ニ任スヘシ

第三十四條 取引所ハ其取引所ニ於テ株式等ノ賣買ヲ認許シタル銀行並ニ諸會社及ヒ
新立會社ノ株式ヲ賣買スルコトノ依頼ヲ受クルト雖モ其事情ニ依リ之ヲ停止シ又ハ之
ヲ許否スルノ權ヲ有ス

第三十五條 取引所ノ諸願伺届又ハ諸證據約定書及ヒ往復ノ文書等取引所一般ニ關ス

ル事件ハ頭取肝煎等之ニ記名調印ス可キハ勿論ナレモ必ス其取引所ノ名ヲ署シ取引
所ノ印ヲ捺ス可シ

第六章 賣買取引ノ事

第三十六條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場ト定期ノ二様ニ分チ必ス現場ノ受
渡ヲ爲スヘシ

但シ三月ヨリ永キ定期ノ約定ヲ爲スヘカラス

第三十七條 凡取引所ニ於テ賣買ノ約定ヲ爲シ其定期ニ係ルモノハ約定金高百分ノ五
宛ニ下ラサル證據金ヲ賣買雙方ヨリ差入ル可シ而シテ其期限中相場ノ高低等ニ依リ
テハ追証據金増証據金等ヲ差入シムルコトヲ得ヘシ

第三十八條 約定取引ノ期限ニ至テハ其品種ニ依リ記名書替等其他受渡ノ手續ハ政府
又ハ諸會社ノ成規ニ照ラシ之ヲ履行ス可シ

第三十九條 約定期限内ニ於テ之ヲ轉賣スルヲ得可シト雖モ其期日ニ至レハ必ス現物
ノ受渡ヲ爲スヘシ

第四十條 (明治十五年十二月第六十四號布告改正) 賣買主ニ於テ諸證據金ノ差入レテ
怠リ又ハ期限ニ至リテ其約定ヲ履行セサル者ハ都テ之ヲ違約人ト爲スヘシ

第七章 手数料ノ事

第三卷 商法編 株式取引所條例

第四十一條 取引所ニ於テ收領スヘキ手数料ハ(買買雙方ヨリ)其買買金高現場取引ハ千分ノ一定期取引ハ千分ノ二宛ニ超ユヘカラス

第四十二條 手数料ハ其決算ノ時ニ至リ買買取引ニ關係スル他ノ債主ニ先ツテ之ヲ收受スルヲ得ヘシ

第八章 検査ノ事

第四十三條 大藏卿ニ於テ要用ト思考スル片ハ何時ニテモ官員ヲ派遣シ或ハ其地方長官ヘ達シテ其取引所ノ業体及ヒ金銀其他諸帖簿等ヲ検査セシムルヲアルヘシ

第九章 帖簿ノ事

第四十四條 取引所ハ毎日取扱ノ事項ハ勿論金銀ノ出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テ大藏卿ノ差圖アル片ハ其差圖ニ從フヘシ

第四十五條 取引所ニ於テ制定使用スル處ノ諸帖簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之ヲ大藏省ヘ届出ツ可シ

第十章 諸報告ノ事

第四十六條 取引所ハ買買實際ノ報告及金銀出納表其他役員ノ進退并ニ株主仲買人ノ姓名等ヲ大藏卿ノ指命スル處ニ從ヒ時々報告ヲ爲スヘシ

第十一章 納税ノ事

第四十七條 此取引所ハ進テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ収税規則ニ遵ヒ相當ノ税金ヲ納ムヘシ

第十二章 罰則

第四十八條 取引所ノ役員及ヒ株主並ニ仲買人等此條例ヲ犯スガ又ハ役員タルモノ株主並仲買人ノ此條例ニ背反シタルヲ不問ニ措キ又ハ背反セシメタル實証アルトキハ役員並ニ本人共其事ノ輕重ニ依リ三十圓ヨリ少ナカラス千圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

第四十九條 (明治十五年二月第六十四號布告改正)官員検査ノ節取引所役員及ヒ仲買人等簿冊書類ヲ差出スヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辨ヲ爲サ、ル者アルトキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第五十條 (明治十五年十二月第六十四號布告追加)取引所ノ規約ニ背犯シタル役員及ヒ株主仲買人ヲ取引所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ツルニ止マルモノトス 但其過怠料ハ株金身元金ノ高二超ユルヲ得ス

△(明治十四年九月第四十三號布告ヲ以テ本文中大藏卿トアルハ農商務卿ト改正)
○第二款 株式取引所買買手数料改定 明治十五年十二月
第六十七號布告

明治十一年(九月)第三十號布告株式取引所稅額ノ儀手数料其他現收セル總金高十分ノ

一トアルヲ賣買手數料總金高十分ノ一ト改ム但來十六年四月一日ヨリ施行ス

○第三款 株式取引所定期賣買差止 明治十三年五月 第二十四號布告

明治十二年(九月)第三十七號第三十八號布告ヲ以テ東京大阪株式取引所並ニ橫濱取引所ニ於テ金銀貨幣取引ノ儀當分ノ内差許置候處右取引ノ内定期賣買ノ儀ハ自今差止メ候條此旨布告候事

但是迄取結ヒタル定期賣買ハ其約定期限ニ至リ完結候儀ト心得ヘシ

○第四款 金銀貨幣定期取引差許 明治十六年八月 第二十七號布告

東京大阪橫濱神戸株式取引所ニ於テ金銀貨幣取引ノ儀當分ノ内二箇月以内ノ定期取引差許ス但其取引ニ係ル規程ハ農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ

○第五款 株式取引所仲買人認許料 明治十六年八月 第二十八號布告

米商會所及ヒ株式取引所ノ仲買人ト爲ラント欲スル者農商務卿ノ認許ヲ得タルトキハ認許料トシテ金三圓ヲ農商務省ニ納ムヘシ

○第六款 株式取引所仲買人認許規定 (第五章第四款ニ出)

○第七款 株式取引所仲買人定限 (第五章第五款ニ出)

○第八款 株式取引所仲買人納稅規則 (第五章第六款ニ出)

○第九款 米穀金銀貨幣諸物品限月賣買罰則 (第五章第七款ニ出)

○第七章 酒造

○第一款 酒造稅則 明治十三年九月 第四十號布告

今般酒造稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行シ從前ノ酒類稅則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事

酒造稅則

第一章 免許鑑札 稅率

第一條

凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場一ヶ所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 (明治十五年第十七號布告改正)

酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒 清酒濁酒其他釀造シタルモノヲ云フ

二類 蒸溜酒 燒酎酒精再溜酒精其他蒸溜シタルモノヲ云フ

三類 再製酒 銘酒味淋白酒等釀造蒸溜ノ酒類ヲ調和シ又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ

第三條 (明治十五年第六十一號布告改正)

免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ

酒造免許稅

酒造場一ヶ所ニ付

金三十圓

酒類造石稅

一類壹石ニ付

金四圓

二類壹石ニ付

金五圓

三類壹石ニ付

金六圓

第四條 (明治十五年第六十一號布告改正)

免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス

清酒

百石

濁酒

十石

一類(清酒濁酒ヲ除ク)二類三類 五石

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ

第五條 (明治十五年第六十一號布告改正)

酒造營業人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

第六條

免許鑑札買賣讓與スル時ハ双方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條

免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納稅 造石檢査

第八條

免許稅ハ鑑札中受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 (明治十五年第十七號布告改正)

造石稅ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

第三類 商法編 酒造稅則

第一期 四月三十日限

十月一日ヨリ二月中検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第二期 七月卅一日限

三月一日ヨリ六月中検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第三期 九月三十日限

七月一日ヨリ皆造検査済石數ニ係ル税額并前納額ノ殘數

第十條 (明治十五年第六十二號布告改正)

造酒ノ石數ハ總テ管廳へ申出検査ヲ受クヘシ

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳へ申出検査ヲ受テ現石數ニ付納税スヘシ

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上テ廢シ尙存

セル酒造場へ其酒類ヲ移ス時ハ管廳へ届出且製成ノ上検査ヲ受クヘシ

第十一條

前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十二條

自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ受テ其造石税

ヲ納ムヘシ

第十三條

第十四條

検査未済ノ酒類へ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石税ハ總石數ヲ

以テ之ヲ納ムヘシ

第十五條

検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製第一章第二條中一類ノ酒ヲ二類ニ二類ヲ三類ニ變製スル類スル時ハ造石

税ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十六條

検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石數ニ係ル造石税ヲ納メ更ニ變

製ノ石數ニ就テ造石税ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳へ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ檢

査ヲ受クヘシ

第十七條

皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳へ申出検査ヲ受クヘシ

第十八條

前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石税ヲ納ムヘシ其製成スルヲ得

第ニ類 商社編 酒造税則

サル者及ヒ廢業シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ヲ免除ス

第十八條

葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スルモノハ免許稅ヲ納ムヘシト雖モ造石稅ハ之ヲ免除ス

第十九條

酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒もト其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ檢査ヲ受クヘシ

第二十條 (明治十六年八月第二十六號布告改正)

酒造用諸器械ハ使用以前管廳へ申出檢査ヲ受ケ其買賣讓與貸借ハ其時々管廳へ届出ツヘシ

酒造着手後造石稅完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得シテ諸器械ヲ酒造場外へ移スコトヲ許サス

酒造用諸器械ヲ賣與讓與貸與及所持主へ返却スルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラヌ檢査濟ニ係ル造石稅ヲ完納ス可シ

第三章 禁令 雜令

第二十二條 (明治十五年第十七號布告改正)

酢及ヒ酒もトヲ販賣スルヲ許サス

但事故アリテ酒もトノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限リ賣渡スハ此限ニアラス

第二十三條 (明治十五年第六十一號布告改正)

他ノ依託ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス

第二十四條 (明治十五年第六十一號布告改正)

檢査未濟ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス檢査既濟ノ酒類へ檢査未濟ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス

第二十五條

免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十六條

造酒^{搾リ}蒸溜^器器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スル片ハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳へ届出再封ヲ請フヘシ

第二十七條

免許ヲ受ケタル者ハ其節管廳へ該一期造酒見込ノ種目石數並其造リ方法共届出ヘシ但種目變換並見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條

酒造ニ屬スル倉庫納屋並ニ諸器械共豫テ管應ニ届出ヘシ
但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十八條

一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ之ヲ戶外ニ
掲出スヘシ

第四章 罰令

第二十九條

免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ沒收シ免許稅額ニ倍
ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ
但シ本文酒類並ニ諸器械ヲ己ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴スヘシ

第三十條

免許鑑札ヲ借受テ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取
揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 (明治十五年第六十一號布告改正)

酒類石數檢査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徴シ其酒類

ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限コアラヌ

第三十二條 (明治十五年第六十一號布告改正)

酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科
スヘシ

第三十三條

檢査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ニ相當スル金額ノ三倍ヲ
科スヘシ

第三十四條 (明治十六年第二十六號布告改正)

第十四條ノ届出ヲ忘リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九
十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十五條 (明治十六年第二十六號布告改正)

第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ
處ス

第二十條第一項ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス
第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第三十六條 (明治十五年第六十一號布告追加)

第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ
但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス

第三十七條 (明治十五年第六十一號布告追加)

此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第三十八條 (明治十五年第六十一號布告追加)

酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

酒造稅則附則 (明治十五年第六十一號布告ヲ以テ以下各條追加)

第一條 自家用料ノ酒類(飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ及ヒ其他ノ用ニ供スルモノ)ヲ製造スル者ハ管廳ヘ届出製造免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八十錢ヲ納ムヘシ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高一石(二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合算ス)ヲ超ユルヲ得ス若シ之ヲ超ユル時ハ總テ本則ニ從フヘシ

第四條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家ノ外ニ於テ之ヲ製造スルヲ得ス

第五條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第六條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ申出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第七條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第八條 第一條第三條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

第九條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

右奉 勅旨布告候事

○第二款 酢元ニ供スル酒類製造規則

明治十六年十二月 第四十二號布告

酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三條免許稅第四條第二項第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據スヘシ

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ檢査未済ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許サス犯ス者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其己ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徴ス

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓

第二項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓

第三項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓

第四項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓

第五項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓

九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
右奉 勅旨布告候事

○第三款 酒類稅則違犯証憑取調處分方
明治十六年十二月
第四十三號布告

酒造稅則、醫麴營業稅則、賣藥印紙稅則、烟草稅則、ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則アリト認
知シ若クハ思料スルトキハ其場所ニ立入り犯則ノ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其
官吏ハ主任タルノ證票ヲ携帯スヘシ

○第八章 醫麴

○第一款 醫麴營業稅則
明治十三年九月
第四十一號布告

醫麴營業稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

醫麴營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條

凡ソ醫麴釀造酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳へ願出製造場一ヶ所毎ニ
免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

醫麴營業稅 金五十圓

第二條

營業免許ハ其年十月二日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條

一期中何月ニ新規免許ヲ受ケルモ營業稅ハ直ニ管廳へ納ムヘシ

第四條

免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳へ届出ヘシ

第五條

販賣ノ節ハ其石數並ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十
月中管廳へ差出シ檢査ヲ受ケヘシ

△(明治十五年十二月第六十一号布告第二項追加)

醫麴及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第六條

免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條

免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セン時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條

免許ヲ受ケタル者ハ醫麴賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

第九條

免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條

免許鑑札ヲ受ケス醫麴ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵收スヘシ

第十一條

前明條ノ外販賣ノ節石數并ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ一圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵收スヘシ

第十二條

(明治十五年第六十二號布告追加)

醫麴營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣醫麴受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類(醫麴ヲ除ク)ヲ製造スルヲ許サス

第十三條

(明治十五年第六十二號布告追加)

第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ尙ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器

械ヲ沒收ス之ヲ賣捌タル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第十四條

(明治十五年第六十二號布告追加)

此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第十五條

(明治十五年第六十二號布告追加)

醫麴營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス右奉 勅旨布告候事

○第二款

醫麴營業稅則違犯證憑取調處分方

明治十六年十二月
第四十三號布告

酒造稅則醫麴營業稅則賣藥印紙稅則煙草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則アリト認知シ若クハ思料スルトキハ其場所ニ立入り犯則ノ証憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其官吏ハ主任タルノ証票ヲ携帶スヘシ

○第九章 醬油

○第一款

醬油稅則

明治十八年五月
第十號布告

醬油稅則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス
但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣津輕縣札幌縣根室縣ハ當分ニシテ施行セズ

醬油稅則

- 第一條 凡ソ醬油(溜リヲ併稱ス)ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一ヶ所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ
- 第二條 免許ヲ受ケタル者ハ左ノ通營業稅及ヒ造石稅ヲ納ムヘシ
營業稅 製造場一箇所ニ付一ヶ年 金五圓
造石稅 製造高一石ニ付 金壹圓
- 第三條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セントキハ管廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ
- 第四條 醬油製造人廢業スルトキハ管廳ニ届出免許鑑札ヲ還納スヘシ
- 第五條 免許鑑札ハ貸借賣買及ヒ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス
- 第六條 營業稅ハ一ヶ年ヲ二期ニ分チ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ免許鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ
- 第七條 造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ
第一期 五月三十一日限
一月一日ヨリ四月中檢査濟石數ニ係ル稅額

第三期 九月三十日限

五月一日ヨリ八月中檢査濟石數ニ係ル稅額

第三期 翌年二月三十一日限

九月一日ヨリ十二月中檢査濟石數ニ係ル稅額

第八條 醬油ハ製成ノ後五日以内ニ管廳ニ届出檢査ヲ受クヘシ

第九條 廢業ノ際未製成ノ醬油ヲ所持スル者ハ其節管廳ニ届出檢査ヲ受ケ其石數ニ就

キ納稅スヘシ但之ヲ同業者ニ賣渡シ又ハ二ヶ所以上ニ於テ製造スル者其一ヶ所以上ヲ廢シ尙ホ存スル所ノ製造場ニ之ヲ移ス者ハ其旨届出製成ノ上其製成者ニ於テ第八條ニ從ヒ檢査ヲ受クヘシ

第十條 檢査未濟ノ醬油ト檢査既濟ノ醬油トヲ混和スル者ハ其混和ノ日ヨリ五日以内ニ其旨管廳ニ届出更ニ總石數ヲ以テ檢査ヲ受ケ納稅スヘシ

第十一條 檢査既濟ノ醬油其造石稅納期内ニ非常ノ損害ニ罹リテ廢業ニ屬シ若クハ廢敗シタルトキハ直ニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ニ於テ檢査ヲ受ケ置輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他ノ證憑ト爲ルヘキ書類ニ在留領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ當初輸出ノ稅關ニ差出シ其造石稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請フコトヲ得但造石稅ノ下戻ヲ受タル醬

第三類 商法編 醬油稅則

油ヲ再輸入シタルトキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十三條 醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ

醬油製造原品買入帳

醬油仕込帳

醬油賣上帳

第十四條 醬油製造用ノ容器ハ使用以前管廳ニ届出検査ヲ受クヘシ

第十五條 醬油搾リ器械ニハ主任官ノ封緘ヲ受ケ置使用スルトキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ニ届出更ニ封緘ヲ請フヘシ

第十六條 醬油製造人ハ毎年一月卅一日迄ニ其年製造見込ノ石數並ニ其製造方法ヲ管廳ニ届出ヘシ新ニ開業セシ者ハ免許ヲ受ケタル翌日ヨリ十五日以内ニ之ヲ届出ヘシ

但見込石數ノ増減並ニ製造方法ノ變換ハ其時々届出ヘシ

第十七條 醬油製造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械ハ營業免許ヲ受ケタルトキ直ニ之ヲ管廳ニ届出ヘシ但増減ハ其時々届出ヘシ

第十八條 醬油製造人ハ他ノ依托ヲ受ケテ醬油ヲ代造シ又ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メ製造場ヲ貸スコトヲ許サス

第十九條 醬油製造人ハ自家用料ニ充ル醬油ト雖モ此規則ニ從ヒ検査ヲ受ケ其造石稅

ヲ納ムヘシ

第二十條 醬油卸賣又ハ小賣ヲ以テ營業トスル者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

第二十一條 醬油營業人ニ非スシテ自家用料ノ醬油ヲ製造スル者ハ同居ノ家族雇人一

人ニ付一个年一斗五升ノ割合ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十二條 醬油製造人ノ醬油仕込高並ニ仕込ニ屬スル豆麥其他ノ原品及ヒ營業ニ關

スル諸帳簿ハ主任官隨時之ヲ検査スルコトアルヘシ

第二十三條 主任官ニ於テ此規則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所

ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其主任タルノ證票ヲ携帯スヘシ

第二十四條 第一條ニ違ヒ免許鑑札ヲ受ケメシテ醬油ヲ製造シタル者ハ五圓以上五拾

圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ醬油及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代

金ヲ追徵ス

第二十五條 違ヒ卸賣人小賣人ニ於テ醬油ヲ製造シタル者亦本條ニ據リ處分ス

第二十六條 醬油ヲ隠蔽シタル者ハ製成ト未製成トニ拘ハラヌ其石數ニ相當スル造石

稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及ヒ容器ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其

代金ヲ追徵ス但検査既済ノ醬油ト検査未済ノ醬油トヲ混和シテ隠蔽シタル者ハ其總

計ノ代金ヲ追徵ス

第二十七條 醬油製造人ハ其製造場ノ周圍ニ糞尿ノ汚濁ヲ爲スルコトヲ得ス

第二十八條 醬油製造人ハ其製造場ノ周圍ニ糞尿ノ汚濁ヲ爲スルコトヲ得ス

第二十九條 醬油製造人ハ其製造場ノ周圍ニ糞尿ノ汚濁ヲ爲スルコトヲ得ス

第三十條 醬油製造人ハ其製造場ノ周圍ニ糞尿ノ汚濁ヲ爲スルコトヲ得ス

第三十一條 醬油製造人ハ其製造場ノ周圍ニ糞尿ノ汚濁ヲ爲スルコトヲ得ス

第三十二條 醬油製造人ハ其製造場ノ周圍ニ糞尿ノ汚濁ヲ爲スルコトヲ得ス

第三十三條 醬油製造人ハ其製造場ノ周圍ニ糞尿ノ汚濁ヲ爲スルコトヲ得ス

第三十四條 醬油製造人ハ其製造場ノ周圍ニ糞尿ノ汚濁ヲ爲スルコトヲ得ス

石數ニ就テ論ス

第二十六條 第八條第九條第十條ノ検査ヲ受ケシテ醬油ヲ賣捌貸渡讓渡又ハ自用シタル者ハ其造石税ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ仍ホ其代金ヲ追徴ス

第二十七條 第十八條ニ違ヒ他ノ依託ヲ受ケテ醬油ヲ代造シ又ハ製造場ヲ貸シタル者又ハ第二十一條ノ制限ヲ超ヘテ醬油ヲ製造シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及ヒ容器ヲ沒收ス

第二十八條 第五條ニ違ヒ免許鑑札ヲ賣買貸借及ヒ讓渡讓渡シタル者第十三條ニ違ヒ帳簿ヲ調成セス若クハ帳簿ノ登記ヲ詐リタル者第十四條ニ違ヒ検査ヲ受ケスシテ容器ヲ使用シタル者又ハ第十五條ニ違ヒ開封ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第三條第四條第八條第九條第十條第十五條但書第十六條又ハ第十七條ノ届出ヲ怠リタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十一條 醬油製造人ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○第十章 菓子

○第一款 菓子税則

明治十八年五月 第十一號布告

菓子税則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分ニテ施行セズ右奉 勅旨布告候事

菓子税則

第一條 菓子營業者ヲ分テ左ノ三種トス

菓子製造人 菓子ヲ製造シ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ

菓子卸賣人 菓子ヲ買入レ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ

菓子小賣人 菓子ヲ需用人ニ賣渡ス者ヲ云フ

第二條 菓子營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業鑑札ヲ受クヘシ但一人ニテニテ所以上ノ營業場ヲ設クル者又ハ二種以上ノ營業ヲ兼ムル者ハ各別ニ營業鑑札ヲ受クヘシ

第三條 菓子營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲サントスルトキハ管廳

ニ願出仕入鑑札又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帯スヘシ

第四條 鑑札ヲ受クルトキハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

營業鑑札料 一枚ニ付金貳拾錢

仕入鑑札料 一枚ニ付金拾 錢

出賣鑑札料 一枚ニ付金拾 錢

第五條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セントキハ管廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ但前條ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

第六條 菓子營業者廢業スルトキハ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第七條 鑑札ハ貸借買賣又ハ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ但二種以上ノ營業ヲ兼スル者ハ其稅額ノ多キモノニ就キ納稅スヘシ

製造營業稅

雇人十人以上アル者 一ケ年 金貳拾圓

雇人六人以上アル者 一ケ年 金拾五圓

雇人三人以上アル者 一ケ年 金拾 圓

雇人二人以下アル者 一ケ年 金五 圓

雇人ナキ者 一ケ年 金壹 圓

卸賣營業稅

雇人十人以上アル者 一ケ年 金貳拾圓

雇人六人以上アル者 一ケ年 金拾五圓

雇人三人以上アル者 一ケ年 金拾 圓

雇人二人以下アル者 一ケ年 金五 圓

雇人ナキ者 一ケ年 金壹 圓

小賣營業稅

雇人三人以上アル者 一ケ年 金七 圓

雇人二人以下アル者 一ケ年 金三 圓

雇人ナキ者 一ケ年 金壹 圓

二種以上ヲ兼タル營業者ノ雇人ハ各種ヲ分タス之ヲ合算スルモノトス
露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其營業稅ヲ免除ス

第九條 營業稅ハ一ケ年ヲ二期ニ分テ前半分ハ其年一月三十一日限後半分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第十條 營業稅前半年分ハ其年一月一日後半年分ハ同ク七月一日ノ雇人ノ現員又新ニ開業スル者ハ其營業鑑札ヲ受クルトキノ現員ニ據リ定ムヘシ但雇人増加シタルトキハ該期ノ増稅ヲ納ムヘシ

第十一條 菓子製造人ハ製造稅トシ菓子賣上金高百分ノ五ヲ左ノ期限ニ從ヒ納ムヘシ

第一期 一月一日ヨリ六月三十日迄賣上金高ニ係ル分 其年八月三十一日限

第二期 七月一日ヨリ十二月三十日迄賣上金高ニ係ル分 翌年二月二十八日限

半年分ノ賣上金高三拾圓未滿ノ者及露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其製造稅ヲ免除ス

第十二條 菓子營業者ハ毎年一月一日七月一日現在雇人ノ員數氏名ヲ取調其月十五日限又新ニ開業スル者ハ出願ノ時管廳ニ届出ヘシ但増員アル片ハ其時々之ヲ届出ヘシ

第十三條 菓子製造人ハ毎年其製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通管廳ニ届出ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス

一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分 其年七月十五日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分 翌年一月十五日限

第十四條 菓子製造人ハ菓子并ニ其製造原品ノ賣買ヲ帳簿ニ記載シ置ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス

第十五條 菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及營業物品ハ主任官隨時之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第十六條 主任官ニ於テ此規則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り証憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但主任タルノ證票ヲ携帯スヘシ

第十七條 第二條ニ違ヒ營業鑑札ヲ受タヌ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍^モ現在ノ菓子及製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キル者ハ其代金ヲ追徴ス

第十八條 第十二條第十三條ノ届書又ハ第十四條ノ帳簿ニ詐僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帶セシメテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ貸借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第五條第六條第十二條第十三條ノ届出ヲ怠リタル者及ヒ第十四條ノ帳簿ニ記載ヲ怠リタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十二條 菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○第十一章 煙草

○第一款 煙草稅則 明治十五年十二月 第六十三號布告

明治八年(十月)第百五十號布告煙草稅則別紙ノ通改定シ來十六年七月一日ヨリ施行ス
但明治十二年(二月)第十四號布告第一項ハ廢止ス

煙草稅則

第一章 煙草營業

第一條 煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

煙草製造人

煙草仲買人

煙草小賣人

第二條 刻煙草又ハ卷煙草等ヲ製造スル者ヲ煙草製造人トス但貸銀ヲ受テ他ノ製造人ノ煙草ヲ製造スル者ハ此限ニ在ラス

第三條 未製造ノ煙草ヲ買入レ之ヲ製造人又ハ同業者へ賣渡シ及製造煙草ヲ買入レ之ヲ小賣人又ハ同業者へ賣渡ス者ヲ煙草仲買人トス

第四條 製造煙草ヲ自用者へ賣捌ク者ヲ煙草小賣人トス

第二章 營業鑑札

第五條 煙草營業者ハ管轄廳へ願出營業鑑札ヲ受ク可シ但製造仲買及小賣ヲ兼業スルモノハ各其營業鑑札ヲ受ク可シ

第六條 煙草營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲ストキハ管轄廳ニ願出

仕入又ハ出賣鑑札ヲ受ク各自之ヲ携帶ス可シ

第七條 煙草營業者ハ鑑札ヲ受クルトキ左ノ通鑑札料ヲ納ム可シ

煙草營業鑑札料

煙草仕入鑑札料

煙草出賣鑑札料

第八條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セントキハ之ヲ管轄廳ニ届出其再渡又ハ書換テ請フ可シ但前條ノ通鑑札料ヲ納ム可シ

第九條 營業人廢業スルトキハ管轄廳へ届出鑑札ヲ還納ス可シ

第十條 鑑札ハ貸借賣買及讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 營業稅

第十一條 煙草營業者ハ左ノ通營業稅ヲ納ム可シ

但兼業スル者ハ各營業稅ヲ納ム可シ

煙草製造營業稅

煙草仲買營業稅

煙草小賣營業稅

壹箇年金拾五圓

壹箇年金拾五圓

壹箇年金五圓

第三類 商法編 煙草稅則

第十二條 烟草營業稅ハ年々兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限管轄廳ニ納ム可シ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受ル節其半年分ノ營業稅ヲ納ム可シ

第四章 印稅

第十三條 烟草製造人刻烟草ヲ製造スルトキハ左ノ量目ニ從ヒ玉造紙包又ハ箱詰ニ裝置シ相當ノ印紙ヲ用フ可シ

量目	印稅	卸賣定價百匁ニ付貳拾五錢未滿ノ分	同	卸賣定價百匁ニ付貳拾五錢以上五拾錢未滿ノ分	同	卸賣定價百匁ニ付五拾錢以上ノ分
五匁	貳厘		三厘		四厘	
十匁	四厘		六厘		八厘	
十五匁	六厘		九厘		壹錢貳厘	
二十匁	八厘		壹錢貳厘		壹錢六厘	
三十匁	壹錢貳厘		壹錢八厘		貳錢四厘	
五十匁	二錢		三錢		四錢	
百匁	四錢		六錢		八錢	

第十四條 刻烟草ヲ玉造ニ爲ストキハ帶印紙ヲ以テ結束シ其封緘ノ箇所及ヒ印紙ノ形

紋ヘカケ製造人ノ印章ヲ以テ消印シ箱詰又ハ紙包ハ封緘ノ要部ニ印紙ヲ貼用シ製造人ノ印章ヲ以テ之ニ消印ス可シ

第十五條 刻烟草ヲ五匁以下崩シ賣ニ爲ストキハ貳厘ノ帶印紙ヲ以テ結束ス可シ

第十六條 刻烟草ヲ玉造又ハ崩シ賣ニ爲ストキハ帶印紙ノ外他ノ紙類ヲ以テ之ヲ結束スルコトヲ得ス

第十七條 外國ニ輸出スル烟草ニ限リ輸出ノ節稅關ニ於テ戻稅トシテ印稅相當ノ金額ヲ輸出人ヘ下付ス可シ

第十八條 烟草印紙ノ種類價格左ノ如シ

帶印紙	一枚	價
黑	同	貳厘
淡赭色	同	三厘
黃	同	四厘
赭	同	六厘
萌黃色	同	八厘
淡青色	同	九厘
茶褐色	同	壹錢貳厘
淡紅色	同	壹錢六厘

同	桔梗色	同	壹錢八厘
同	橙黃色	同	貳錢
同	老綠色	同	貳錢四厘
同	濃青色	同	三錢
同	黃綠色	同	四錢
同	紫色	同	六錢
同	赤色	同	八錢

第十九條 煙草印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得ル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十條 印紙貼用ノ細則ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第五章 雜則

第二十一條 刻煙草ハ每個必ス製造人ノ氏名住所ヲ附記ス可シ

第二十二條 煙草營業者ハ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ所持スルコトヲ得ス仕入出賣ヲ爲スモノモ亦同シ

第二十三條 煙草營業者ハ左ノ帳簿ヲ調製ス可シ其記載方ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

煙草製造人

煙草製造帳

煙草仲買人

煙草買入帳 煙草賣渡帳

煙草小賣人

煙草買入帳

第二十四條 煙草營業者ハ管轄廳ニ願出印紙買入鑑札ヲ受テ印紙買入ヲ爲ス毎ニ其鑑札ヲ携帶シ印紙賣捌人ニ示ス可シ

第二十五條 印紙賣捌人ハ印紙買受人ノ鑑札ヲ照査シテ其賣渡高及買受人ノ氏名住所賣渡ノ年月日ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二十六條 煙草營業者ハ煙草印紙ノ買受高其買入場所及使用高ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二十七條 煙草營業者ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ煙草買入高賣捌高製造高並ニ印紙買入高及六月三十日ノ煙草并印紙ノ現在高ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツ可シ

第二十八條 印紙賣捌人ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ印紙賣捌高并買受人ノ氏名住所ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツ可シ

第二十九條 烟草營業者ハ營業ノ鑑札ヲ戶外ニ掲出スヘシ但書式ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第三十條 印紙買入鑑札ハ貸借買賣及譲渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 未製造ノ烟草ハ烟草營業者ニアラサル者ニ賣渡スコトヲ得ス但貸與譲與ノ名義ヲ以テスルモ亦同シ

第六章 検査

第三十二條 烟草營業者ノ帳簿及其所持ノ烟草ハ主任官臨時之ヲ検査ス可シ

第三十三條 検査官吏ハ検査ノ時官ノ印章ヲ携帯シ營業者ノ求ニ應シテ之ヲ示ス可シ

第七章 罰則

第三十四條 營業鑑札ヲ受ケスシテ烟草營業ヲ爲ス者ハ營業稅違脱ニ係ル金高三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ烟草ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第三十五條 烟草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ所持シ又ハ賣渡シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其賣渡代價ヲ追徴ス之ヲ貸與譲與シタル者モ同ク其罪ヲ論ス

第三十六條 帳簿ノ登記ヲ詐テ脱稅ヲ謀リ若クハ脱稅ノ便ヲ與ヘタル者又ハ届書ニ詐偽ノ記載ヲ爲シタルモノハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 烟草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ買受ケタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス之ヲ借受譲受ケタル者モ同ク其罪ヲ論ス

第三十八條 第六條第十四條第十五條第二十一條第二十四條ニ違犯シタル者及ヒ第二十三條ニ違犯シテ帳簿ノ調製ヲ怠ル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル烟草ハ之ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第三十九條 管轄廳ノ許可ヲ得スシテ印紙ヲ發賣スル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其印紙ヲ沒收ス之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 未製造ノ烟草ヲ烟草營業者ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第十三條ノ烟草裝置區分ニ違フ者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル烟草ヲ沒收ス

第四十二條 鑑札ヲ買賣借又ハ譲受譲渡シタル者及第二十五條第二十六條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 烟草自用者ニシテ未製造ノ烟草又ハ無印紙ノ刻烟草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十四條 第八條第九條第二十七條第二十八條ノ届出ヲ怠リタル者及第二十九條ニ

第三類 商法編 烟草稅則

違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十五條 第二十條第二十三條第二十九條ニ依リ定メタル布達ニ違犯シタルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十六條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十七條 烟草營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

△(明治十六年十二月第四十一號布告追加)

明治十五年^{十二月} 第六十三號布告烟草稅則中左ノ通追加ス

第十三條

三十匁ノ次へ

四十匁

五十匁ノ次へ

八十匁

第十八條

同濃青色ノ次へ

壹錢六厘

貳錢四厘

三錢貳厘

三錢貳厘

四錢八厘

六錢四厘

同 淡黒色

同三錢貳厘

同黃綠色ノ次へ

同 嬌栗色

同四錢八厘

同紫色ノ次へ

同 朱色

同六錢四厘

右奉 勅旨布告候事

○第二款 煙草印紙貼用法

明治十六年六月 太政官第二十號布達

明治十五年^{十二月} 第六十三號布告煙草稅則中左ノ通心得ヘシ

第一項 稅則第二條製造人ハ未製造ノ煙草ヲ耕作人又ハ仲買人ヨリ買入ノ之ヲ製造シ仲買人又ハ小賣人へ賣渡スヲ云フ

第二項 稅則第三十一條煙草(營業者)トアルハ製造人仲買人ノミヲ云

第三項 稅則第二十條煙草印紙ノ貼用ハ第一號雛形ノ通之ヲ貼用シ其價格及量目ヲ付記スヘシ帶印紙ハ結束ノ上兩端ニ餘紙アルモ之ヲ截斷スヘカラス

第四項 稅則第二十一條製造人ノ氏名住所ハ箱詰紙包ハ其見易キ箇所帶印紙ハ其印紙彩紋ノ側面へ記載スヘシ

第五項 稅則第十四條煙草印紙ノ消印ハ七分己上ノモノヲ用キ墨肉ヲ以テ捺捺スヘシ
第六項 稅則第十七條ニ據リ輸出煙草ノ戻稅ヲ請フ者ハ第十三條ノ印稅區別ニ依リ裝
置種類ヲ分チ箇數量目及ヒ印紙稅金額ヲ仕譯ケタル書面ヲ以テ其輸出港ノ稅關へ出
願シ檢査ヲ受クヘシ

第七項 稅則第二十三條ノ帳簿ニハ左ノ件々ヲ記載スヘシ
製造人

煙草製造帳

年月日種類及ヒ未製造煙草何程ヲ何某ヨリ買入レ何
程ニ製造シ其裝置種類定價區別量目箇數代價及ヒ賣
渡ノ數等ヲ記スヘシ

仲買人

煙草買入帳

年月日種類價格量目及ヒ賣主ノ氏名住所ヲ記スヘシ
但未製造煙草ト製造煙草トハ帳簿若クハ記入口譯ヲ
異ニスヘシ己下之ニ準ス

同

煙草賣渡帳

年月日種類價格量目及ヒ買主ノ氏
名住所ヲ記スヘシ但書前ニ同シ

小賣人

煙草買入帳

未製造品買入ノコトヲ除クノ外
總テ仲買人ノ帳簿ト同シ

第八項 稅則第二十七條第二十八條ノ届出ヲ爲ストキハ第二號雛形ニ倣ヒ之ヲ調製ス
ヘシ

第九項 稅則第二十九條營業人ノ標札ハ第三號雛形ニ倣ヒ各自之ヲ調製スヘシ

第十項 煙草製造人ハ其製造所及ヒ器械ノ員數増減共其時々管轄廳へ届出ヘシ但賃切
ニ付スルモノハ其賃切人ノ氏名住所并ニ使用スル器械ノ員數増減トモ其時々管轄廳
へ届出ヘシ

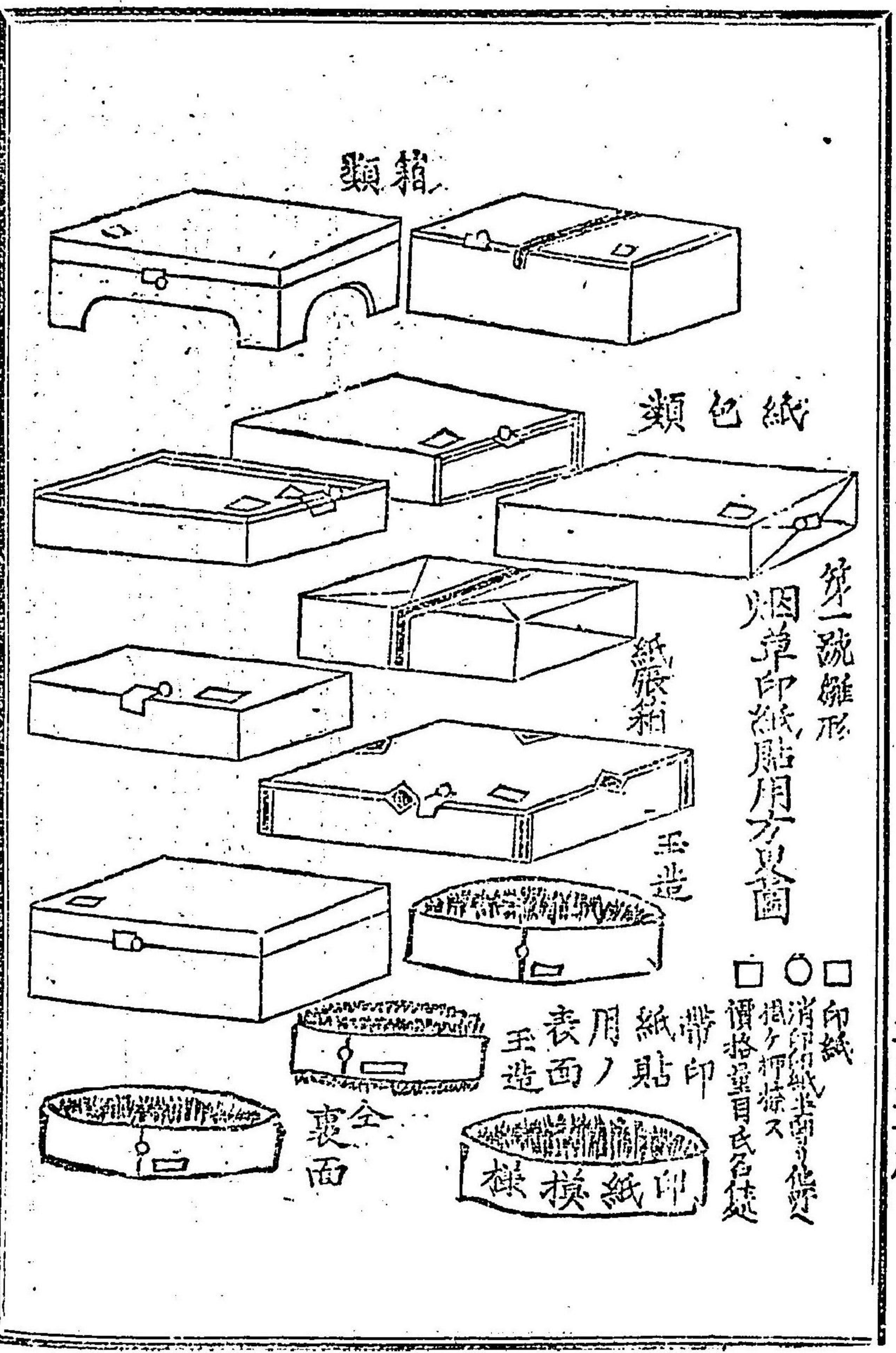
第十一項

仲買人小賣人ニシテ裝置煙草ヲ五匁以下崩賣ニ爲ストキハ第十五條ニ據リ

結束スヘシ但此場合ニ於テハ仲買人小賣人ハ第四項第五項ニ據リ自己ノ氏名住所ヲ

付記スヘシ

右布達候事



第二號雛形

明治何年何月ヨリ
何年何月マテ十ヶ年分煙草及印紙出入高計算帳

未製造煙草越	全買入高	全賣出高	差引殘高	全買入高	全賣出高	差引殘高	印紙越	全買入高	全賣出高	差引殘高	右之通相違無之候也
											年月日

府知事宛
縣令宛

製造
仲買
小賣
人住所姓名

第三號雛形

鑑札番號	(製造)	營業
烟草	(仲買)	營業人住所姓名
	(小賣)	

木札寸法巾八寸堅二尺九寸

○第三款 烟草稅則違犯證憑取調處分法 明治十六年十二月 第四十二號布告

酒造稅則舊麵營業稅則賣藥印紙稅則烟草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則アリト認知シ若クハ思料スルトキハ其場所ニ立入り犯則ノ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其官吏ハ主任タルノ証票ヲ携帶スヘシ

○第十二章 賣藥

○第一款 賣藥規則 明治十年一月 第七號布告

賣藥規則別冊之通相定候條此旨布告候事

賣藥規則

第一章

第一條 (明治十年十二月第八十九号布告改正)此規則ニ稱スル所ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥浴劑散藥煎藥等ヲ調製シ效能書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ

第二條 (明治十一年九月第廿七号布告改正)此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量效能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

△(明治十五年十月第五十二号布告但書追加)但免許ヲ受ケタルモノニテ所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其ケ所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條 (明治十一年九月第廿七号布告改正)管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ別ハラス取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サ、ルヘシ

第四條 第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スル者其由ヲ届出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第五條 (明治十年十二月第八十九号布告改正)賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及營業者ト取結ヒタル約定書トヲ添ヘ其管轄廳へ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第六條 賣藥營業者及請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サレシメ
ソト欲スルハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持ス
ヘシ

第八條 營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限ト
ス此期限ヲ過キ尙免許ヲ得ソト欲スル者ハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ
第九條 第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新鑑札記
載ノ月ヲ以テ一期ノ初月トナスヘシ

第十條 (明治十一年九月第廿七号布告改正) 免許期限内ト云ヒ其製藥第三條ニ掲クル
處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノコアル時ハ直ニ
鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコアルヘシ

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セララル、時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サ
ス

第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄
廳ヘ届出再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スルモノハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出

シ名前書換ヲ請フヘシ

第十四條 (明治十年十二月第八十九號布告改正) 賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其
相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳ヘ鑑札名前書換ヲ請フヘシ

第十五條 賣藥營業者廢業シ若シクハ禁止セラレタルハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於
テモ總テ諸鑑札ヲ返納スヘシ

第二章

第十六條 (明治十四年四月第廿六號布告改正) 賣藥營業者ハ左ノ通税金并鑑札料ヲ上
納スヘシ

賣藥營業稅 藥劑一方ニ付一ヶ年 金貳圓

右鑑札料 藥劑一方ニ付一枚 金貳拾錢

△(明治十五年十月第五十二號布告追加)

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其ヶ所毎ニ本文ノ税金并鑑札料ヲ納ム
ヘシ

第十七條 水火盜難ニ依リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納
ムヘシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ七月三十一日限後半年分ハ翌年一月三

十一日限り鑑札料ハ其都度并ニ管轄廳ニ上納スヘシ

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分應業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限り月割ヲ以テ税金ヲ納ムヘシ
(明治十一年九月第廿七號布告ヲ以テ但書中有毒ヲ有害ニ改正セラル)

第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ請賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ術惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十三條 無鑑札ニテ營業スルモノ又ハ營業者ニシテ私ニ請買者ニ藥劑ヲ調製セシ

ムル者又ハ請買者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付貳拾五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贗造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

○第二款 藥用阿片賣買并製造規則
明治十一年八月
第二十一號布告

明治三年八月布告生阿片取扱規則ヲ廢シ藥用阿片賣買并製造規則左ノ通相定候條此旨布告候事

但施行時日ハ追テ内務省ヨリ可相達候事

藥用阿片賣買并製造規則

第一條

阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許可ス

第三類 商法編 藥用阿片賣買并製造規則

第二條

藥用阿片ハ其内國産若クハ外國産ヲ論セス總テ内務省ニ於テ其品位ヲ定メテ之ヲ買上
タ然ル後各司藥場ヨリ阿片卸シ賣特許藥舖ニ拂下ケ之ヲ賣捌カシムヘシ
但司藥場ヲ置カサル地方ニ於テハ該地方廳ヨリ之ヲ拂下クヘシ

第三條

各司藥場ヨリ拂下ケル所ノ阿片ハ量目一匁ヲ以テ一器トシ每器司藥場ノ印紙ヲ貼附ス

第四條

地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ度リ一管内相當ノ人員ヲ限リ藥舖ノ身元人物ヲ選ミテ内務
省ニ稟請シ鑑札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付スヘシ

但廢業ノ者アル節ハ其鑑札ヲ内務省ニ返納スヘシ

第五條

特許鑑札ヲ受ケタル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄廳ヨリ管内ノ公私病院醫師藥舖一般ニ報
告スヘシ

但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速ニ報告スヘシ

第六條

特許鑑札ヲ受ケタル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲ケ置クヘ

シ

第七條

特許ヲ受ケタル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ毎年兩度最寄司藥場
方ハ該地方廳
テ其拂下ヲ請フヘシ但欲乏ノ節ハ臨時拂下ケヲ請フコトヲ得

第八條

凡ソ醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スルハ其量目並ニ其住所姓名及年
月日
長若クハ副長ノ姓名ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求スヘシ
特許藥舖ニ於テハ之ヲ賣渡ニ其量目一度ニ四拾匁ヲ超ヘカラス

但病院及醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スルト一般藥舖相互ニ賣
買スルトハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ證書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ超ヘカ
ラス

第九條

凡テ内外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥舖并ニ一般藥舖ニ於テ一切
之ヲ賣渡スヘカラス

第十條

特許藥舖ハ每半年分阿片拂受并ニ壹匁以上賣捌ノ高及ヒ買入ノ住所姓名并ニ壹匁以下

賣捌ノ總高等明細表正副二通ヲ作リ其管轄廳ニ差出スヘシ尤壹匁以下ノ分ハ平常其明細ヲ簿記シ置臨時取調ノ用ニ供スヘシ

但管轄廳ハ其一通ヲ內務省ニ進達スヘシ

第十一條

醫師病院一般藥舖ニ於テハ每半年必シモ前條明細表ヲ差出スヲ要セスト雖モ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

第十二條

藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ罌粟ノ種類及ヒ培養採收製造ノ方法ヲ記シ管轄廳ヲ經由レテ內務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十三條

阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名調印シタル願書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ內務省ノ買上テヲ願フヘシ右買上テヲ受クルノ外決シテ内外人民ニ販賣スルコトヲ許サス

但司藥場ニ於テ其品位藥用ニ適セサル者トスル片ハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通知シ其阿片ハ其廳ニ預リ置クヘシ

第十四條

阿片買上テ及ヒ拂下ノ代價ハ歲ノ豐凶及ヒ外國一般ノ相場等ニ因テ高低アルヘシト雖モ其品位ニ應シテ價格ヲ定ムルハ該藥主用ノ性分即チ「モルヒチ」ノ多少ニ因ルヘシ

第十五條

內務省ニ買上テ及ヒ拂下クル所ノ阿片ハ百分中ニ「モルヒチ」六分以上十一分ニ至ルマテヲ含有スル者ニ限ルヘシ

第十六條

此規則ニ違犯スル者ハ其犯情ニ從ヒ阿片賣買若クハ製造ヲ禁シ其所有ノ阿片ヲ沒收シ百五十拾圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

○第三款 藥用阿片賣買并製造規則施行期限

明治十一年十一月內務省甲第二十七號布達

本年(八月)太政官第二十一號布告阿片賣買並製造規則ノ儀ハ來明治十二年五月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

○第四款 藥品取扱規則

明治十三年一月 第一號布告

藥品取扱規則左ノ通相定來二月十五日ヨリ施行シ明治十年(二月)第二十號布告毒藥劇藥取扱規則ハ右同日限リ相廢候條此旨布告候事
藥品取扱規則

第一條 凡ノ藥品中最モ注意シテ精選スヘキモノヲ第一類注意トシ其性効峻烈ニシテ僅少ノ分量ト雖モ直チニ性命ヲ傷害スルニ足ルヘキモノヲ第二類毒トシ其性効第二類ノ如ク峻烈ナラサルモ用量ニ因テ容易ニ危害ヲ來スヘキモノヲ第三類劇トス其類目別表ノ如シ

但新ニ發見及ヒ舶齋シタル藥品ハ先ツ最寄司藥場ニ出シテ試験ヲ受ケ其告示スル所ニ從フヘシ

第二條 第一類藥品ハ其性効ノ緩劇ニ拘ハラス若シ精良ナラサルトキハ醫師ノ目的ヲ誤リ以テ人命ヲ危フスルカ故ニ其粗製品故意ニ他物ヲ混シタルニアラス全ク化學製造上或ハ採收ノ際其法疎漏ニシテ純精ナラサル者ノハ之ヲ藥用トシテ販賣スヘカラス

但藥舖ニ於テ自ヲ其良否ヲ鑑別シ能ハサルトキハ最寄司藥場ニ請ヒ試験ヲ受クルコトヲ得(十七年二十五號布告ヲ以文中削除)

第三條 第一類中ノ粗製品ト雖モ仍ホ學術上工職上等ノ用ニ供スルニ足ルモノハ粗製ノ字ヲ其器ニ明記シ之ヲ販賣スルコトヲ得

第四條 第二類第三類ノ藥品ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スルノ外醫師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ品名量數需用ノ目的年月日及ヒ住所姓名ヲ詳記シタル證書ヲ以テスルニアラサレハ決シテ販賣或ハ授與スヘカラス

但證書處方書ハ之ヲ保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ且本條ノ手續ニ依ルモノト雖モ幼稚ノモノ其他不安心ト認ムルモノニハ一切交付スヘカラス

第五條 第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルトキハ其器若クハ包紙ニ必ス普通ノ名稱ヲ記シ且第二類ハ毒ノ字第三類ハ劇ノ字ヲ明書スヘシ

但醫師ノ處方書ニ據ラスシテ封緘ヲ開キタル第二類第三類ノ藥品ヲ小賣若クハ授與スルトキハ本文ノ外更ニ適應ノ器ニ入レ密閉封印スヘシ

第六條 第二條第四條本文ニ背戻シ又ハ贗品故意ニ他ノ物品ヲ本品ニ混合シテ其容量品ニ擬シ或ハ名號ヲ變換スルモノ、類ヲ云フ總テ酸敗風化或ハ潮解シ若クハ黴變ヲ生シ陳敗ニ傾ク等換スルモノ、類ヲ云フニ因リ其藥品本性ノ効力ヲ變シ或ハ其効力ヲ失スルモノ云フヲ販賣スル者ハ其贗敗品ヲ没入シ三拾圓以上五百圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年半以下ノ懲役第一條但書第四條但書及第三條第五條ニ背戻スルモノハ壹圓以上貳拾五圓以下ノ罰金若クハ一日以上二十五日以下ノ懲役ヲ科シ又ハ罰金懲役ヲ併セ科スヘシ

第七條 右ノ罰則ヲ再犯スルモノハ其本罰ノ最多限ニ二倍以下ノ罰ヲ科シ三犯スルモノハ本罰ノ最多限ニ三倍以下ノ罰ヲ科スヘシ

第一類 注意表

第三類 商法編 藥品取扱規則

印度大麻葉及其製劑

麥奴及其製劑

乳酸鐵

吐根

礞砂精(アノモニア水)

カラハル豆及其製劑

ユザウム

沃土鐵舍利別

第一コロール汞(甘汞)

炭酸アノモニヤ(礞砂華)

蔓陀羅華及其製劑

芫菁(斑猫)

コロラルヒドフロイト

格魯董篤實及其製劑

阿片製劑

醋酸アノモニア水(ミンデレリ精)

菴蓍葉并根及其製劑

番木鱉子及其製劑

ペアソチ

吐酒石

チキタリス葉及其製劑

肝油

沃土加里

第一沃土汞(黃色沃汞)

第二コロール汞(昇汞、猛汞)

老利爾結兒私水并苦扁桃水

蒴刺巴脂并球根及其製劑

コロ、フォルム

格魯失屈謨實及其製劑

アトロヒ子鹽類

サントニー子

薩爾撒根

カリシール酸及鹽類

規尼涅鹽類

硝酸銀

樟酸セリウム

エーテル(アール)

ヒヨス葉及其製劑

莫爾比涅鹽類

第二類毒藥表

クラーレ(矢毒)

亞砒酸(異名白砒石、礬石)

其製劑及砒抱合物(鷄冠、雄黃、雌黃ノ類)

揮發苦扁桃油 有毒性アルカロイド并其鹽類

ニコチ子、チキタリス、ナルセー子、ヴエラトリ子、ブルン子、コニー子、コデー子、アト

ロヒ子、アコニチ子、エメチ子、ヒヨレアミ子、モルヒ子、ストリキニー子等

猛劇汞劑 白降汞、第一沃汞、第二沃汞、昇汞、赤降汞、硝酸亞酸化汞、青酸汞、生々乳

青酸及其製劑

機那皮

綿馬及其製劑

失鳩答草及其製劑

臭素加里(アロームカリウム)

鹽基性硝酸蒼鉛

蓖麻子油

水素還元鏡

カンタリギー子

第三類劇表

印度大麻葉及其製劑
 番木鱧及其製劑
 麥奴及其製劑
 ヘルレボル根及其製劑
 吐酒石其他安質莫尼製劑
 藤黃
 硫酸
 苛性加里(腐蝕加里)
 芥子油及芥子精
 ヨヂウム及其製劑
 ヨヂウム鐵
 双鸞菊球根(烏頭)及其製劑
 ヲエヲトリ根
 蒺刺巴脂並球根及其製劑
 芫菁(班猫)及其製劑

菘蓍葉並根及其製劑
 巴豆及巴豆油
 ポトヒリオン
 吐根及其製劑
 毒高昔及其製劑
 チキタリス葉及其製劑
 カラハル豆及其製劑
 苛性曹達(腐蝕曹達)
 甘汞及礬粉、汞灰散、藍丸
 沃土加里
 コーロホルミウム
 老利爾結兒私水并苦扁桃水
 過酸滿俺酸加里及曹達
 蔓陀羅莖葉及其製劑
 ケソソソート

プロミウム(ブローム) 臭素

コルシクム實並根及製劑
 コロハフオラム(迷暎水)
 コロラルヒドラーイト
 コローム酸加里及重コローム酸加里
 亞鉛華其他亞鉛製劑
 醋酸鉛(鉛糖)其他鉛製劑
 次醋酸銅其他銅製劑(酸化銅)
 硝酸銀
 臭素加里
 鹽化金ナトリウム
 鹽基性硝酸銻其他銻製劑
 ヒヨス葉及其製劑
 瑞香皮及其製劑

コローム酸
 コロント實及其製劑
 コロトソコロラルヒドラーイト
 コロダイソ
 阿片及其製劑
 サビナ葉及其製劑
 サントニーチ
 硝酸(硝石精)
 失鳩答葉及其製劑
 鹽酸(海鹽精)
 鹽化水素酸
 鹽酸重土其他重土製劑
 エウホルピウム及其製劑
 石炭酸
 スカンモニー脂

第五款 繪具染料品賣買法

明治十三年三月内
 務省乙第十號達

本年一月太政官第一號ヲ以テ藥品取扱規則公布相成候ニ付テハ繪具染料等モ第二類並ニ第三類表中ニ掲載有之モノハ該規則ニ照シ賣買可致等ニ候條心得違無之様可取計此旨相達候事

○第六款 石炭酸販賣法 明治十三年五月 第二十三號布告

石炭酸其他劇藥ハ本年一月第一號布告藥品取扱規則第四條ニ照シ可取扱ノ處傳染病流行ノ際ハ内務省布達ニ從ヒ消毒藥ニ調製候分ニ限リ藥舖ニ於テ販賣差許候條販賣望ノ者ハ其管轄廳ニ可願出此旨布告候事

○第七款 賣藥印紙稅則 明治十五年十月 第五十一號布告

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一定價壹錢迄	印稅壹厘	一全 貳錢迄	全 貳厘
一全 三錢迄	全 三厘	一全 五錢迄	全 五厘

一全 拾錢迄 全 壹錢

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス

第二條 印紙種目ハ左ノ如シ

壹厘	淡黑色	貳厘	青色
三厘	黃色	五厘	茶褐色
壹錢	赭色	貳錢	綠色
三錢	濃青色	四錢	橙黃色
五錢	紫色	拾錢	深紅色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス

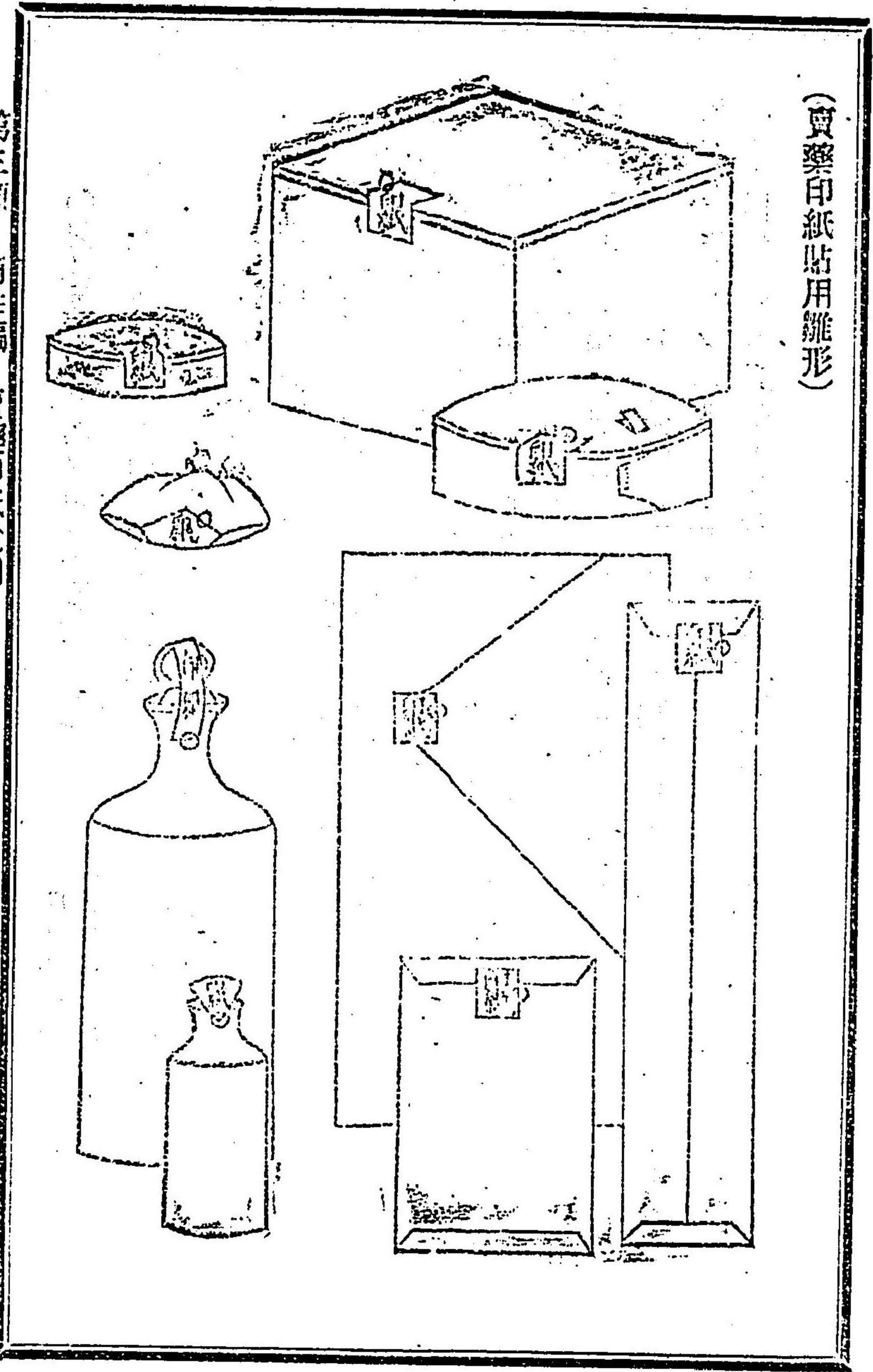
第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 罰賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタルモノハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第三類 商法編 賣藥印紙稅則

第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス
 第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍
 ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍
 ホ其品ヲ沒收ス
 右奉 勅旨布告候事

(賣藥印紙貼用雜形)



○第八款 賣藥印紙稅則違犯證憑取調處分方

明治十六年十二月
第四十三號佈告

酒造稅則醫藥營業稅則賣藥印紙稅則煙草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則アリト認知シ若クハ思料スルトキハ其場所ニ立入り犯則ノ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其官吏ハ主任タルノ証票ヲ携帶スヘシ

○第十三章 諸業

○第一款 同業組合準則

明治十七年十一月
農商務省第三十七號達

同業者組合ヲ結ヒ規約ヲ定メ營業上福利ヲ増進シ濫惡ノ弊害ヲ矯正スルヲ圖ル者不尠候處往々其目的ヲ達スルヲ能ハサル趣ニ付今般同業組合準則相定條向後組合ヲ設ケ規約ヲ作り認可ヲ請フ者アルキハ此準則ニ基ツキ可取扱此旨相達候事

但認可ノ都度當省ニ届出ツヘシ

第一條 農工商ノ業ニ従事スル者ニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組合ヲ設ケントスル片ハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作り管轄廳ノ認可ヲ請フ可シ

第二條 同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的ト爲スコ

第三條 同業組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

第一項 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱

第二項 組合ノ地區及事務所ノ位置

第三項 目的及方法

第四項 役員ノ選任法及權限

第五項 會議ニ關スル規程

第六項 加入者及退去者ニ關スル規程

第七項 費用ノ徵收及賦課法

第八項 違約者處分ノ方法

右ノ外組合ニ於テ必要トナス事項

第四條 組合ノ設アル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スヘシ

但事業ノ規模及趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キカ或ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アル片ハ管轄廳ニ申出テ其認定ヲ請フ可シ

第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 同業組合ハ總テ其事業及費用決算表ヲ毎年管轄廳ニ報告スヘシ

第七條 規約ヲ改正スル片ハ更ニ認可ヲ請フ可シ

第三類 商社編 同業組合準則

第八條 分立又ハ合併スル片ハ更ニ規約ヲ作リ認可ヲ請フ可シ

第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ル片ハ管轄廳ノ認可ヲ請フ可シ

但其聯合ニ府縣以上ニ渉ル片ハ開會地管轄廳ヲ經由シ農商務省ノ認可ヲ請フ可シ
(參看)

同業組合ノ儀ニ付伺 島根縣伺(明治十八年四月廿九日)

客年貴省第三拾七号ヲ以テ同業組合準則御達相成候ニ付テハ心得方左ニ

第一條 準則第一條ニ農工商ノ業ニ從事スル者云々トアレドモ漁業者又ハ湯屋髮結渡世ノ如キモ亦其中ニ含蓄スル乎

第二條 同業者四分二以上ノ同意ヲ以テ組合ヲ設ケ管轄ノ認可ヲ得タル上ハ其地區内ニ於テ同業ヲ營ム者ハ必ス規約ニ加盟セサルヘカラサル筋ニ付(準則第四條但書)若シ故ナク加盟ヲ拒ムモノアルトキハ縣廳ニ於テ懇篤説諭ニ及フヘシト雖モ冥頑不靈

若クハ狡獪剛愎ニシテ諭旨ニ應セス爲メニ組合一般ノ取締ニ關シ遂ニ規約ノ効力ヲ失フ如キ場合ニ在テハ一時其營業ヲ停止スルモ不苦乎

第三條 一旦同業者四分三以上ノ同意ヲ得テ組合ヲ設ケタル上ハ爾後俄ニ新同業者ヲ増加シ其數四分ノ一ニ超ユルモ其地區内ニ於テハ新同業者ニ向テ尙既定規約ヲ履行セシムルノ權アル乎

農商務省指令(明治十八年六月四日)

伺之趣左ノ通可心得事

第一條 漁業者ハ伺之通

但湯屋又ハ髮結業ハ含蓄セス

第二條 追テ何分ノ儀達スヘシ

第三條 伺之通

○第二款 茶業組合準則 明治十七年三月 農商務省第四號達

近來着色偽似ノ茶ヲ製出シ又ハ不良茶ヲ混淆シテ販賣候者有之趣右ハ正業者ノ妨害ト可相成ハ勿論人身ノ健康ニモ相關リ候義ニ付各管内ニ於テ茶業ニ從事スル者ハ左ノ茶業組合準則ニ基キ組合爲相立其規約認可ノ上農商務省へ可届出此旨相達候事

茶業組合準則

第一條 茶業ニ從事スル者ハ製造者ト販賣者トヲ問ハス郡區又ハ町村ノ區畫ニヨリ組合ヲ設置スヘシ(但シ自用茶ノミヲ製スル者ハ此限ニアラス)

第二條 組合ノ名稱ハ何府縣下何郡區町村茶業組合ト稱スヘシ

第三條 組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定ムヘシ

第一項 他物若クハ惡品ヲ混淆シ或ハ着色スル等總テ不正ノ茶ハ製造買賣セサル事

第二項 乾燥法及ヒ荷造方ヲ完全ニスル事

第三項 製茶荷造ノ上ハカナラヌ組合ノ名稱及ヒ製造人販賣人ノ姓名ヲ記スル事

第四條 各組合ハ委員ヲ設ケ組合中ノ事務ヲ擔任セシムヘシ

第五條 組合員ハ必ス其組合ノ證票ヲ携帯スヘシ

但證票ニハ府縣廳ノ檢印ヲ受ク可シ

第六條 組合委員ハ時々組合内ノ實況ヲ檢査スヘシ

第七條 各府縣下便宜ノ地ニ取締所一ヶ所ヲ設ケテ各組合ヲ統轄スヘシ

第八條 取締所ノ役員ハ各組合ノ委員中ヨリ互撰スヘシ

第九條 組合及ヒ取締所ニ關スル費用ハ各組合員ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

△明治十七年十二月農商務省第三十八號(府縣)達

本年當省第四號達茶業組合準則第十條ヲ第十四條ニ繰下ケ左ノ四ヶ條追加候條此旨相達候事

第十條 全國中便宜ノ地ニ中央茶業組合本部ヲ設ケ各地茶業組合取締所ノ氣脈ヲ聯通スヘシ

第十一條 中央茶業組合本部ノ規約ハ農商務卿ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 中央茶業組合本部ノ役員ハ各地茶業組合取締所ノ役員中ヨリ互撰スヘシ

△(明治十八年一月同省第二號達ヲ以テ左ノ但書追加)

但時宜ニヨリ役員外ノ者ト雖モ之ヲ撰舉スルヲ得

第十三條 中央茶業組合本部ノ費用ハ各地茶業組合取締所役員ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十四條 右各條ノ外組合ニオイトテ必用ト爲ヌ事項ハ適宜ニ其規約ヲ設クルコトヲ得

○第十四章 石油

○第一款 石油取締規則 明治十六年二月 第六號布告

明治十四年(八月)第四十號及ヒ同年(九月)第五十號布告石油取締規則左ノ通改定ス

但施行日限ノ義ハ明治十五年(八月)第四十四號布告ノ通タルヘシ

第一條 石油ヲ分テ二種トシ閉塞發烟試驗法ヲ用ヒ攝氏驗温器三十度(華氏八十六度)以上ノ温度ニ達セサレハ發烟セサルモノヲ第一種トシ三十度ニ達セスシテ發烟スルモノヲ第二種トス

第三類 商法編 石油取締規則

第二條 點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫療、製藥、調劑及ヒ物理學、化學工藝上ニ於テ業用ニ供スルノ外之ヲ用フルヲ許サス

第三條 石油營業者ヲ分テ壙業者精製者問屋及ヒ小賣商ノ四類トス其營業者ハ都テ管轄廳(東京府下)ノ許可ヲ受クヘシ但二類以上兼業スルトキハ別ニ其許可ヲ受クヘシ

第四條 石油ノ種類ハ内務卿ノ必要トスル地方ニ於テ検査員チノ之ヲ検査セシムヘシ石油ハ検査済ノ證アルモノニアラザレハ之ヲ販賣スルヲ許サス但壙業者ヨリ精製者ニ販賣スルハ此限ニアラス

第五條 検査済ノ石油ヲ家屋内ニ貯藏スルヲ得ルハ第一種ノ石油五石以内第二種ノ石油五斗以内トシ容器ハ漏出ノ虞ナキ不燃質物ニ限ルヘシ

第六條 石油營業者前條制限外ノ石油并ニ検査未済ノ石油ヲ貯造スル場所建物及ヒ精製所ノ構造方ハ都テ管轄廳(東京府下)ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 第二種ノ石油ハ精製者問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限リ販賣スルヲ得ルモノトス

第八條 第二種ノ石油ヲ販賣スルモノハ購買者ヨリ其數量及ヒ需用ノ趣意年月日住所氏名ヲ詳記シタル書付ヲ取リ置キ一年間保存スヘシ但販賣時間ハ日出ヨリ日没マテトス

第九條 石油ヲ運搬スルトキハ其石油タルコトヲ表記スヘシ但其積卸ニ必用ナル時間ノ外物揚場又ハ路傍ニ置クヘカラス

第十條 此規則ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス
右奉 勅旨布告候事

○第二款 石油取締規則施行期限 明治十六年三月 第十號布告

明治十五年八月 第四十四號及本年二月 第六號布告石油取締規則施行日限ノ儀ハ追テ布告候マテ延期ス

右奉 勅旨布告候事

○第十五章 松燈

○第一款 檣燈眩燈製造罰例 明治十四年六月 第三十四號布告

明治十三年七月 第三十五號布告海上衝突豫防規則ニ記載シタル檣燈及眩燈ハ農商務省ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ貳圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス
右布告候事

○第二款 船燈製造及販賣規則

明治十四年八月
農商務省甲第四號布達

本年五月第三十四號公布相成候ニ付明治九年二月丙第五號內務省達船燈製造及販賣規則別紙ノ通改定條此旨布達候事

船燈製造及販賣規則

- 第一條 船燈(檣燈及舷燈ヲ稱ス)ヲ製造セント欲スル者ハ先ツ其見本ヲ製シ之レヲ管轄廳ヲ經テ當省ヘ差出シ製造免許ヲ乞フヘシ
- 第二條 當省ニ於テハ其見本ヲ檢査シ製造方法ニ適合セルモノト看認ル片ハ製造人ヘ其管轄廳ヲ經テ製造免許鑑札ヲ下付スヘシ
- 第三條 製造免許鑑札ヲ得タル者ハ其氏名地名ヲ新聞紙ニテ廣告シ且免許船燈製造所ト記セル看板ヲ掲出スヘシ
- 第四條 免許船燈製造人改名又ハ轉籍スル片ハ其旨管轄廳ヘ届出ヘシ
- 第五條 製造ノ舷燈ヘハ何レモ左式ニ準スル文字ヲ彫刻スヘシ

第何番

何國何郡何地

免許製造人 何 某

第六條 船燈ヲ販賣セント欲スル者ハ何レモ其管轄廳ヘ免許製造人ノ製造セル船燈ヲ販賣シ度旨ヲ申出其廳ノ販賣免許ヲ受クヘシ

第七條 船燈販賣免許ヲ得タル者ハ舖頭ニ免許船燈販賣所ト記セル看板ヲ掲クヘシ

第八條 免許ヲ得タル船燈製造人ハ自ラ販賣人ヲ兼ルヲ得ヘシ

此場合ニ於テハ別ニ管轄廳ヨリ販賣免許ヲ受ルニ及ハス

第九條 免許製造人及ヒ販賣人ノ員數ハ地方ノ實況ニ應シ管轄廳ニ於テ之ヲ増減スルヲ得ヘシ

第十條 管轄廳ニ於テハ船燈製造所及ヒ販賣所ヘ不時ニ吏員ヲ派出シ製造方法ニ照シ其適否ヲ監査セシムヘシ但當省主務ノ官吏ヲ派出ノ不時ニ監査セシムルコトアルヘシ

第十一條 船燈製造方法書ハ商務局ニ於テ刊行シ各地方廳及ヒ免許製造人并販賣人ヘ配付スヘシ

○第十六章 營業稅

○第一款 營業稅雜稅ノ種類 明治十三年四月
第十七号布告

明治十一年(十二月)第三十九号布告地方稅中營業稅雜稅ノ種類及ヒ制限左ノ通改正條此旨布告候事

第一條 營業稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ

商業(明治十五年一月第三号布告改正)

工業(明治十五年一月第三号布告改正)

但國稅アル者ハ課稅ノ限ニアラス

第二條 (明治十五年一月第三号布告改正)雜種稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ

料理屋 待合茶屋 遊松宿 芝居茶屋 飲食店ノ類

湯屋

理髮床

備人受宿

遊藝師匠 遊藝稼人 相撲 俳優 幫間 遊妓ノ類

市場

演劇其他興行遊覽所

遊技場(玉突大弓揚弓)

射的吹矢ノ類

人寄席

松(靜瀨松川松及五)

十石未滿海松)

市(馬車人力車荷積馬車荷積大七六)

八車荷積中小車荷積牛車ノ類)

但國稅ノ額ヲ超過スヘカラス

水車

乘馬

屠畜

漁業採藻ノ類

但漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其慣例ヲ改正シ又ハ新稅ヲ賦課セントスルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大臣兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第三條 (明治十五年一月第三号布告削除)

第四條 府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條類目中ニ於テ賦課スル者ヲ取

捨スルヲ得

第五條 (明治十五年一月第三号布告改正)府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ視

察シ府縣會ノ決議ヲ以テ各箇ノ稅額ヲ査定スヘシ

第六條 (明治十五年一月第三号布告削除)

第七條 (明治十五年一月第三号布告削除)

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ報告スヘシ

第九條 (明治十五年一月第三號布告改正) 第一條第二條課稅種類ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受ヘシ

第十七章 古物商

○第一款 古物商取締條例 明治十六年十二月 第五十號布告

古物商取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年二月一日ヨリ施行ス
右奉 勅旨布告候事

古物商取締條例

第一條 古物商トハ古道具、古本、古書畫、古着、古銅鐵、鍍金銀ヲ賣買スル營業者ヲ云
袋物屋、小間物屋、籠甲屋、時計屋、飾屋、箔打屋、烟管屋ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ
賣買交換スル者及ヒ刀劍商ハ此條例ニ準據スヘシ

第二條 古物商ハ管轄廳東京府ハノ免許ヲ受クヘシ

第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ警察官ニ於テ其物品及ヒ賣主讓主

ヲ調査スルニ差支ナキ様簿冊ニ記載シ且買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ
之ヲ記載スヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス但身元詳ナル者
其證人タルトキ又ハ警察官若クハ巡查ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白痴風癪者及ヒ雇人雇主ノ家ニアル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ
交換スルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者其證人タルトキハ此限ニア
ラス

官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其賣却シ得ヘキコトヲ證明
スル證人二名以上アルニ非サレハ之ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニヨリ無代價ニテ物品ヲ取戻サル、トアルヘシ
第六條 古物商ハ營業者タルト否トヲ問ハス盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九
條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及寄藏スル片ハ警察
官ノ許可ヲ受クヘシ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三拾圓以上三百圓以下
ノ罰金ニ處ス

第七條 古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及ヒ賣主讓主ノ居宅ノ外ニ於テ物品ヲ
買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス

第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身元詳ナラサル者及ヒ盜罪賭博ノ處罰ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡シ又ハ露店及ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スコトヲ得ス

第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキ又ハ他府縣ヨリ受取リタルトキハ其物品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ届出スヘシ

警察官ハ時宜ニ依リ荷作ヲ解キ物品ヲ検査シ之ヲ差押フルコトアルヘシ但費用ハ届人之ヲ擔當スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年内ニ類似ノ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏シタルトキ若クハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ若シ届出テスシテ其理由ヲ辨解スルコト能ハサル者ハ第六條ノ刑ニ同シ

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿冊及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直チニ所轄警察署ヘ届出ツヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舗ニ臨ミ物品及ヒ簿冊ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルヘシ古物商ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ

違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタルモノハ貳百圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第十一條第十四條及ヒ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル古物商ハ管轄廳東京府ハニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得

第十六條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ左ノ項目ニ從フヘシ
一 物品ヲ買取リ又ハ交換シタルトキハ其賣主讓主ノ住所氏名年齢及ヒ物品ノ形狀
徽章番號編柄模様
損所ノ類ヲ云フ
價額年月日時ヲ簿冊ニ記載スヘシ

二 日出前日没後ハ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコトヲ得ス

三 營業者ニアラサル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シタルトキハ其物品ヲ原狀ノ儘五日間保存スヘシ

四 物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルトキハ其物品ノ形狀價額年月日時ヲ簿冊ニ記載シ且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知り得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

五 毎月一度物品賣買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出シ其検査ヲ受クヘシ

六 住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスルトキハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 前條ニ違背シタル者ハ三圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
第十八條 特別取締ニ付セラレタル者第六條第十二條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ

處セラレタルトキハ直ニ之ヲ納完セシム若シ納完セサル者ハ留置セラルコトアル
ヘシ

第十九條 古物商一年内ニ此條例ヲ再犯シタルトキハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止
シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 此條例ヲ犯シテ買取リ又ハ交換シタル物品贖物ニ係ルモノハ營業者ニ依
ルト否トテ同ハス警察署ニ於テ之ヲ追徴シテ被害者ニ還付スヘシ若シ被害者知レサ
ルトキハ之ヲ領置シ一年ノ後官沒ス

第二十二條 商業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第二十三條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府縣令ニ於テ便宜取
設ク内務卿ニ届出ツヘシ

○第二款 贖物ニ係ル古物品處分法

明治十七年三月内
務省乙第十五號達

客年第五十號公布古物商取締條例第廿一條官ニ沒スル物品ノ儀ハ當省達九年乙第百三
十六號十五年乙第七十號十六年乙第十三號ニ準據シ可取計此旨相達候事

○第十八章 質屋

○第一款 質屋取締條例

明治十七年三月
第九號布告

質屋取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年五月十五日ヨリ施行ス
右奉 勅旨布告候事

質屋取締條例

第一條 質屋營業ヲ爲ス者ハ警視廳東京府ハノ免許ヲ受クヘシ

第二條 質屋ハ質物臺帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ檢印ヲ受クヘシ

第三條 質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物、資金、質入主及質入受戻入換ノ年月日ヲ調査
スルニ差支ナキ様記載スヘシ但證人ヲ要スルトキハ質入主及證人ノ實印押捺セシメ
置クヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス

但身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白痴、瘋癲者及雇人雇主ノ家ニ在ル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但父
母後見人雇主又ハ身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其質入シ得ヘキコトヲ証明ス
ル証人二名以上アルニ非サレハ之ヲ質物ニ取ルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコト無ク質物ヲ取戻サル、
コトアルヘシ

第六條 盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處罰ヲ受ケタル者ヨ
リ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第七條 贓物ノ疑アル物品又ハ身柄不相應ト認メタル物品ヲ持來ル者アルトキハ直ニ
所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡查ニ密告スヘシ

第八條 流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ差出ス
ヘシ

第九條 流質物ヲ賣拂ヒタルトキハ警察官ニ於テ其物品代價及買主ヲ調査スルニ差支
ナキ様流質物賣拂帳ニ記載スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年内ニ類似ノ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シタルトキ若クハ其
以前ノ質物及寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十二條 質物臺帳、流質物賣拂帳、及品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルト
キハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ質屋ノ店舗ニ臨ミ質物及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依

リ其質物ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルヘシ質屋ハ之ヲ
拒ムコトヲ得ス

第十四條 此條例ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタルモノハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰
金ニ處ス

第十五條 此條例ヲ一年内ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停
止スルコトヲ得

第十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪併發ノ例ヲ用ヒス

第十七條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第十八條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事(東京府ヲ除ク)縣令ニ於テ
便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

○第十九章 牛馬

○第一款 牛馬賣買規則 明治五年十一月 第三百三十號布告

牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀昨辛未十二月中大藏省ヨリ相違候處今般別紙規則書ノ通
相定候條各管内共區々ノ取計無之様可致候事

別紙

牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀昨辛未十二月相達候處此度御詮議之次第モ有之別紙ノ通規則相定候條是迄相定候免許鑑札ハ引換相渡シ引上ケ候分ハ各府縣廳ニ於テ取纏ノ燒捨其段可申立候其餘ハ規則ニ從ヒ處置可致事

壬申十月

規則

大藏省

第一條 各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬壹鼻綱ニ付免許鑑札壹枚相渡可申事

但シ壹鼻綱ハ牛馬共七匹ニ限リ鑑札壹枚ヲ所持スル者旅行ノ片ハ七匹以內貳枚ヲ所持スル者ハ十四匹ニ限ル可シ其餘準之可申事

第二條 (明治七年四月第四十五號布告改正)免許鑑札新規願受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事

第三條 免許鑑札萬一燒失流失盜難等ニテ失ヒ候モノ有之其段申出候ハ、事實取調鑑札相渡可申事

第四條 免許鑑札一枚ニ付一ケ年稅金壹圓上納可致事
△(明治八年七月第百十五號布告改正)

但シ右稅金ハ每年二月八月兩度ニ半額宛各管廳ヘ取立租稅寮ヘ上納可致尤モ新規

免許ノ者ハ其額半額直ニ取立上納可致事

第五條 免許鑑札燒印并ニ押切判ハ離形ノ通リ其管轄廳ニテ製造致シ各稼人共ヘ相渡可申事

但鑑札相渡次第稼人共國郡町村名及ヒ名面等詳細取調右鑑札印鑑相添ヘ當省ヘ可差出事

第六條 右様取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬一無鑑札ニテ密々賣買候者有之相顯ルニ於テハ牛馬共取上免許稅十倍ノ科料可申付事

但密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主ヘ取上ケ牛馬拂代金十分ノ二毫美トシテ被下候事

第七條 取上牛馬拂代並ニ科料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事

第八條 此規則施行候ニ付諸入費ハ一ケ年試驗ノ上可申立事

第九條 (明治七年十二月第百三十一號布告追加)免許鑑札ハ貸借決シテ不相成候事但免許鑑札借受賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ條ニ照ラシ處分可致貸渡候者ハ免許稅五倍ノ科料可申付事

右ノ通規則相定候事

壬申十月

大藏省

○第四類 訴訟法

○第一章 裁判所權限

○第一款 治安、始審裁判所權限
 明治十四年十二月
 第八十三號布告

治安裁判所及始審裁判所ノ權限左ノ通制定ス
 第一條 治安裁判所ハ訴訟事件ヲ勸解ス

但諸官廳ニ對スル事件及商事ニ係リ急速ヲ要スル事件ハ勸解スルノ限リニアラス

第二條 治安裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓未滿ノ訴訟ニ付キ始審ノ裁判ヲ爲ス

第三條 治安裁判所ハ人事其他金額ニ見積ルヘカラサルモノヲ裁判スルコトヲ得ス

第四條 始審裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓以上並ニ第三條ニ掲ケタル治安裁判所

權外ノ訴訟ニ付キ始審ノ裁判ヲ爲ス

第五條 始審裁判所ハ其管轄地内ノ治安裁判所ノ始審裁判ニ對スル控訴ニ付キ終審ノ

裁判ヲ爲ス(但控訴ノ手續ハ明治十年第十九號布告控訴手續ニ照準スヘシ)

△明治十四年八月司法省甲第八號布達

從來人民ヨリ郡區長及戶長ノ職務上ニ對スル訴訟ハ各上等裁判所ニ於テ受理審判致シ
 候處自今地方裁判所ニ於テ受理審判候條此旨布達候事

但受理審判等ノ手續ハ是迄各上等裁判所ニ於テ取扱ヒ來候候合ニ可準候事

△(明治十六年一月第二號布告)

明治十四年(十月)第五十三號同十五年(六月)第二十八號布告各裁判所ノ位地及ヒ管轄
 區畫別表ノ通改定シ始審裁判所支廳ハ本廳同一ノ權限ヲ以テ裁判セシム但明治十六年
 二月一日ヨリ施行ス

裁判所一覽表

控訴	始審		治安府縣國名	區	郡	名
	本廳	支廳				
東京			東京府 武藏	芝區	日本橋區	京橋區
						芝區
東京			東京府 武藏	麹町區	芝區	日本橋區
						麹町區
東京			東京府 武藏	下谷區	芝區	日本橋區
						下谷區
東京			東京府 武藏	本所區	芝區	日本橋區
						本所區
東京			東京府 武藏	橫濱	芝區	日本橋區
						橫濱
東京			東京府 武藏	相模	芝區	日本橋區
						相模

第四類 訴訟法

治安始審裁判所權限

控												阪																			
神戶						大						阪																			
洲		本洲		本洲		奈良		五條		奈良		堺		天王寺		中ノ島		宮津													
兵庫縣						大阪府																									
淡路		丹波		播磨		攝津		大和		河內		和泉		河內		攝津		河內		攝津		丹後									
全國二郡		多紀水上		明石美嚢		神戸區八部 菟原 武庫川邊 有馬		宇智 吉野 葛上 忍海 高市ノ内 葛下ノ内		廣瀨 宇陀 高市ノ内 葛下ノ内		添上 添下 山部 平群 式上 式下 十市		志紀ノ内 丹北ノ内 大和川以南		安宿部 丹南 八上 古市 石川 錦部		堺區 全國四郡		志紀ノ内 丹北ノ内 大和川以北		大縣 河內 若江 澁川 高安		東區 南區 東成 住吉		豐島 能勢		西區 北區 西成 島上 島下		熊野 竹野 中與謝 加佐ノ内	

裁												訴											
福井						大津						岡山											
小濱		大野		福井		彦根		大津		津山		高梁		玉山		岡山		豐岡		姫路			
福井縣						滋賀縣						岡山縣											
若狹		越前		近江		美作		備前		備中		但馬		播磨									
遠敷 大飯		大野		南條 今立 丹生 吉田 阪井 足羽		神崎 愛智 犬上 阪田 伊香 西 東 淺井		滋賀 野洲 甲賀 栗太 蒲生 高島		全國十二郡		上房 阿賀 哲多 川上加陽ノ内		小田 後月 下道 窪屋 淺口		宇都 加陽ノ内		岡山區 全國八郡		全國八郡		多可 加西 印南 神東 神西 飾東 飾西 加東 加古	

第四類 訴訟法 治安始審裁判所權限

廣島												
所判裁訴控屋												
岐阜												
安濃津												
高山												
山田												
豐橋												
三次廣島縣												
廣島												
御嵩												
大垣												
岐阜												
上野三重縣												
四日市												
安濃津												
伊勢												
伊賀												
伊勢												
志摩												
多氣度會												
全國四郡												
紀伊												
南牟婁												
北牟婁												
厚見羽栗各務中島方縣山縣武儀郡上												
海西石津多藝不破本巢席田安八池田大野												
美濃												
加茂可兒土岐惠那												
飛騨												
全國三郡												
安藝												
廣島區沼田安藝佐伯山縣高宮加茂												
備後												
高田												
三谿奴可三上三次惠蘇												

廣島												
所判裁訴控島												
鳥取												
松江												
山口												
尾道尾道												
米子												
鳥取												
西郷西郷												
濱田												
今市												
松江												
萩												
赤間關												
赤間關												
山口												
山口縣												
備後												
周防												
長門												
美禰												
都濃												
佐波吉敷												
周防												
長門												
熊毛												
大島玖珂												
赤間關區厚狹豐浦												
長門												
阿武見島												
大原												
意宇												
能義												
秋鹿												
島根												
仁多												
出雲												
神門												
出雲												
楯縫												
飯石												
安濃												
那賀												
邑智												
邇摩												
美濃												
鹿足												
隱岐												
全國四郡												
因幡												
全國八郡												
河村久米												
伯耆												
汗入會見												
八橋												
日野												
長崎區												
北高來												
東彼杵												
西彼杵ノ内												

第四類 訴訟法 治安始審裁判所權限

第四類 訴訟法 治安始審裁判所權限

判 裁 訴											
熊 本					大 分						
天 草					中 津						
天	人	八	山	內	熊	豆	中	杵	竹	佐	大
草	吉	代	鹿	牧	本	田	津	築	田	伯	分
熊本縣肥後					大分縣						
					豐後	豐前	豐後				
天	求	八	山	阿	熊	珠	下	西	東	直	大
草	麻	代	鹿	蘇	本	球	毛	國	國	入	分
		蘆	山		區	日	字	東	東	大	北
		北	本		飽	田	佐	速	速	野	海
			地		田	託		見	見	部	部
			玉		摩	摩		內	內	部	部
			名		宇	宇		內	內	部	部
					土	土		內	內	部	部
					合	合		內	內	部	部
					志	志		內	內	部	部
					下	下		內	內	部	部
					益	益		內	內	部	部
					城	城		內	內	部	部

控 崎 長											
福 岡			佐 賀			長 崎					
久留米						嚴 原		福 江		平 戶	
小	久		福			唐	佐	嚴	福	武	平
倉	留		岡			津	賀	原	江	生	戶
小	米								長崎縣		
倉									壹岐		
									肥前		
									南高來		
									北松浦		
									全國一圓		
									南松浦西彼杵ノ内		
									全國二郡		
									對馬		
									基肄 養父 三根 神崎 佐賀 小城 杵島		
									藤津		
									東 西松浦		
									福岡區 席田 粕屋 宗像 穗波 早良 嘉麻		
									上座 下座 夜須 御笠 志摩 怡土 那珂		
									全國十郡		
									三池 山門		
									企救 田川 京都 中津 筑城 上毛		
									遠賀 鞍手		

函 館		所 判									
弘 前		秋 田									
八 戸			大 曲			磐 井					宮 古
函 館	八 戸	原 五 所 河	青 森	弘 前	大 館 町	能 代	大 曲	本 庄	秋 田	磐 井	宮 古
		青 森 縣			秋 田 縣						
渡 島	陸 奥	羽 後		陸 奥	陸 奥	陸 奥	陸 奥	陸 奥	陸 奥	陸 奥	陸 奥
山 越	函 館 區 龜 戸 上 磯 茅 部	三 戸 上 北 ノ 内	北 津 輕	東 津 輕 下 北 上 北 ノ 内	東 中 津 輕	北 秋 田	鹿 角	山 本 北 秋 田	仙 北 平 鹿 雄 勝	由 利	川 邊 南 秋 田
										陸 奥 中 陸 奥 前 東 西 由 井 膽 澤 江 刺 氣 仙	

院											
所 判		裁 訴				控					
根 室		札 幌				函 館					
厚 岸	根 室	岩 内	小 樽	増 毛	浦 川	札 幌	壽 都	福 山	江 刺	函 館 縣	
根 室 縣		札 幌 縣									
釧 路	北 見	千 島	根 室	後 志	北 見	天 鹽	日 高	十 勝	釧 路	石 狩	後 志
全 國 六 郡	斜 里 網 走 常 呂 紋 別	全 國 八 郡	全 國 五 郡	古 宇 岩 内	宗 谷 枝 幸 利 尻 禮 文	全 國 六 郡	全 國 七 郡	全 國 七 郡	札 幌 區 全 國 九 郡	札 幌 區 全 國 九 郡	鳥 牧 壽 都 歌 樂 磯 谷
										松 前 久 遠 太 樽 瀬 棚 奥 尻	
										檜 山 爾 志 小 樽 余 市 美 國 積 丹 高 島 忍 路 古 平	

第四類 訴訟法 治安始審裁判所権限

△(明治十七年十月第二十七號布告)

明治十六年一月第二號布告裁判所一覽表中左ノ通増補改正ス但新置裁判所開廳ノ期日ハ司法卿ノ告示ヲ以テ之ヲ定ム

一山形始審裁判所酒田支廳管内鶴岡ニ治安裁判所ヲ置キ羽前國東田川西田川兩郡ヲ管轄ス

一秋田始審裁判所大曲支廳管内横手ニ治安裁判所ヲ置キ羽後國雄勝郡及平鹿郡ノ内ヲ管轄ス

一千葉始審裁判所木更津支廳管内北條ニ治安裁判所ヲ置キ安房全國ヲ管轄ス

一福岡始審裁判所久留米支廳管内久留米治安裁判所管轄郡名中全國十郡トアルヲ三潁ノ内上妻下妻生葉竹野山本御原御井ノ十八字ニ改メ同柳川治安裁判所管轄中(三潁ノ内)ノ四字ヲ加フ

一秋田始審裁判所大曲支廳管内大曲治安裁判所管轄郡名中平鹿ノ下(ノ内)ノ二字ヲ加フ

一宮崎始審裁判所管内宮崎治安裁判所管轄郡名中北諸縣ノ内トアルヲ(東諸縣)ト改メ那珂ノ内トアルヲ(北那珂南那珂ノ内)ト改メ同管内都城治安裁判所管轄郡名中北諸縣ノ内トアルヲ(北諸縣)ト改メ那珂ノ内トアルヲ(南那珂ノ内)ト改メ更ニ(西諸縣)

ノ三字ヲ加ヘ同管内延岡治安裁判所管轄郡名中臼杵トアルヲ(東臼杵)ト改メ右奉 勅旨布告候事

○第二款 控訴裁判所權限 明治十年二月 第十九號布告中

第一條 上等裁判所ハ地方裁判所ノ裁判ニ服セスシテ控訴スル者ヲ覆審ス

△(明治八年五月司法省甲第五號達)

各人民ヨリ院省使府縣ニ對スル訴訟ハ當分各上等裁判所ニ於テ受理候條此旨布達候事
△(明治八年十一月司法省甲第十四號達)
各人民ヨリ院省使府縣等ニ對スル訴訟受理ノ儀ニ付本年甲第五號ヲ以テ及布達置候處自今各人民ヨリ開拓使ニ對スル訴訟ハ東京上等裁判所ニ於テ受理候條此旨布達候事

○第三款 大審院權限 明治十年二月 第十九號布告中

第一條 大審院ハ民事刑事ノ上告ヲ受ケ上等裁判所以下ノ審判ノ不法ナル者ヲ破毀シテ法憲ノ統一ヲ主持スルノ所トス

第二條 審判ノ不法ナル者ヲ破毀スルノ後他ノ裁判所ニ移シテ之ヲ判決セシム又便宜ニ依リ大審院自ラ之ヲ判決スル事ヲ得

第三條 己ニ他ノ裁判所ニ移シテ之ヲ判決セシムルノ後其裁判所又大審院ノ旨ニ循ハ

サル時ハ大審院更ニ自ラ之レテ判決ス

第四條 陸海軍裁判所ノ裁判權限ヲ越ユル者ハ其裁判ヲ破毀シテ之ヲ當然ノ裁判所ニ付ス

第五條 (零ス)

第六條 内外交渉民刑事事件ノ重大ナル者ヲ審判ス

第七條 (零ス)

○第二章 出訴

○第一款 出訴期限 明治六年十一月 第三百六十二號布告

金穀貸借ヲ始メトシ物品賣買ヨリ其外種々ノ取引等ニ至ルマテ雙方ノ者互ニ受取渡ノ期限ヲ定メ條約ヲ結ヒ置キタルニ一方ノ者其條約ヲ破リタルハ早速裁判所へ出訴致シ不苦候處延期ノ勘辨ヲ加ヘ出訴ヲ見合候者モ有之是亦慈愛ノ人情ニテ尤ノ事ニ付早速出訴致シ候トモ又ハ勘辨ヲ加ヘ候トモ人民ノ自由ニ任セ出訴期限ノ法則不相定候處右延期勘辨中數多ノ歲月ヲ過去リ出訴致シ候片ハ貸方借方請人證人ノ内死亡又ハ轉住又ハ失踪等ノ者モ有之事理曖昧ニ立至リ裁判上不都合不少候ニ付訴訟ノ事柄ニ因リ夫々出訴ノ期限ヲ定メ候條來明治七年一月一日ヨリ後ニ結ヒタル條約期限ニテ右出訴期

限ヲ過去リ出訴セサル者ハ自分條約ヲ取消シタル者ト看做シ受取ルヘキ者ハ受取ルヘキ權利ヲ失ヒ引渡スヘキ者ハ引渡スヘキ義務ヲ免レ候事ト相定メ候ニ付キ若シ出訴致シ候トモ取上不致候此旨布告候事

出訴期限規則

第一條

- 一 學藝ノ授業料
- 一 旅籠料
- 一 運送賃
- 一 飲食料
- 一 手附金
- 一 商人互ノ賣掛金
- 一 職人ノ手間代金
- 一 日雇人ノ給料
- 一 請負金
- 一 芝居等ノ木戸錢又ハ棧敷錢等
- 一 男女藝者ノ揚代金

第四類 訴訟法 出訴期限

右ハ六ヶ月限

第二條

- 一 醫師ノ診診及ヒ藥料
 - 一 授業師ヨリ門弟ニ給與シタル飲食料
 - 一 商人ヨリ商人ニ非ラサル者ヘノ賣掛代金
 - 一 一々年期マテノ奉公人給料
- 右ハ一々年限

第三條

- 一 期限ヲ定メタル貸附米金及ヒ利息アレハ其利息
- 一 期限ヲ定メタル預米金及ヒ利息アレハ其利息
- 一 家屋及ヒ土地ノ借賃
- 一 小作米金
- 一 證據金
- 一 敷金
- 一 物品ノ借賃又ハ損料
- 一 養育料

一 七々年期マテノ奉公人給料
 一 期限ナキ年金及ヒ一生涯ノ年金
 右ハ五々年限

第四條 一條約證書中期限ナキ者ハ出訴ノ日ヲ期限ト看做シ候故何時出訴致シ候テモ若シカラサル事

第五條 一從前取結ヒタル條約ニテ明治六年十二月三十一日以前ニ條約期限ノ切レタル事件ハ右明治六年十二月三十一日ヲ條約ノ期限ト看做ス可シ又從前結ヒタル條約ニテ其期限ノ明治七年一月一日後ニ及フ事件ハ條約期限ノ切レタル翌日ヨリ第壹條第貳條第三條ノ種類ニ從ヒ出訴ノ期限ヲ起算致スヘキ事

但シ明治五年壬申第三百號布告第三條ニ定メタル規則ハ格別ナリトス
 △明治十八年六月内務省甲第三十號(府縣へ)達
 地所賣入書入建物船舶書入質ノ公證ヲ受ケタルモノハ出訴期限無之旨今般太政官ノ裁合ヲ經候條爲心得此旨相達候事

○第二款 預金穀ニ係ル訴訟 明治十年一月 第十二號布告
 預ケ金穀ノ訴訟ハ其證書中ニ封印ノ儘預リ置候歟或ハ預リ中融通使用ヲ爲サ、ル明文アルモノハ年數ニ拘ハラヌ受理スヘキ成規ニ候處自今二十年以前ニ係ルモノハ一切裁

判不及候條此旨布告候事

○第三款 勸解中出訴期限満期ノ者處置方 明治九年四月司法省第四十四號達

區裁判所或ハ裁判所支廳ニ勸解願出候者勸解中出訴期限満期ノ者處置方左ノ通可相心得此旨相達候事

第一條 勸解出願ノ者勸解中ニ出訴期限ノ満期ニ至ル者ハ其勸解不調ノ翌日ヨリ滿三十日マテハ出訴期限ノ猶豫ヲ與フ可シ

第二條 勸解調ハサル片右滿三十日迄ニ府縣裁判所ニ出訴ヲ爲サ、ルニ於テハ其事件ニ付訴スルノ權利ヲ拋棄シタルト看做スヘシ

○第四款 訴訟入費出訴期限 明治十一年三月司法省丁第九號達

裁判執行ノ出訴期限ニ付高知裁判所ヨリ甲號ノ通伺出ニ因リ乙號ノ通太政官へ伺候處伺ノ通り御裁令有之ニ付丙號ノ通及指令候條爲心得相達候事

甲號 高知裁判所長判事石井忠恭伺(十一年一月十二日)

明治八年四月廿五日滋賀縣伺ノ御指令ヲ玩味スルニ主タル訴件ニ附帶シ訴訟入費曲者ヨリ直者へ償却可致旨裁判言渡ノ後直者ヨリ滿六ヶ月ヲ經過シテ其償却ヲ請求スル片ハ出訴期限第一條ニ據リ直者ニ於テハ要償權利ヲ失シ曲者ニ於テハ期満得免ノ

權ヲ得ルニ至ル然ルニ主タル訴件ニ限リ權利者ニ於テ從舊數年ノ久ヲ經過スルモ裁判執行ヲ請求スルヲ得ルハ允當ナラサル様被相考等シク是レ直者ノ曲者ニ於ケル如ク本案ニ關スル(買掛代)等ノ訴件モ初審又ハ終審裁判言渡當日ヨリ起算シ夫々該訴ノ種類ニ應シ出訴期限ノ的條ヲ經過シテ權利者ヨリ裁判執行ヲ請求スル片ハ權利者ニ於テハ裁判權利ヲ拋棄シ義務者ニ於テハ其義務ヲ免レタルモノト看做シ裁判執行ノ請求狀及却下可然哉至急御指令ヲ仰キ候也

乙號 太政官へ上申(十一年二月八日)

別紙高知裁判所伺ノ趣ヲ審思スルニ裁判言渡ノ後更ニ執行ヲ請求セス從舊歲月ヲ經過スル者ハ固ヨリ期満得免ノ効ヲ得ヘシ何トナレハ裁判言渡ニ因リ裁判執行スルノ權義ヲ生セシムルヲ以テ其權義ニ付必ス期満得免ノ効アラサルヘガラサレハナリ抑モ斯ノ期満得免ハ訴訟原案ノ種類ニヨリ期満得免ノ長短ニ拘ハラサル可シ蓋シ裁判言渡ナル者ハ雙方ノ間ニ更ニ裁判上ノ契約ヲ生セシムルノ理アルヲ以テナリ我國現行ノ出訴期限(六年第三百六)十二号布告)ヲ視ルニ裁判執行ノ出訴期限ニ於テハ明文アルコトナシ而シテ其最モ長キ者五年ナリトス因テハ該伺ノ如キ訴訟原案ノ種類ニ拘ハラス滿五年ヲ以テ期限トナスコト允當ト思考スルニ因リ左ノ通可及指令ト存候得共其明文ナキヲ以テ此段申候也

丙號 指令

伺ノ趣裁判執行ノ出訴期限ハ出訴期限規則第三條ニ準據シ五ヶ年タルヘシ

○第五款 控訴上告手續 明治十年二月 第十九号布告

第一章

控訴ノ事

第一條 凡ソ地方裁判所ノ初審ニ服セスシテ再ヒ上等裁判所ニ訴ヘ覆審ヲ求ムル者之ヲ控訴ト云フ

第二條 控訴ハ民事ニ止マリ刑事ニ及ハス

第三條 控訴ハ一タヒスルコトヲ得再ヒスルコトヲ得ス

第四條 地方裁判所ニ於テ裁判ノ言渡ヲ爲シタル片原告被告ノ双方又ハ一方ノ者其裁判ニ不服ナル片ハ裁判言渡ヨリ第七日マテニ(裁判言渡ノ翌日ヨリ數フ)裁判言渡ノ事理ヲ熟考

シ其翌日ニ至リ控訴スルコトヲ得可シ但シ訴訟ノ案件商事ニ係リ急速ニ控訴スルコトヲ要スルノ場合ニ於テハ七日内ト雖モ控訴スルコトヲ得

第五條 (明治十五年四月第二十一號布告ヲ以テ本條中三ヶ月トアルハ總テ二ヶ月ト改正ス)

地方裁判所ノ裁判言渡ヨリ二ヶ月(三十日ヲ以テ一月トス)ヲ過クル片ハ控訴スルコトヲ許サス但シ地方裁判所ヨリ上等裁判所ニ至ルノ距離八里ヨリ遠キ片ハ期限二ヶ月ノ外八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ増スヘシ

第六條 控訴ヲ爲ス者ハ其初審ヲ受ケタル地方裁判所ニ届ケ出ツヘシ但シ添翰ヲ乞フニ及ハス

第七條 前條ノ届ヲ受取リタル地方裁判所ハ裁判言渡ノ執行ヲ停止スヘシ若シ上等裁判所ノ請求アル片ハ地方裁判所ニ於テノ訴狀答書口書裁判見込等ヲ差出スヘシ

第八條 上等裁判所ニ捧クルノ訴狀ハ訴答文例ニ照準スヘシ

第二章

上告總則ノ事

第九條 各裁判所ノ終審ヲ不法ナリトシ大審院ニ向テ取消ヲ求ムル者之ヲ上告ト云フ

第十條 上告スルコトヲ得ルノ事件ハ

第一 裁判所管理ノ權限ヲ越ユ

第二 聽斷ノ定規ニ乖ク

第三 裁判法律ニ違フ

第十一條 大審院ハ上告ヲ受クルノ所ニシテ控訴ヲ受クルノ所ニアラス故ニ控訴スヘ

キノ事ヲ以テ誤テ上告スル者アルモ之ヲ斥ケテ理セシムル事ニシテ
第十二條 陸海軍ノ裁判權限ヲ越ユル者ハ之ヲ大審院ニ上告スルヲ得
第十三條 凡ソ上告シタル者己ニ大審院ノ判決ヲ經レハ更ニ訴フルヲ得ス

第三章

民事上告ノ事

第十四條 民事ノ上告スルヲ得ル者ハ己ニ上等裁判所ニ控訴シ其審判ヲ經タル者ニ
限ル

第十五條 上告ヲ爲サント欲スル者ハ裁判言渡ヨリ二月内ニ上告狀ヲ大審院ニ捧クヘ
シ而シテ同時被告人ニ通知スルヲ要ス若シ原裁判所ヨリ大審院ニ至ルノ距離八里ヨ
リ遠キハ二月ノ外八里毎ニ一日ヲ増ス此定期ヲ過クシハ上告スルヲ許サス
上告狀中ニハ必ス左ノ事實ヲ記載スヘシ

- 第一 原告人ノ住所身分氏名
- 第二 被告人ノ住所身分氏名
- 第三 代理人アレハ其住所身分氏名
- 第四 證人又ハ引合人アレハ其住所身分氏名
- 第五 地方裁判所ニ出訴シ又ハ被告ニテ呼出サレタル年月日及ヒ裁判言渡ヲ受ケ

タル年月日

第六 上等裁判所ニ控訴シ又ハ被告ニテ呼出サレタル年月日及ヒ裁判言渡ヲ受ケ

タル年月日

上告狀ハ正本一冊及ヒ副本五冊ヲ差出スヘシ

上告狀ニハ必ス左ノ書類ヲ添ヘ差出スヘシ

- 第一 地方裁判所ニ於テノ訴狀並ニ答書ノ寫及ヒ裁判言渡書ノ寫
 - 第二 上等裁判所ニ於テノ訴狀並ニ答書ノ寫及ヒ裁判言渡書ノ寫
 - 第三 上告狀中ニ憑據トナス書類ノ寫ノ各書類ニ番號ヲ朱書シ編シテ一冊ト爲シ
又ハ葉數多ニ付編シテ幾冊ト爲シタル者
- 右之訴狀又ハ答書及ヒ憑據ノ書類ノ寫ヲ所持セサル者ハ原裁判所ニ出願シ裁判所ノ
簿冊ヲ訟廷ニ取下ク見坐ノ目前ニ於テ之ヲ寫シ取ルヲ得ヘシ
若シ原裁判所ニ於テ書類寫取ノ出願ヲ許サハルニ因リ上告人其寫ヲ出シ能ハサル片
ハ其旨ヲ上告中ニ記載スヘシ
- 第十六條 上告者ハ其上告狀ニ添ヘテ金拾圓ヲ大審院ニ預クヘシ若シ其金高ヲ預クサ
ル片ハ上告ヲ爲スコトヲ得ス
- 第一 若シ上告ヲ取上ケサル片ハ其預リ金ヲ没入ス

第二 若シ上告ヲ取上テ原裁判ヲ破毀シタル片ハ預リ金ヲ還付ス

第三 若シ上告ヲ取上ケ被告人ト對審シタルノ後之ヲ斥ケテ原裁判ヲ破毀セサル片ハ預リ金ヲ没入シ又訟訴入費規則ニ照ラシテ被告人ノ費用ヲ償ハシム(被告人ト相手方ヲ云)

第十七條 上告ヲ爲ス者ハ先ツ原裁判所ニ届出ツヘシ原裁判所ニ於テハ書類ヲ三日内ニ大審院ニ遞送スヘシ

第十八條 上告ニ付テハ裁判ノ執行ヲ停メス大審院己ニ原裁判ヲ破毀スルニ至レハ即日原裁判所ニ通報シテ(大審院ヨリ)執行ヲ停メ更ニ審判落着ノ日ニ至テ前ノ執行ヲ取消シテ後ノ裁判ヲ執行セシムヘシ

但内國人ヨリ裁判外ノ人民ニ對シ又ハ裁判外ノ人民ヨリ内國人ニ對スル上告ハ原裁判ノ執行ヲ停ムヘシ

第十九條 上告狀ハ原告人自ラ之ヲ捧クルモ又ハ代理人ヲシテ之ヲ捧ケシムルモ本人ノ意ニ任ス

第二十條 大審院ニ於テ判事審聽シ不當ナル上告ナリト決スルノ片ハ何々ノ理由ヲ以テ上告ヲ受理セサルノ旨ヲ言渡スヘシ

第二十一條 判事審聽シテ當然ノ上告ナリトシ之ヲ判決スヘキ旨ヲ言渡シタル片ハ其

後一日内ニ被告人呼出狀ヲ仕出スヘシ此呼出狀ニハ上告狀ノ副本ヲ添フヘシ

第二十二條 被告人ハ呼出狀ヲ受取リタルヨリ三十日内ニ答辨書ヲ作り自身又ハ代理人ヨリ之ヲ大審院ニ捧クヘシ但被告人ノ住所ヨリ大審院ニ至ルノ距離八里ヨリ遠キ片ハ八里毎ニ一日ヲ増スヘシ

第二十三條 大審院ニ於テ被告人ノ答辨書ヲ受取リシ片ハ院長ヨリ判事ノ中ニ於テ一人ノ主任ヲ命シ一件書類ヲ取纏メ遅緩ナク一件始末書ヲ作ラシメ然ル後ニ原被告對審ノ日ヲ豫定シ三日以前ニ原被告對審ノ呼出狀ヲ原被告双方ニ送達スヘシ

第二十四條 原被告對審ノ節ハ判事席ニ臨ミ最初ニ主任判事一件始末ヲ宣讀シ次ニ原告ノ陳述次ニ被告ノ陳述次ニ原被告交互ノ論辯ヲ審聽シ而シテ後ニ原告人上告理アリト決スル片ハ何々ノ理由ヲ以テ原裁判所ノ裁判ヲ破毀スルニ付更ニ某裁判所ニ於テ裁判ヲ受クヘキ旨又ハ大審院ニ於テ裁判スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第二十五條 若シ原告人ノ上告理ナリト決スル片ハ何々ノ理由ヲ以テ上告ヲ斥クル旨ヲ言渡スヘシ

第四章

(刑事上告ノ事) 治罪法ニヨリ消滅ニ歸スルヲ以テ省ク)

○第六款 負債者失踪後訴訟 明治八年一月 第六號布告

第四類 訴訟法 負債者失踪後訴訟

民事裁判所負債者失踪後ノ訴訟ハ失踪後三十六ヶ月ノ時間ハ探上ケサル成例ニ有之候
處本年三月一日ヨリ以後ハ左ノ通相定メ候條此旨布告候事

第一條 債主定約期限未滿内ニ負債者ノ失踪ヲ知ル時ハ定約滿期ニ至リ直ニ裁判所へ
訴出ツ可キ事

第二條 債主未ダ負債者ノ失踪ヲ知ラス定約滿期又ハ出訴期限將ニ盡ントスルヲ以テ
裁判所へ出訴シ裁判所ノ奥書ヲ以テ負債者ニ掛合始テ其失踪ノ事ヲ知ル時ハ右奥書
訴狀ヲ再呈シ其旨届ケ出ツヘキ事

第三條 前條々ノ場合裁判所ニ於テハ一應訴狀採上ケ直ニ失踪者所管ノ戸長へ申付失
踪ノ年月日ヲ訊明シタル上債主差出シタル證書ニ負債者何年何月何日家出ノ末行術
相分ラサルニ付追テ本人見當ルカ又ハ三十六ヶ月ノ滿月後跡相續ヲ爲スヘキ者ニ掛
リ此裏書證書ヲ以テ再訴致スヘキ旨ヲ記載シ訴狀下戻スヘキ事

第四條 債主ニ於前條ノ裏書證書ヲ受取置キタル上ハ本人見當リ又ハ搜索三十六ヶ月
ノ時限ハ明治六年(十一月)第三百六十二號布告出訴期限ノ限内ニハ加算致サ、ル事

○第七款 勸解 明治九年十一月司法
省甲第十七號諭達

民事ノ詞訟ハ可成丈ク一應區裁判所ノ勸解ヲ乞フ可ク此旨諭達候事

○第八款 課稅處分ニ付出訴方 明治十五年五月
第二十二號布告

課稅ニ關スル處分ニ就キ不服アリテ出訴セントスルモノハ先其旨ヲ申立課額ヲ上納シ
領收證書ヲ添ヘ其翌日ヨリ六十日以内ニ訴出ヘシ

但納稅期限前ニ訴出テ訴訟中ト雖モ其期限ニ至レハ課額ヲ上納スヘシ

○第九款 費額處分ニ付出訴方 明治十七年七月
第二十三號布告

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ都テ明治
十五年(五月)第二十二號布告ニ依ルヘシ

△(明治十六年八月第三十一號布告中)

徵發令ニ依リ負擔ス可キ費用云々

右費用ニ關スル處分ニ付不服アル者ハ明治十五年(五月)第二十二號布告ニ依ル可シ

△(明治十五年十二月第七十四號布告)
備荒儲蓄金及ヒ區町村會若クハ水利土功ノ集會ニ於テ評決シタル土木費ニ關シ不服アリ
テ出訴セントスルモノハ都テ明治十五年(五月)第二十二號布告ニ依ルヘシ

○第十款 訴訟用紙ノ制 明治十七年三月
司法省甲第一號告示

第四類 訴訟法 課稅處分ニ付出訴方 訴訟用紙ノ制 三百五

今般第五號布告ヲ以テ訴訟用野紙規則被廢候ニ付テハ本年四月一日以後民事訴訟ニ關
シ大審院又ハ裁判所ヘ差出ス書類ハ都テ美濃紙又ハ之レト同尺度ノ紙ヲ用ヒ一枚二十
四行一行二十字詰ニ書ス可キモノトス

但訴訟入費ハ明治九年當省甲第五號布達第一條第九條ニ定メタル割合ニ依リ書類認
料ハ一枚金貳拾錢翻譯料ハ一枚金四圓ト相成儀ト心得ヘシ

○第十一款 支廳へ出訴方 明治十六年一月 司法省甲第二號告示

本年第二號布告ヲ以テ始審裁判所管内ニ支廳ヲ被置候ニ付テハ民事ノ訴訟ハ支廳へ出
訴スヘキモノト雖モ被告人ノ承諾ヲ得タル上ハ其承諾書ヲ添へ始審裁判所へ出訴スル
ヲ得 但支廳管内ニアル始審裁判所ノ裁判ニ對スル控訴ニ於ケルモ本文ト同シ

○第十二款 訴答文例 明治六年七月 第二百四十七號布告

第一卷 原告人ノ訴狀

第一章 原告人ヨリ被告人住所身分ノ書付ヲ取ル事

第一條 訴訟ヲ爲サトスル原告人ハ其管轄ノ(町村)役場ノ添翰ヲ以テ被告人ノ現住管
轄ノ(町村)役場ニ至リ被告人ノ身分ノ書附ヲ取リタル後訴狀ヲ作ルヘシ若シ住所氏
名身分明瞭ナラハ其書附ヲ取ルニ及ハス

住所トハ某(府縣)管下某國某郡某(町村)住居又ハ寄留ト記スノ類身分トハ官名役名
華族士族神職僧尼百姓何職何商賣何渡世ト記スノ類若シ一戸ノ本主ニアラスシテ子
弟又ハ厄介ノ類ハ某ノ子弟又ハ某ノ厄介ト記ス可シ

第二條 原告人被告人ト管轄ヲ異ニシ道路隔絶ナラハ原告人我管轄ノ(町村)役場ニ願
ヒ役場ノ文通ヲ以テ被告人ノ氏名住所身分ノ書附ヲ取ルモ亦妨クナシトス但シ役場
文通ノ入費ハ原告人ヨリ償フヘシ

但此章原告外國人ナルキハ本人名前本國職分及ヒ寄留ノ處ヲ訴狀中ニ記載シ次ニ
被告ノ名前職分住所等委細記載スヘシ

第二章 代書人ヲ用フル事

第三條 (廢止)

第四條 (廢止)

第五條 (廢止)

(本章各條ハ明治七年七月第七十五號布告ヲ以テ代書人ヲ撰ミ代書セシムルト否トハ本
人ノ情願ニ任セラレ訴答文例中之レト牴觸スル廉々ハ總テ廢止セラレタリ)

第三章 訴狀ノ定則ノ事

第六條 訴狀ヲ作クルニハ左ノ定則ニ循フ可シ

第四類 訴訟法 訴答文例

第一 訴狀ハ簡明確實ニシテ憑據ト爲スヘキ事件ヲ掲ケ文飾冗長ナラサルコトニ注意シ自己ノ想像ヲ以テ踪跡ナキ事件ヲ述フルコトヲ得ス

第二 一切ノ訴狀ハ首ニ原被告人ノ氏名ヲ記シ住所身分ヲ肩書ニシ其末ニ年月日ヲ記シ原告人ト代書人トノ氏名連印スヘシ(附錄第一號ヲ)但外國人ノ爲メニハ第一章但書ヲ見ルヘシ(見合ス可シ)

第三 訴狀ノ末ニ署スル氏名ハ其本人自署ス可シ若シ自署スルコト能ハサルハ其旨ニテ氏名ノ肩ニ記スヘシ

第四 訴狀ハ十六行ニシテ一行十五字詰ニ認メ正副二通ヲ具スヘシ但外國人ノ訴狀ハ銘々英佛語ヲ以テ認ルコトヲ得ヘシ其日本翻譯ハ裁判所ニ於テ正副二通ヲ認メ其手数料ヲ取立ツヘシ

第五 被告人ノ住所呼出テ受クヘキ裁判所ノ八里ノ距離外ニ在ルハ其里數ヲ被告人ノ氏名ノ左側ニ記載スヘシ若シ八里以内ナルハ其里數ヲ記載スルニ及ハス

第四章 訴狀ノ書式ノ事

第七條 貸附米金等淹滞ノ訴狀
貸附米金等淹滞ノ訴狀ハ住所氏名ノ次ニ米金元利ノ計算ト貸渡シタル年月日トヲ標記シ次ニ證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ期ヲ過キテ返済セサル事情ヲ書スヘシ(附錄第二號ヲ見合)

ス可

田島ヲ貸渡シタル小作米金又ハ物品ノ預料金又ハ諸種ノ立替金又ハ召抱人等ノ引負金又ハ職人等ノ前貸米金又ハ貸地貸家等ヲ受取ラントスルノ訴狀モ亦本條ニ照スヘシ

但以下十九條迄原告外國人ナルハ其訴訟ノ趣意並願意ヲ簡明ニ記載スヘシ

但附錄第十八號ヲ見合スヘシ

第八條 預タ米金淹滞ノ訴狀
預タ米金淹滞ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ米金ノ員數ト預タタル年月日トヲ標記シ次ニ其證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約シテ返済セサル事情ヲ書スヘシ

借地等ノ敷金又ハ妻及ヒ養子女等ノ持參金又ハ實家若クハ親族等ノ仕送り金ヲ受取ラントスルノ訴狀モ亦本條ニ照スヘシ

第九條 賣掛代金淹滞ノ訴狀
賣掛代金淹滞ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ金高ヲ標記シ次ニ其帳面總計ノ高ヲ出シ之レニ被告人ノ證印アルコトヲ記入シ次ニ違約淹滞シタル事情ヲ書スヘシ(附錄第三號ヲ)
(圖點ヲ施ス數字ハ明治十年第四十四號布告ニ因テ消滅ス)
賣掛代金云々 此一項明治十年第四十四號布告及ヒ司法省丁第二十七號達ニ因リ消滅ス

第十條 手附金買違約ノ訴狀

諸物品ヲ買ヒ手附金ヲ渡シ約定期限内ニ殘金ヲ渡サントスル片ニ至リ被告人違約シテ諸物品ヲ渡サ、ルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ買附タル物品ノ總高次ニ手附金ヲ渡シタル年月日及ヒ殘金ヲ渡シ物品ヲ受取ルヘキ約定期限ノ年月日ヲ標記シ次ニ約定書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書スヘシ（附錄第四號ヲ見合スヘシ）

諸物品ヲ賣リ手附金ヲ受取リ約定期限ニ至リ殘金ヲ受取ルヘキ片ニ被告人違約ノ殘金ヲ渡サ、ルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ手附金ヲ受取リタル年月日及ヒ殘金ヲ受取リ物品ヲ渡スヘキ約定期限ノ年月日ヲ標記シ次ニ約定書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書スヘシ（附錄第五號ヲ見合スヘシ）

第十一條 受負料淹滞ノ訴狀

諸職業受負淹滞ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ受負ヒタル年月日ト受負ノ金高ト既ニ受取リタル金數ト未タ受取ラサル金數トヲ標記シ次ニ約定書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書スヘシ

第十二條 奉公人違約ノ訴狀

奉公人ニ年期ヲ約シ前金ヲ渡シ其年期未滿内ニ其家ヲ出テ還ラサル者ヲ取返サントスルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ抱入レタル年月日ト約定ノ年期ト前渡シノ金數トヲ標

記シ次ニ其証書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書スヘシ

職業傳習ノ弟子職業練熟ノ後ハ禮奉公ノ年期ヲ約シ年期未滿内ニ其家ヲ出テ還ラサル者ヲ取返サントスルノ訴狀亦本條ニ照ラス可シ

奉公人又ハ弟子奉公ノ者等其主人師匠ヨリ受取ル可キ給米金淹滞ノ訴狀モ亦前條ニ照ス可シ

第十三條 專賣免許ヲ犯シタルノ訴狀

專賣ノ免許ヲ得タル者ヨリ他ノ模倣密賣スル者ヲ差留メントスルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ專賣免許ヲ得タル年月日ト免許ヲ受ケタル役所ノ名ト專賣免許ノ年限トヲ標記シ次ニ免許ノ證印又ハ証書ヲ寫載シ次ニ其密賣ノ事情ヲ書スヘシ

諸商工專賣ノ免許ナクシテ株式ト稱スル者ハ自己ニ妨ケアルヲ以テ他人ノ商業ヲ差留ル事ヲ訴フルヲ得ス

第十四條 商社中取引ノ訴狀

商社中甲ノ商人ヨリ乙ノ商人ニ對シ各種ノ取引ノ米金又ハ物品ノ類ヲ乘合商賣ト稱スル者モ證書確實ナル者ハ之ヲ訴フルヲ得ヘシ其訴狀ハ取引ノ模倣ニ付各種ノ本條ニ照スヘシ

先キニ開キシ商社ニ後ニ開カントスル商社ノ妨クルヲアルヲ以テ之ヲ訴ルヲ得ス

但シ專賣免許ヲ犯スヲ得サルノ法ト相牴觸スルヲナカルヘシ(第十三條ヲ見合スヘシ)
第十五條 夫妻離別ノ訴狀

夫妻離別ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ夫妻ノ氏名生年及ヒ婚姻ノ年月日ヲ標記シ次ニ其戸長役場ヘ届證キタル戸籍人別ヲ寫載シ次ニ離別ヲ爲スヘキ理由ヲ書スヘシ
原告人夫ナレハ其父母若シ父母在ラサレハ祖父母祖父母アラサレハ尊族ノ親尊族ノ親在ラサレハ同等ノ親同等ノ親在ラサレハ卑族ノ親卑族ノ親在ラサレハ近隣又ハ朋友ノ内二人以上ノ奥書連印ヲ爲スヘシ(附録第六號ヲ見合スヘシ)
原告人妻ナルモ前條ニ照ラシテ其父母親族等ヨリ訴フヘシ若シ事危急ニ出テ親族等ニ告グルノ暇ナキ片ハ自ラ訴フルヲ得ヘシ

第十六條 養子女ヲ離別ノ訴狀

養子女ヲ離別スルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ養父母及ヒ養子女ノ生年ト其養子女ト爲シタル年月日ヲ標記シ次ニ原被双方ノ戸籍人別ヲ寫載シ次ニ離別スヘキ理由ヲ書シ原告人親族アラサレハ近隣又ハ朋友ノ内二人以上ノ奥書連印ヲ爲スヘシ
本生父母ヨリ養子女ヲ取戻サントスルノ訴狀モ本條ニ照スヘシ若シ本生父母在ラサレハ其親族ヨリ訴フルヲ得ヘシ養子女ヨリ養父母ヲ相手取リテ自ラ離別ヲ請フノ訴ヲ爲スヲ得ス

第十七條 家督相續ノ訴狀

家督相續ヲ爭フ訴狀モ住所氏名ノ次ニ亡父母ハ死亡ノ年月日生父母ハ其生年ト原告人生年トヲ標記シ次ニ其原被双方ノ戸籍人別ト讓狀遺狀等ノ證書アレハ其全文ヲ寫載シ次ニ自己相續スヘキ條理ト被告人相續スヘキ條理ナキヲ書スヘシ(附録第六號ヲ見合ス)

第十八條 田畑山林等賣買違約ノ訴狀

田畑山林屋敷建家等ヲ買ヒ之ヲ受取ラントスルノ訴狀及ヒ貸地貸家ヲ取戻サントスルノ訴狀モ第十條ノ第一項ニ照スヘシ

田畑山林屋敷建家等ヲ賣リ之ヲ引渡シテ其代價ヲ受取ラントスル訴狀モ第十條第二項ニ照スヘシ

第十九條 經界ヲ爭フノ訴狀

國郡鄉村山川田宅等ノ分界ヲ爭フ訴狀モ住所氏名ノ次ニ其舊記繪圖ノ枚數ヲ標記シ次ニ被告人ノ非理ヲ書スヘシ
舊記繪圖ノ寫ハ別冊ト爲シ目錄ヲ附シ各番號ヲ朱書スヘシ
繪圖ハ色ヲ以テ區別シ原告ノ區域ハ淺紅色ヲ用ヒ被告ノ區域ハ黃色ヲ用ヒ爭フ所ノ區域ハ着色ヲ用ヒス其他ノ經界ハ別色ヲ用フヘシ(附録第七號ヲ見合スヘシ)

但シ第七條但書ヲ見ルヘシ
第二十條 控告ノ訴狀

原告人豫審又ハ終審ノ裁判言渡ヲ受テ其裁決ニ服セスシテ之ヲ上等ノ裁判所ニ控訴セントスルノ訴狀ハ住所氏名ノ次ニ訴訟ノ題目ト其年月日ト裁判所ニ呼出サレタル度數其年月日ト認廷ニ臨ミタル裁判役ノ氏名ヲ知ルヲ得ヘキニ於テハ之ヲ記載シ次ニ其裁判言渡書ノ寫ト裁決ニ服セサルノ旨越トテ書シ且ツ前訴狀ノ寫ヲ別冊ト爲シ訴出ヘシ
(但書ハ明治八年第九十三號布告第一一項ハ同年第九十一號布告ニ依テ削除)

第五章 一冊ノ訴狀ハ一事件ニ止マルヘキ事

第二十一條 原告人共人員多少ニ拘ハラズ訴狀ハ一事ヲ一冊ニ書スルニ限ルヘシ又原告人一名ニシテ全時ニ數件ヲ訴フルモ訴狀ヲ各冊ニ作ルヘシ

第六章 一冊ノ訴狀ニシテ二件以上ヲ合ヌテ得ル事

第二十二條 貸借二件以上ニシテ原告人共別人ニ非ラサレハ一冊ノ訴狀ニシテ二件以上ヲ合ヌテ得ヘシ

第七章 原告人連名ノ訴狀ノ事

第二十三條 債主連名ノ證文ヲ以テ米金等ヲ貸附タル訴狀ハ連名ヲ以テ訴フヘシ若シ債主連名三人ナルチ一人ニシテ訴フルキハ他ノ二人ヨリ依頼ノ證書ヲ以テ訴フヘシ

(附録第八號ヲ見合ヌヘシ)

第二十四條 債主二人以上ニシテ管轄ヲ異ニスル者アラハ甲ノ管轄ニ訴ルモ乙ノ管轄

ニ訴ルモ其便宜ニ從フ可シ

第八章 連名ノ被告人ヲ訴フル事

第二十五條 負債主連名ノ借用証文ヲ以テ貸渡シタル米金等ノ訴狀ハ連名ノ人數ヲ盡ク相手取ルヘシ

第二十六條 負債主連名中若シ失踪死亡等ニテ相續人ナキ者アラハ連名ノ未ニ其人名ヲ記シ年月日失踪死亡等ノ事ヲ其者ノ管轄戶長某ヨリ承ルト附載スヘシ
(附録第九號ヲ見合ヌヘシ)

第二十七條 負債主ノ連名中管轄ヲ異ニスル者アラハ甲ノ管轄ニ於テ審判スルヲ願フモ乙ノ管轄ニ於テスルヲ願フモ原告人ノ情願ニ任スヘシ

第九章 證據文ヲ以テ訴フル事

第二十八條 (刪除)

第二十九條 (刪除)

(本章ハ但書ヲ除ク外ハ明治九年第九十九號布告消滅)
但外國人ハ其本人ノ國法ニ隨ヒ正シキ權ヲ得ヘシ

第十章 代理人ノ事

第三十條 (刪除)

第三十一條 (刪除)

第三十二條 (刪除)

(本章各條ハ明治九年第十八號布告刪除)

第二章 被告人ノ答書

第一章 答書ノ定期ノ事

第三十三條 答書ヲ作ルニハ左ノ定期ニ循フヘシ

第一 被告人裁判所ノ呼出狀ト共ニ原告人ノ訴狀ヲ受取ル片原告人ノ陳述スル所條理アラハ速ニ熟讀シ原告人之ヲ許諾セハ解訟ヲ請フヲ得ヘシ其場合ニ於テハ代書人ヲシテ熟讀解訟ノ答書ヲ作ラシメ裁判所ニ呈スヘシ (第四十七條及第四十八條ヲ見合ス可シ)

第二 原告人ノ述フル所非理不實ニシテ辨解スヘキ確證アラハ其書類ノ全文ヲ寫載シ次ニ非理不實ノ事ヲ書スヘシ

第三 答書ノ首ニ被告人ノ氏名ヲ記シ住所身分ヲ肩書ニシ答書ノ末ニ年月日ヲ記シ被告人ト代書人トノ氏名連印アルヘシ (附錄第十三號) (ヲ見合スヘシ)

第四 答書ノ末ニ署スル氏名ハ其本人ノ自筆ヲ用ユヘシ若シ本人自署スルコト能ハサル片ハ其旨ヲ氏名ノ肩ニ記スヘシ

第五 答書ハ十六行ヨシテ一行十五字詰ニ認メ正副二通ヲ具スヘシ

第二章 代書人ヲ用フル事

第三十四條 (本章ハ明治七年第七十五號布告刪除)

第三章 代言人ノ事

第三十五條 (刪除)

第三十六條 (刪除)

第三十七條 (刪除)

(本章各條ハ明治九年第十八號布告刪除)

第四章 原告人ノ返リ證書ヲ所有シタル答書ノ事

第三十八條 負債主米金等ヲ返濟スルニ債主原ノ証書ヲ還附セサルヲ以テ二重ノ催促ヲ爲ス訴訟ハ被告人其答書ニ返リ証文 (返リ証文ハ債主ヨリ原ノ証書ヲ還附セス) ナ寫載シ次ニ原告人二重ノ催促ヲ爲シタル旨ヲ書スヘシ

第三十九條 原告人米金等ヲ受取リタルノミノ證書ニシテ貸附ノ米金ヲ受取リタル確証ノ文字ナク又ハ他ノ憑據トスヘキ證跡ナキ時ハ其米金ヲ受取リタルノミノ證書ヲ

以テ返リ證文ト看做スヲ得ス

第五章 原告人ヨリ返濟延期ノ約ヲ破リタル答書ノ事

第四十條 借用ノ米金等ヲ返濟スヘキ期限ニ至リ負債主ヨリ債主ニ熟議シテ返濟延期ノ約ヲ結ヒ其證書ニ押印ヲ爲シタル債主ヨリ其約ヲ破リ本證文ニ據リ訴ヘタル答書ハ對談一札對談一札トハ返濟延期ノ證書ヲ云フアルヲ記シ次ニ其證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ原告人ノ約ヲ破リタルヲ書スヘシ

第四十一條 負債主ヨリ返濟延期ノ約ヲ破リタル事件ヨリ起リ債主本証文ニ據リ訴出タル原由アル片ハ負債主ナル者己レヨリ約ヲ破リタル返濟延期ノ證書ヲ以テ原告人破約ノ證ト爲スヲ得ス

第六章 原告人證書ヲ偽造シタル答書ノ事

第四十二條 被告人ノ證書ヲ原告人偽造シタル答書ハ其偽造ヲ證スル爲ニ管轄(町村)ノ役場ニ届ケ置キタル年月日ノ人別帳ノ寫ヲ記載シ次ニ此人別帳ノ印ト證書ノ印ト相違シタル旨ヲ書スヘシ

第七章 經界ヲ爭フ答書ノ事

第四十三條 國郡鄉村山川田宅等ノ分界ヲ爭フ答書ノ方法ハ第十九條ヲ照スヘシ

第八章 既ニ訴ヘラレタル事件ニ未タ訴ヘサル事件ヲ接續スル事

第四十四條 負債主米金ヲ返濟スヘキ期限ヲ過キテ返濟セサルヲ訴ヘラレタルニ別ニ其債主ヨリ受取ルヘキ米金アリテ其受取ルヘキ期限モ亦過キ未タ訴ヘスト雖モ双方均ク返濟ノ約期ヲ破リタルヲ以テ兩件ヲ接續シ差引ノ計算ヲ爲サントスル答書ハ負債主ヨリ其別ニ受取ルヘキ米金ノ證書ヲ寫載シ次ニ差引計算ヲ爲スノ旨ヲ書スヘシ

第四十五條 負債主甲某債主乙某ヨリ借用シタル米金ヲ返濟スヘキ期限ヲ過キテ訴ヘラレタルニ答フルニ當リ甲某其借用シタル米金ハ更ニ丙某ニ貸附ケ其期限ヲ過キテ返濟セサルヲ以テ既ニ訴ヘラレタル乙某ノ事件ト未タ訴ヘサル丙某ノ事件トヲ接續シテ丙某ノ返濟ヲ爲スヘキ米金ヲ以テ乙某ニ返濟セノヲ答ルヲ許サス何トナレハ乙ノ貸ス所ノ者甲ニシテ丙ニ非ス丙ノ借ル所ノ者ハ甲ニシテ乙ニ非ラサルヲ以テナリ

第九章 對決前熟議解訟ヲ爲シタル答書ノ事

第四十六條 被告人訴狀ニ對シ辨解スルヲ能ハサル者ハ速ニ原告人ト熟議シ對決前ニ解訟ヲ爲シタル答書ハ原告人承諾ノ與書連印ヲ爲サシ附錄第十四號ヘシヲ見合スヘシ

第四十七條 前條ノ場合ニテ貸借淹滞ノ訴ニ起ル解訟ノ答書ハ償ノ既濟又ハ未濟ト雖モ更ニ延期ノ約ヲ結ヒタル等ハ前條ニ照ス可シ各種違約ノ訴訟ハ原被双方ノ熟和ニ至リ又ハ更ニ改定ノ條約ヲ立テタル等モ亦前條ニ照スヘシ

第十章 對決前返濟延期ノ約定ヲ爲シタル答書ノ事

第四十八條 原告人對決審判前ニ被告入ヨリ負債ヲ返濟スルノ延期ヲ請ヒ原告人之
ヲ承諾シ其審判ヲ仰カス延期ノ日ニ至リ完ク返濟スルノ後解訟ノ證書ヲ呈セントス
ル者ハ其答書ニ延期ノ旨趣ヲ書シテ原告人承諾ノ與書連印ヲ爲サシムヘシ(附錄第
十五号
ヲ見合
ス可シ)

第十一章 對決前親戚又ハ朋友ヨリ代償ノ延期ヲ約シ解訟ヲ爲シタル答書ノ事
第四十九條 原告人對決審判前ニ被告入ノ親戚又ハ朋友ヨリ被告入ノ負債ヲ延期代
償セントナリ請ヒ原告人之ヲ承諾セハ熟議解訟ノ答書ニ其延期代償ノ旨趣ヲ書シ代償
人及原告人ノ與書連印ヲ爲サシムヘシ(附錄第十六号
ヲ見合スヘシ)

第十二章 對決前親戚又ハ朋友ヨリ代償延期ノ約定ヲ爲シタル答書ノ事
第五十條 原告人對決審判前ニ被告入ノ親戚又ハ朋友ヨリ被告入ノ負債ヲ延期代償
セントナリ請ヒ原告人之ヲ承諾シテ其審判ヲ仰カス延期ノ日ニ至リ完ク返濟スルノ後
解訟ノ證書ヲ呈セントスル者ハ其答書ニ延期代償ノ旨趣ヲ書シ代書人及ヒ原告人ノ
與書連印ヲ爲サシムヘシ(附錄第十七号
ヲ見合スヘシ)

訴答文例附錄

第壹號

訴狀表紙ノ式 美濃紙大半紙又ハ右寸法
ニ同シキ紙ヲ用フヘシ

年月日	住所
某訴狀	身分
	氏名

某訴狀トハ假令ハ貸金ノ淹滞ヲ訴フルハ貸金催促ノ訴狀ト記シ流質地ノ爭訟ハ流質
地引渡催促ノ訴狀ト記スノ類
訴狀ノ式

某訴	原告人	住所
	身分	氏名
標記云々	被告入	住所
	身分	氏名
右原告人氏名申上候私儀云々		氏名印
年月日		

某
御裁判所

代書人
住所
身分
氏
名
印

△(明治六年九月第三百十二号布告)
 訴答文例附録中訴狀宛所其御裁判ト有之處每號トモ同第十八號書式ノ通り相定メ候條
 此旨更ニ布告候事
 第貳號

貸金催促ノ訴狀

貸金催促ノ訴

原告人
住所
身分
氏
名

被告人
住所
身分
氏
名

一元金何圓(年月日貸附)
 (年月日期限)

一年又ハ一月幾分ノ利

一金何圓

合同圓

右証文ノ寫左ノ如シ

借用證文

一金何圓

右云々

貸主

名 當

右原告人氏名申上候云々

年月日

借主
氏
名

證人
氏
名

住所
身分
氏
名
印

某
御裁判所

代書人
住所
身分
氏
名
印

第三號

賣掛代金淹滞ノ訴狀

賣掛代金淹滞ノ訴

原告人
住所
身分
氏
名

被告人
住所
身分
氏
名

一金何圓

右賣掛帳ノ總計高ニ御座候

但帳面ニ被告人ノ証印有之候

若シ賣掛帳ニアラスシテ証文ナレハ其証文全文ノ寫ヲ出スヘシ

右原告人氏名申上候云々

年月日

代書人
住所
身分
氏
名
印

某

御裁判所

第四號

買附米引渡違約ノ訴狀

買附米引渡違約ノ訴

原告人
住所
身分
氏
名

被告人
住所
身分
氏
名

一米何石

年月日買取約定済
此度受取ルヘキ石高

代金何圓(一石ニ付)

何圓換

第四類 訴訟法 訴答文例

内何圓 年月日手附金トシテ渡濟
 殘何圓 年月日限現米引替ニ渡スヘキ約定
 右約定證書ノ寫左ノ如シ
 證書云々
 右原告人氏名申上候云々
 年月日

某
 御裁判所

代書人
 住所 氏
 身分 氏
 名 名
 印 印

第五號

賣附生絲代金引渡違約ノ訴狀

原告人
 住所 氏
 身分 氏
 名

一金何圓 (年月日限生絲引替ニテ受取ル可キ殘金高)
 元金何圓 (年月日生絲何斤賣附約定ノ金高)
 但何斤ニ付何圓替
 内何圓 (年月日手附金トシテ受取濟)
 右約定證書ノ寫左ノ如シ
 證書云々
 右原告人氏名申上候云々
 年月日

被告
 御裁判所

代書人
 住所 氏
 身分 氏
 名 名
 印 印

第六號

妻離別ノ訴狀

妻離別ノ訴

原告人

住所
身分
氏

名

被告人

住所
身分
氏

名

夫氏 名 當何歳

妻氏 名 當何歳

某御役所ニ差出置候年月日ノ戸籍人別帳ノ寫左ノ如シ

人別帳

右原告人氏名申上候云々

年月日

住所
身分
氏

名

代書人

住所
身分
氏

名

前書申上候處相違無御座候

第七號

經界ヲ爭フ繪圖ノ式

年月日ノ原圖何枚ノ一
年月日寫之

年月日

原告人ノ祖
父母父母等

住所
身分

氏

名 印

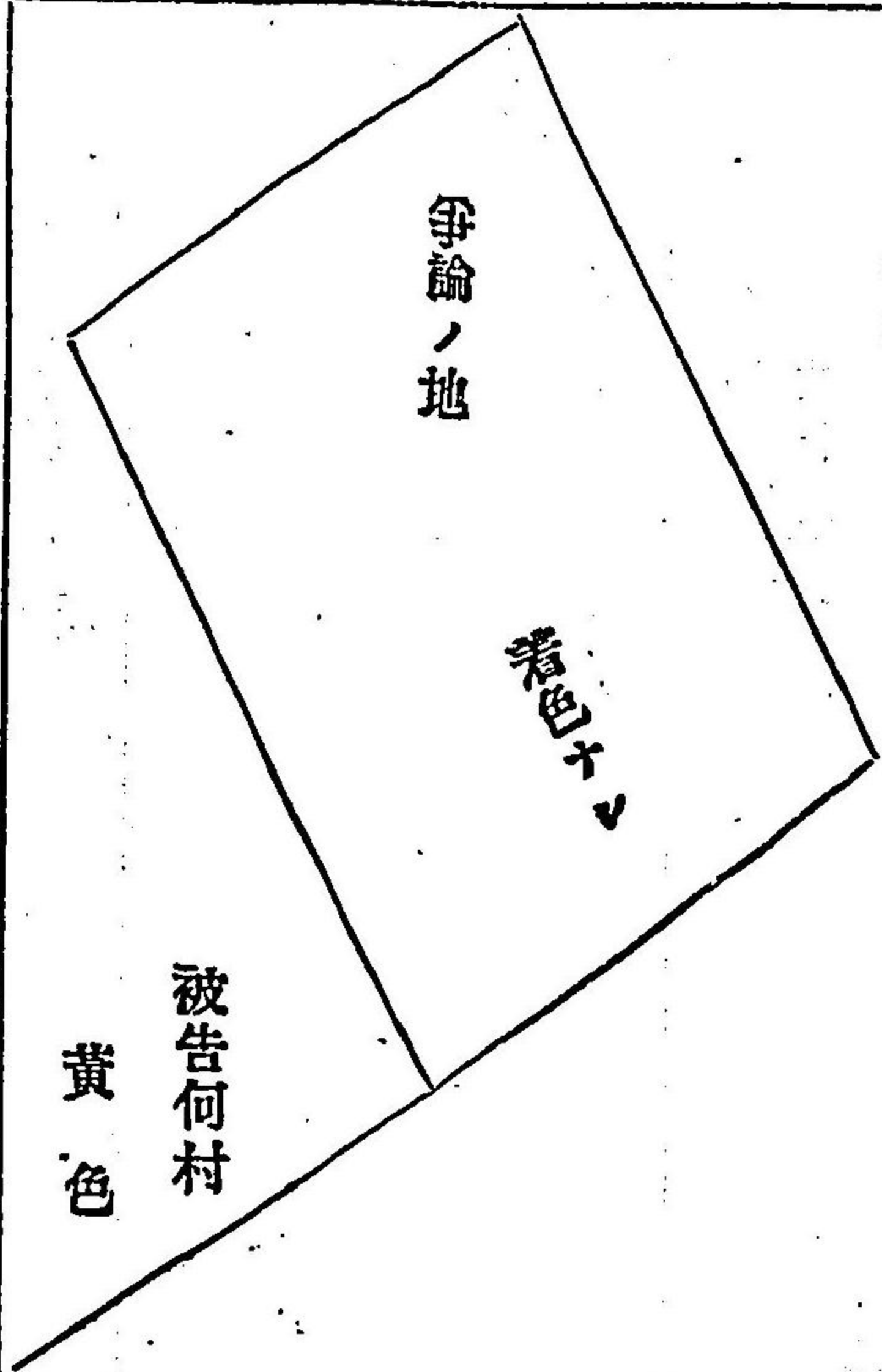
某
御裁判所

原告人

住所
身分
氏

名 印

原告何村
淺紅色



第八號

原告人三人以上ナルヲ一人ニ任ヌル訴狀

原告人
住所
身分
氏
名

某ノ訴

標記云々

右原告人氏名申上候云々

年月日

被告人
住所
身分
氏
名

代書人
住所
身分
氏
名
印

前書ノ儀原告私共連名ニテ御願可申上答ニ御座候處病氣云々ニテ難罷出ニ付何ノ誰ハ總代相願候然ル上ハ何ノ誰ヨリ申上候事柄並ニ御受仕候事柄共後日ニ至リ私共ヨリ異議申上間敷候爲後證奥印仕候

年月日

住所
身分
氏
名
印

某
御裁判所

代書人
住所
身分
氏
名
印

第九號

被告人連名中脱走又ハ病死人アルノ訴狀

原告人
住所
身分
氏
名

被告人
住所
身分
氏
名

被告人
元住所
身分
氏
名

被告人
住所
身分
氏
名

右何ノ誰ハ年月日脱走致候段何町役人何ノ誰
ヨリ承知仕候

右原告人氏名申上候云々

年月日

某
御裁判所

代書人
住所
身分
氏
名
印

被告人
住所
身分
氏
名

右何ノ誰ハ年月日死亡致候段何町役人何ノ誰
ヨリ承知仕候

第十號 本號ハ明治九年第九十九号布告消滅
讓證文ヲ以テ催促スル訴狀

第十一號 本號ハ明治九年第十八号布告消滅
代書人ヲ頼ム訴狀

第十二號 本號ハ明治九年第十八号布告消滅

一時假リノ代言人ヲ出ス證書
第十三號

證書表紙ノ式 用紙寸方第一號
訴狀ノ法ノ如シ

年月日

某ノ答書

住所
身分
氏名

答書ノ式

住所
身分
氏名

被告人

某ノ答書

右住所身分何ノ誰何々儀訴出候ニ付今何日御呼出ノ御狀拜見仕御答申上候
私儀云々

證據ノ書類アラハ其寫ヲ記載スヘシ

右之通御座候

年月日

住所
身分
氏名
印

代書人

某
御裁判所

第十四號

對決前熟議解訟ノ答書

某ノ訴濟口ノ答

被告人

住所
身分
氏名

右住所身分何ノ誰何々ノ儀訴出候ニ付今何日御呼出之御狀拜見仕原告人へ熟談濟
方仕候趣申上候

私儀云々

年月日

氏名印

住所身分

氏名印

代書人

前書被告人何ノ誰ヨリ申上候通熟談濟方仕候ニ付此上對決ノ御裁斷不奉願候

住所身分

氏名印

原告人

年月日

住所身分

氏名印

代書人

某

御裁判所

第拾五號

對決前返濟延期ノ約定ヲ爲シタル答書

住所身分

氏名

被告人

某ノ訴濟口日延ノ答

右住所身分何ノ誰何々ノ儀訴出候ニ付今何日御呼出ノ御狀拜見仕原告人へ熟談ノ

上濟方日延約定仕候段左ノ通御座候

私儀云々

年月日

氏名印

住所身分

氏名印

代書人

前書被告人何之誰申上候通熟談ノ上濟方日延約定仕候ニ付來何年何月何日マテ御

裁斷御猶豫奉願候

住所身分

氏名印

原告人

年月日

住所身分

氏名印

代書人

某

御裁判所

第四類 訴訟法 訴答文例

第十六號

對決前他人代償ノ延期ヲ約シタル解訟ノ答書

住所
身分
氏
名

某ノ訴何之誰ヨリ日延代償ニテ濟口之答

右住所身分何之誰何々之儀訴出候ニ付今何日御呼出之御狀拜見仕原告人へ熟談ノ
上親族中何ノ誰ヨリ日延代償約定仕候段左ノ通御座候
私儀云々

年月日

住所
身分
氏
名
印

代書人
住所
身分
氏
名
印

前書被告人何ノ誰申上候通リ私共ヨリ日延代償ノ約定仕候段相違無御座候

住所
身分

代償人
住所
身分
氏
名
印

年月日

第十七號

對決前他人代償ノ延期ヲ約シタル答書

御裁判所
住所
身分
氏
名
印

前書被告人何ノ誰申上候通私共承諾仕候ニ付此上對決ノ御裁斷不奉願候

年月日
住所
身分
氏
名
印

原告人
住所
身分
氏
名
印

代書人
住所
身分
氏
名
印

某ノ訴何之誰代償濟口日延ノ答

住所
身分
氏
名

被告人

右住所身分何之誰何々ノ儀訴出候ニ付今何日御呼出ノ御狀拜見仕原告人へ熟談之上親族中何ノ誰ヨリ代償濟方日延ノ約定仕候段左ノ通御座候私儀云々

年月日

代書人 住所 氏名 名印

年月日

代書人 住所 氏名 名印

前書被告人何之誰申上候通私共ヨリ代償濟方日延ノ約定仕候段相違無御座候何月何日迄御裁判御猶豫奉願候

年月日

原告人 住所 氏名 名印

某 御裁判所 代書人 住所 氏名 名印

第十八號

外國原告人ノ訴狀ノ式

訴狀 原告人 住所 氏名 名 被告 住所 氏名 名 右原告人氏名ヨリ右被告人氏名ニ對シ當御裁判所へ左ノ通訴訟申上候 第一云々 第二云々 第三云々 依之原告ヨリ御裁判所へ云々被成下度願上候事

第四類 訴訟法 訴答文例

但シ何等ノ處置ハ原告人ノ所願ニ候ヤ金子ノ拂カ其金高何程カ右判然ト認メ其他公正ノ御裁判ヲ願ノ趣ヲ認ムヘシ

日本地名
年月日

原告人

氏

名 花押

若シ原告人ノ代言者アル片ハ左ノ

如ク加判スヘシ

代言者 氏 名 花押

裁判所長
某氏

名

第十三款 代人ニ對スル訴訟

明治十六年五月司法省丁第十八號(大審院裁判所へ)達

義務ノ證書之某代理某ト代人ノ名ヲ以テ捺印締約シタル者ハ權利者ニ於テ此證書ヲ提供シ出訴スルニハ其本人ヲ相手取ル固ヨリ當然ナリト雖モ便宜ニ隨ヒ記名捺印シタル代人ヲ相手取ルコアルモ必ス棄却スルヲ要セス他ノ本人又ハ代人ヲ引合人トシテ召喚シ俱ニ之カ答辭ヲ爲サシメ被告者ノ義務ニ歸スル片ハ被告ヲシテ負擔セシメ引合人ノ義務ニ歸スルニ於テハ引合人ヲシテ負擔セシムル様相當ノ裁判ヲ爲シ與フヘキ筋ニ有

候條豫テ心得モ可有之候得共爲念此旨相達候事

第十四款

人民官衙ニ對スル訴訟

明治七年九月司法省第廿四號

各裁判所各縣へ達

今般人民ヨリ院省使府縣ニ對スル訴訟取扱ニ付假規則別冊之通相設テ候間以後右ニ準據可致候條此旨相達候事

人民ヨリ官府ニ對スル訴訟假規則

第一條 凡人民ヨリ官府ニ對シ一般公同ニアラサル人民一個ノ訴訟ハ司法官ニ於テ受理スヘシ其事件左ノ如シ

但闔區内又ハ幾個ノ人民共有ノ物及會社等ハ一個ノ人ト看做スヘシ

一官府所有ノ土地ニ關シタル事

一官府ノ會計及ヒ金銀貸借ニ關シタル事

一官府ノ管轄スル建造物等ニ關シタル事

第二條 訴訟事件ニ付テ被告タル官府ハ其長官ヨリ其代人ヲ撰ミ差出スコトヲ得ヘシ

其代人ノ外更ニ事件ノ證ヲ取ル爲メ主務ノ官吏ヲ呼出サ、ルヲ得サルトキハ其本人ヲ呼出スコトモアルヘシ (但シ委任以上ニ係ル者ハ奏請ヲ經テ區處ス)

第三條 裁判上官府ヨリ人民へ對シ償還スヘキ條理アルトキハ其事由及ヒ裁判ノ見込ヲ具狀申稟ス可シ

第四類

訴訟法

官衙ニ對スル訴訟

外國人へ係ル訴訟

三百四十三

若シ主務ノ官吏一己ノ生錯ニ出テ其者ヨリ償還スヘキハ具狀申稟スルニ及ハスト雖
モ事情止ムヲ得サル場合ニテ官府ヨリ償還セサルコヲ得サル片ハ具狀申稟スルコト前
項ニ同シ (但具狀申稟ヲ經テ裁決スル者ハ之ヲ終審トシ更ニ控告スルコトヲ得ス
第四條 右ニ記載シタル場合ノ外人民一個ノ事ニアラサルニ般公同ノ爲ニ起ル訴訟ニ
テ行政裁判ニ歸スル者ト雖モ當今其設置ナキヲ以テ之ヲ訴ル者アルトキハ先以テ之
ヲ具狀申稟シテ正院ノ指圖ヲ乞フヘシ

- 一官ノ會計ニ付一般ノ人民ニ關スル事
- 一道路ヲ作ルニ付一般ノ人民ニ關スル事
- 一工部ノ製造建築ニ付一般ノ人民ニ關スル事
- 一此官廳ト彼官廳トノ間ニ起ル權限ノ事
- 一行政官ト司法官トノ間ニ起ル權限ノ事

但右ノ裁判ニ付テノ手續ハ第二條第三條ニ同シ

(參看)明治七年九月司法省第二十五號達ヲ以テ本文中官府ノ二字ハ總テ院省使府縣
ノ五字ノ誤ノ旨達セラレタリ

○第十五款 外國人ヘ係ル訴訟手續
明治八年五月司法省甲第三號布達
內國人ヨリ外國人ヘ係ル民事刑事ノ訴訟手續左ノ通相定候條此旨布達候事

內國人原告ニテ外國人ニ係ル民事刑事ノ訴訟ハ原告人其事由ヲ各開港開市場ノ府縣廳
ニ申出其廳ノ添狀ヲ得テ被告人管轄ノ各國領事ヘ申訴スヘシ
(參看)明治九年十月司法省甲第十三號ヲ以テ本令中刑事ノ二字ヲ刪除セラレタリ

△明治九年九月司法省甲第十二號布達

明治八年當省甲第三號ヲ以テ布達候內國人ヨリ外國人ニ係ル民事刑事ノ訴訟手續中今
般左之通相定候條此旨布達候事

第一條 內國人原告ニテ外國人ニ係ル刑事并ニ民事附帶ノ訴訟ハ檢事其他ノ警察官
(東京ニテハ警視廳其他ノ府縣ハ地方官)ニ於テ之ヲ承テ直ニ被告人管轄ノ外國領事
ヘ照會シ裁判ヲ求ムヘシ

第二條 前條ノ場合ニ於テ犯罪ノ爲メ損害ヲ受ケタル者其償ヲ求ムル民事ノ訴ハ總テ
本人ノ望ニ任スヘシ

○第三章 訴訟費

○第一款 訴訟入費償却規則
明治九年四月司法省甲第五號布達
訴訟入費償却規則左ノ通改正候條此旨布達候事

第二條 訴狀其外書類認料 一枚十六行十五字詰ニ付拾錢
右定限 但シ一枚以下モ全價

- 第一 原告人ノ訴狀ノ正本副本
- 第二 被告人ノ答書ノ正本副本
- 第三 訴訟又ハ答書中ニ記載シ難キ證據ノ書類ノ寫
- 第四 審判中ニ原告又ハ被告ヨリ差出シタル證據ノ書類ノ寫
- 第五 訴訟中訴狀ニ關係スルノ事件ニ付原被告双方往復ノ文書
- 第二條 證人並ニ引合人(十二年司法省甲第一號布達ヲ以差添人ニ係ル事件々一切刪除) 手當 一日ニ付五拾錢
但シ八里以外ヨリ罷出止宿ノ者ハ貳拾五錢ヲ増ス
- 右定限
- 裁判所ニ出席ヲ爲シタル日
- 第三條 證人並ニ引合人滿八里以外ノ地ヨリ來リ滯留中ノ手當 一日ニ付五拾錢
(九年司法省甲第六號ヲ以本條並ニ第六條ハ執行ヲ停止スル旨布達セラレ)
- 第四條 證人並ニ引合人旅費 滿八里ニ付拾錢歸路モ同斷
但シ八里ヲ越ユレハ每滿一里ニ付拾錢
- 右定限
- 第一 兩線ノ官道甲路ハ遠ク乙路ハ近キ時ハ現ニ甲路ヲ經ルト雖モ乙路ヲ以テ計算スル

- 第二 本條ハ日本國管内ヲ通行スル者ノ爲メ設ク
- 第五條 原告人又ハ被告人直ナル者ノ手當 一日ニ付五拾錢
但シ八里以外ヨリ罷出止宿スル者ハ貳拾五錢ヲ増ス
- 右定限
- 第二條ニ同シ
- 第六條 原告人又ハ被告人直ナル者八里以外ノ地ヨリ來リ滯留中手當 一日ニ付五拾錢
- 第七條 原告人又ハ被告人直者旅費 滿八里ニ付拾錢歸路モ同斷
但シ八里ヲ越ユレハ每滿一里ニ付拾錢
- 右定限
- 第四條ニ同シ
- 第八條 通辨雇料 一日ニ付三圓
- 右定限
- 第二條ニ同シ往返旅費ヲモ定額ノ通計算スル
- 第九條 翻譯料 一枚ニ付十六行十五字詰二圓
但シ一枚以下モ同價
- 右定限

第四類 訴訟法 訴訟入費償却規則

第一條ニ同シ

第十條 測量繪圖認料

右定限

第一 長三百間ニテ盡ル時ハ

百間ニ付一尺ノ割

第二 長六百間迄

百間ニ付五寸ノ割

第三 長千二百間迄

百間ニ付三寸ノ割

第四 長六千間迄

百間ニ付二寸ノ割

第五 長一萬貳千間迄

百間ニ付一寸ノ割

第六 長壹萬貳千間以上

百間ニ付五分ノ割

一 測量ニ及ハサル見取繪圖ハ間數ノ長短ヲ論セス大凡見積ヲ以テ簡便ニ圖引致スヘシ

西ノ内一枚ニ付拾錢

同 拾二錢

同 拾四錢

同 拾七錢

同 二拾錢

同 廿四錢

但シ西ノ内一枚ニ付拾錢

第十一條 使賃

但シ坂路モ同斷

滿一里毎ニ拾錢一里未滿ハ五錢

右定限

第一 裁判所ニテ示談中双方承諾ノ上原告被告双方又ハ一方ノ者ヨリ遣ハシタル使賃

第二 裁判所ニテ示談中原告又ハ被告一方ノ者掛裁判役ノ檢印ヲ經タル使賃

第三 原告又ハ被告一方ノ者出訴中違約シテ出席セサル時掛裁判役ノ檢印ヲ經テ違約ヲ責ムル使賃

第四 原告被告双方ノ爲メ又ハ一方ノ爲メ又ハ一方ノ者ノ申立ニ因リ裁判所ヨリ臨時ニ遣ハシタル使賃

右定限

定價

第十二條 郵便並ニ電信料

第十一條ニ同シ

第十三條 身代限ヲ爲メニ付裁判所又ハ縣廳又ハ(町村)役場ニ納ムヘキ評價人鑑定人等ノ日雇賃金ノ諸入費及身代限諸雜費臨時計算ヲ以テ定ム

第四類 訴訟法 裁判費訴訟費辨償例

右ハ前數條ノ入費ニ先ツテ取立ヘシ

○第二款 喚出狀送達費用辨償方 明治十一年三月司 法省丁第十號達

民事訴訟上ニ付人民喚出狀送達費用等余儀ナク一時裁判所ヨリ立替渡シタルモノハ其時々直チニ詞訟人ヨリ取立ヘシ但裁判落着ノ上ハ曲者ノ辨償ニ歸スヘキハ勿論タルヘキ事右ハ爲念此旨相達候事

○第三款 訴訟入費辨償方 明治十二年十一月司 法省丁第二十八號達

訴訟入費云々ノ義十一年丁第四十四號ヲ以テ相達置候處左ノ通改達候條此旨可心得事訴訟入費ハ曲者ヨリ直者ニ辨償スヘキハ當然ノ事ナルニ付裁判言渡ノ節ハ必ス曲者ノ辨償ニ歸スヘキ旨言渡スヘシ

○第四款 裁判費訴訟費辨償例 明治十二年三月司 法省丁第十號達

裁判費訴訟費ノ義ニ付別紙ノ通大審院へ相達候條此旨爲心得相達候事 大審院へ達 (明治十二年三月十三日) 括弧内朱書 裁判費訴訟費ノ義過般及答議候處右ハ取消シ別紙ノ通相達候事 別紙

(第一例)

初告ニテ 原告(甲)勝 (乙)入費ヲ拂フ

控訴ニテ 原告(甲)勝 (甲)ハ初告控訴兩件ノ入費ヲ拂フ

(破毀セズ)上告ニテ 原告(甲)勝 (甲)ハ總テノ入費ヲ拂フ

(第二例) 初告ニテ 原告(甲)勝或ハ負トモ (乙)負或ハ勝トモ

控訴ニテ 原告(甲)勝 (甲)ハ初告控訴ノ入費ヲ拂フ

(破毀ス)上告ニテ 原告(甲)勝 (乙)ハ上告入費ヲ拂フ而シテ甲ハ控訴マテノ入費ヲ既ニ償ヒシナラハ取返スヘシ

(第三例) 此例ハ大審院ニ於テ破毀シタル後第ニノ上等裁判所ニ移シタル場合ナリ

此時負者ハ初告ト第一控訴ト第二控訴ト都合三件ノ入費ヲ拂フヘシ上告入費ニ至テハ其上告ノ負者之ヲ拂ヒ第二控訴ノ負者ハ之ヲ拂フヘキニアラス

○第四章 身代限

○第一款 身代限規則 明治五年六月第 百八十七號布告

第四類 訴訟法 身代限規則

今般華士族平民共身代限規則相定候條左ノ通相達候事
但當壬申八月朔日ヨリ施行可致事

華士族平民身代限規則

平民身代限抵償トシテ差押フ可ラサル品類

一時服着替共男女各二通宛

一夜具男女各一通宛

一本ノ職業ヲ爲スニ必要ナル諸物品但學藝ヲ人ニ教ヘ又ハ農工商等職業ニ必要ナル書類器械品物等其金額五拾兩ニ至ル迄最モ本人ノ擇ム所ニ任ス可シ其直段ハ貸主借主ヨリ鑑定ノ者ノ類 一人宛差出シ外入札人ト共ニ入札爲致(町村)役人ニ於テ總入札ヲ比較シ高札ヲ以テ其價ヲ定ムヘキ事

一食料

家族ノ人口ヲ量リ一ヶ月間用キル飯米ヲ殘シ置クヘキ事

但男子ハ一日ニ付五合麥ハ一升雜穀ハ一升五合婦女幼少ハ四合麥ハ八合雜穀ハ

一升二合宛ノ事

一鍋釜及炊具 各一通

華士族身代限抵償トシテ差押フヘカラサル品類

一家祿(五年第三百二十七號布告ヲ以テ取消)

一大小類 男子一人ニ付各一腰宛

一冠服 男子一人ニ付各一通宛

一時服着替共 男女共各二通宛

一夜具 男女共各一通宛

一本ノ職業ヲ爲スニ必要ナル諸物品

但學藝ヲ人ニ教ヘ又ハ農工商等ノ職業ニ必要ナル書類及諸器械品物等其金額五拾兩ニ至ル迄最モ本人ノ擇ム所ニ任スヘシ其直段ハ貸主借主ヨリ鑑定ノ者ノ類 一人宛差出シ外入札人ト共ニ入札致サセ 町役人ニ於テ總入札ヲ比較シ高札ヲ以テ其價ヲ定ム可キ事

一鍋釜及炊具類 各一通

右身代限ノ節ハ三十日間裁判所門前高札場並ニ本人家宅へ揭示ヲ出シ其次第傳承日限中追願ノ者ハ取糾ノ上可處置事

但新聞紙ヲ刊行スル地ニ於テハ亦之ニ記載セシムヘシ

一前條ニ記スル處ノ引殘スヘキ必要物件ノ内未タ代價ヲ拂ハサル分ハ賣主ヨリ日限内訴出レハ現品ヲ取戻スヲ得ヘシ

但現在着用ノ衣服夜具ハ此限ニアラス

一身代限ノ物件ハ入札拂ニ出ス可シ尤金銀器等ノ定價判然タル物品ハ眞價ヨリ低ク賣拂フヘカラス且ツ賣拂金ノ總額ハ其者ノ負債及ヒ右一件ノ諸費用ヲ償フニ過クヘカラス

但入札拂ノ日ヨリ三日前ニ其品物及ヒ場所時刻ヲ裁判所門前並ニ其者ノ居宅及ヒ各地士民群集ノ所ヘ揭示シ及ヒ新聞紙ヲ刊行スル地ニ於テハ亦之ニ記載セシムヘシ且ツ貸主借主ヨリ差出セシ鑑定ノ者モ他人ト共ニ入札致サセ^町村役人ニ於テ總入札ヲ比較シ高札ヲ以テ其價ヲ定メ之ヲ現金ニテ取立裁判所ヘ差出スヘシ

○第二款 僧侶身代限規則

明治六年三月 第八十八號布告

僧侶借財滯出入ニ付身代限規則左之通被相定候條此旨相達候事

僧侶身代限規則

抵償トシテ差押フ可ヲサル品類

一 食料

寺内ノ人口ヲ量リ僧侶ハ一日ニ五合麥ハ一升雜穀ハ一升五合尼及婦女幼少ハ四合麥ハ八合雜穀ハ一升二合宛一ヶ月間用フル飯米ヲ殘シ置クヘキ事

一 建物

法用ニ必要ナル箇所

但本堂等へ建添候トモ榮耀ニ屬スル箇所ハ此限ニアラス

一 寄附帳ニ記載スル部分

一 什物帳ニ區別シテ記載スル古來傳承ノ寶物並法用ニ必用ナル部分

一 法衣 寺主並所化及尼共 各一通宛

一 時服着替共 寺主並所化及婦女共 各二通宛

一 夜具 寺主並所化及婦女共 各一通宛

一 鍋釜及炊具類各一通

一 木人職業ヲ爲スニ必要ナル金額五拾兩ニ至ル迄ノ物品ヲ差除ク等其他ノ方法ハ華士族平民身代限ニ同シ

○第三款 身代限ノ節定期限未滿ノ者處置方

明治六年七月第二 百五十二號布告

負債者身代限ニ遇フ節其者へ對シ貸金敷其他義務ヲ得可キ者定期期限未滿内ノ分處置振左ノ通被定候條此旨相達候事

第一條 貸金敷又ハ義務ヲ得ヘキ者定期期限未滿内ニハ訴出ルコトヲ許サ、ル規則ナレ

第四節 訴訟法

身代限ノ節定期限未滿ノ者處置方

其負債者又ハ義務ヲ行ヘキ者右期限未滿内ニ身代限ニ遇フ時ハ訴出ルコトヲ得ヘシ
第二條 定約期限未滿内ニ訴出ル時ハ滿期後訴出ル者ト同一ノ權利ヲ有シ身代限財產
糶賣金ノ配分ヲ受ルコトヲ得ヘシ

第三條 請人証人等連印ニテ本人返濟相滯ルニ於テハ引受返濟可致明文有之証書ヲ取
置キタル者ハ本人身代限財產糶賣米金ノ配分ヲ受ケ尙ホ不足アラハ滿期ノ時ニ至リ
請人証人ニ係リ之ヲ訴フルコトヲ得ヘシ

第四條 身代限ニ遇フ者期限未滿内ノ者ニハ滿期ノ時ニ至リ返濟ニソト欲スル片ハ別
段請人ヲ立テ請人ヨリ動不動産ヲ引當テ又ハ質物トナシ違變ナキヲ証明シテ原告人
ノ承諾ヲ求ムルヲ必要トス

第五條 負債者滿期ヲ保スル爲メ改メテ請人ヲ立テ請人ヨリ動不動産ヲ引當又ハ質物
ト爲シ違變ナキヲ證明シ原告人之ヲ承諾スル片ハ其原告人ハ此同ノ身代限財產糶賣
金ノ配分ヲ求ムルコトヲ得ヘカラス

第六條 定約期限未滿内ノ債主ハ身代限ニ遇フ負債主ニ對シ期限未滿内ニ訂フルモ滿
期後ニ至リ訴フルモ其者ノ情願ニ任スト雖トモ身代限ニ遇フ者ノ動不動産ヲ引當又
ハ質物ニ取置キタル債主ハ右動不動産ヲ身代限ノ糶賣ヲ爲スニ付己ノ受取ヘキ金高
ヲ求ムルコトヲ得ヘキノミニテ糶賣ヲ爲スコトヲ拒ムヲ得ヘカラス

第七條 動不動産ヲ引當テ又ハ質物ニ取リ置タル者ハ其財產糶賣金ノ内ニテ元金高又
ハ利息アレハ其利息ト共ニ其定約ノ證書ニ據リ處分ノ時迄ノ金高ヲ計算シ請取ヘキ
ノ求メヲ爲シ裁判所ニ於テハ糶賣金配分ノ規則ニ從ヒ引當又ハ質物ヲ取置タル者ニ
配分スヘキ金高ヲ引渡スヘシ

第八條 引當又ハ質物ヲ取置カサル金穀ノ債主定約期限未滿内ニ訴出ル片ハ元金高又
ハ利息アレハ利息ト共ニ其定約ノ證書ニ據リ處分ノ時迄ノ金高ヲ計算シ請取ヘキ求
ヲ爲シ裁判所ニ於テハ糶賣金配分ノ規則ニ從ヒ處分ヲ爲スヘシ

○第四款 身代限ノ節他人へ貸付証文アル片取扱方
明治七年九月司法
省第二十三號達

金穀ヲ借り返濟ヲ爲シ能ハサル者裁判所ノ處分ニ因リ身代限ニ遭ヒ候トキ所有物ノ内
他人へ貸附置キタル金穀ノ証文之レアル節ノ取扱振明治五年壬申第四十號ヲ以テ相達
置候處詮議之次第有之左之通改正候條此旨相達候事

第一條 各裁判所ニ於テ身代限ノ處分ヲ爲スニ當リ身代限ニ遭フ者ノ物件ノ内ニ身代
限ニ遭フモノヨリ他人へ貸付オキタル金穀ノ証文有之片ハ其証文ノ定約期限ノ滿未
滿ヲ論セス証文ニ記名シタル負債主へ眞偽ヲ尋テ無相違片ハ其負債主ヨリ証文面ノ
通り可受取旨身代限ニ遭フ者ノ債主へ申渡シ別紙雛形ニ習ヒ証文ニ裏書ヲナシ其債

主ニ相渡スヘキ事

第二條 前條ノ場合ニ於テ債主其證文ヲ受取ルヲ好マサル片ハ其證文ハ身代限ニ遭タル者ニ所持致サセ置クヘキ事

但シ定約期限ノ證文ニテ負債主ノ家産些少ナルモ身代限ニ遭フ者ノ債主ニ於テ其負債主ノ身代限ヲ以テ現金ノ割賦ヲ請度旨申立ルニ於テハ望ノ通處分スヘキ事

第三條 債主數名ニシテ身代限ニ遭フ者ヨリ他人へ貸付置タル金穀ノ證文一通又ハ數通ナル片ハ數名ノ債主ニ入札致サセ落札ノ金員ヲ以テ其落札シタル債主ト其他ノ債主トヘ金高ニ應シ配當シ其落札ノ證文ニハ一通毎ニ第一條ノ方法ニ依リ處分スヘキ事

但シ數名ノ債主悉ク入札ヲ好マサル片ハ第二條ノ處分ニ及フヘキ事

第四條 證文ヲ落札シタル債主證文ニ記名シタル負債主ヨリ金ヲ受取リタル片ハ其金員中ヨリ己レノ受取ルヘキ金高ト之ヲ受取ルニ付テノ諸入費ノ金高トヲ引去リ其餘金ハ證文ニ記載シタル債主ニ返シ而シテ右ノ計算ヲ爲シタル明細勘定書ト餘金ヲ返シタル受取書トヲ以テ裁判所ニ届ケ出ツヘキ事

第五條 若シ證文ヲ落札シタル債主證文ニ記名シタル負債主ヨリ金ヲ受取ラントスルニ證文ニ記名シタル負債主モ又身代限ニ遭ヒテ證文ニ記シタル金員ノ全部又ハ幾

部ヲ返シ能ハサル片ハ證文ニ記名シタル負債主ヨリ證文ヲ落札シタル債主ニ對シ右ノ部分金員ヲ身代持直次第返済スヘキ旨ノ證文ノ裏書ヲ裁判所ヨリ受取ルヲ得ヘキ事

但此時發ニ身代限ニ遭ヒタル者ノ裏書證文ヲ持出スヘシ裁判所ニ於テハ之ニ金員ノ差引ヲ記載シニ通ノ證書ヲ一綴ニシテ下付スヘシ

第六條 證文ヲ落札シタル債主證文ニ記名シタル負債主ヨリ金ヲ受取ルヘキ期限ニ至ラサル時證文ニ記載シタル債主即チ發ニ身代限ニ逢ヒシ人己ニ身代持直シタルトキハ直ニ其人ニ對シ再ヒ金穀ノ返済ヲ請求スルヲ得ヘキ事

證文裏書雜形

表書ノ貸主何ノ誰儀年號月日身代限申付候ニ付此證文ハ(入札ヲ以テ渡ス片ハ此間ニ入札ヲ以テノ五字ヲ書キ加フヘシ)某府縣管下某國某郡某町村何ノ誰ヘ相渡シ候條此證書ノ金額ハ右何ノ誰ヘ濟方致候上其段當裁判所ヘ可届出事
年號月日
某裁判所印

○第五款 身代限ノ節配分方法 明治八年四月 第五十三號布告

地所ノ賣入書入ハ尋常ノ私約ト違ヒ戶長役場ノ帳簿ニ記載シテ奥書割印モ之レアル公

第四類 訴訟法 身代限ノ節配分方法

正ノ證書ニ付若シ身代限ノ財産中質入又ハ書入ノ地所アリテ其債主揭示中ニ訴出サル節ハ其地所糶賣代價ノ中ニ債主受取ルヘキ元金高ニ糶賣金配當ノ日マテノ利息ヲ加ヘ第一番ニ引キ去リ裁判所ニ於テ之ヲ糊封シ掛リ官員兩名調印ノ上戸長役場ニ預ケ證キ後日債主願出次第相渡スヘク候條此旨布告候事

但質入書入ノ金高及ヒ利息等不分明ノ節ハ本人呼出シ取調可申事

△明治五年九月司法省第九號布達

凡動産不動産取引ノ訴訟ヲ審判スルニ原告被告雙方ノ内一方ノ者負公事ニ決スル時ハ日切濟方申付候上仍ホ不相濟ニ於テハ身代限リ申付候方法ニ有之候處自今日切濟方ノ舊法ヲ廢シ一方ノ者負公事ニ相決直チニ濟方不相成候時ハ身代限ノ方法ヲ執行可致候事

○第六款 身代限揭示案

明治七年七月
第七十一號布告

明治六年(五月)第百八十一號布告身代限揭示案左ノ通改正候條此旨布告候事

何 町 村

何 誰

右之者儀何(町村)何ノ誰ヨリ何々(其事目ヲ揭ク)出訴ニ及ヒ吟味ノ上身代限申付ルニ

付若シ何ノ誰ヘ係リ金穀其他諸取引ノ訴有之者ハ當何日ヨリ來ル何月何日迄日數六十日內ニ當裁判所ヘ訴出ツヘシ右日限過去訴出ルニ於テハ此度身代分散金ノ分配ニハ不差加者也

○第七款 同居異産者身代限處分法

明治五年九月第二
百七十五號布告

父兄ト同居ノ子弟或ハ別居シテ財産ヲ異ニスルモノ又ハ父既ニ家督ヲ其子ニ讓リ隱居別宅シテ財産ヲ異ニスル者自今一己ニ金銀借受候分其證券中木家ノ戸主保證ノ調印無之上ハ貸主ニ於テ木家ノ財産ヲ目的トシ貸シ與フル筋無之候ニ付若シ右等ノ者共返金相滞訴訟ニ及ヒ候節同居ノ者ハ其身所持ノ品物ノミ分産異居ノ者ハ其財産ノミヲ以テ之ニ當テ身代限リニ裁判申渡候條爲心得此段相達候事

○第八款 身代限ノ節現在印紙類處分方

明治十七年十月大藏省第七十三
號(府縣)沖繩縣ヲ除ク(ハ)達

民事訴訟身代限リ又ハ税金不納ニヨリ財産ノ全部ヲ公賣スル際諸印紙手形用紙ヲ所持スルモノ及ヒ煙草賣藥營業者廢業又ハ其營業稅不納公賣處分ノ際該印紙ヲ所持スルモノハ損傷汚染ノ分ヲ除キ手数料トシテ代價百分ノ十ヲ上納スル片ハ之ヲ管廳ニ買上ルコトヲ得

但買上タル印紙類ハ各應元受ニ組入レ買上代金ハ收稅長ヨリ主稅官長ヘ別途請求シ

手数料ハ雜収入トシテ納付スヘシ
右相違候事

○第九款 身代限ノ節取扱方 明治六年三月 第八十九號布告

今般僧侶身代限規則被相定候ニ付テハ寺院所有ノ田園建造物諸器什檀家ヨリ寄附ノ分又ハ法用ニ必要ナル分並ニ古來傳承ノ寺寶等ノ部分判然相立不申候テハ差支候條左ノ規則ニ從ヒ寄附帳什物帳相綴リ置可申候

一 寄附帳ニハ何年何月何誰寄附ノ田園反別建造物坪數諸器物ノ質分ニ至ルマテ詳細ニ記載スヘシ

一 什物帳ニハ法用ニ必要ノ分並ニ寺寶ヲ區別シ記載スヘシ

一 右二帳二部ツ、相綴リ檀家法類共兩人以上並ニ其地ノ戸長檢査ノ上各姓名ヲ署シ之レニ調印シ一部ハ戸長役所ニ藏シ一部ハ其寺院ニ藏シ置ク可シ
右之通相違候事

○第五章 代言

○第一款 代言人規則

明治十三年五月 司法省甲第一號布達

明治九年當省甲第一號代言人規則左之通改正候條此旨布達候事
但該規則ニ抵觸スル從前ノ布達ハ廢止タルヘシ

第一款 總則

第一條 代言人ハ法令ニ於テ代言ヲ許サレタル詞訟ニ付テ原告又ハ被告ノ委任ヲ受ケ其代言ヲ爲ス者トス

第二條 代言ノ業ヲ爲サント欲スル者ハ第四款ニ掲クル所ノ手續ニ依リ定式ノ試驗ヲ經テ司法卿ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 免許ヲ受クシ代言人ハ大審院及ヒ諸裁判所ニ於テ代言ヲ爲ヌヲ得

第四條 代言人ノ免許ヲ得ル能ハサル者左ノ如シ
一 未丁年者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者

三 盜罪詐僞罪ニ付キ刑ヲ受ケタル者

四 國事犯ヲ除クノ外懲役並禁獄一年以上ノ刑ヲ受ケタル者

五 官吏准官吏及ヒ公私ノ雇人

第五條 免許ヲ受ケシ者ハ必ス第二款ニ掲クル所ノ代言人ノ組合ニ入リテ其規則ヲ守ルヘシ若シ一時他管ニ出テ代言ヲ爲ス片ハ其地組合ノ規則ヲ遵守スヘシ

第四款 訴訟法 代言人規則

第六條 代言人新ニ免許ヲ受ケシ時及ヒ他ノ地ニ轉住セント欲スル片ハ其業ヲ爲ス所ノ裁判所及ヒ檢事(檢事ナキ地ハ檢事ノ職務ヲ攝行スル者以下之レニ倣フ)并ニ會議長ニ其旨ヲ届ケ廢業ノ時ハ免許狀ヲ檢事ニ返納スヘシ

第七條 代言免許ハ滿一年(月ヲ以テ算フ)ヲ以テ限トシ免許料ハ金拾圓トス其業ヲ繼續セント欲スル者ハ毎年免許料ヲ納ム可シ既ニ納メタル免許料ハ廢業停業除名ノ時ト雖モ之ヲ還付セズ

第八條 新規出願ノ者ハ免許狀ヲ受ケル時免許料ヲ直チニ檢事ニ納ムヘシ

引續出願ノ者ハ必ス免許期限ノ盡ル前願書ニ免許料ヲ添ヘ檢事ニ差出ス可シ但右手續ヲ爲シタル片ハ期限後ニ係リ未タ免狀ノ下付有ラサルモ其儘代言ヲ爲スヲ得ヘシ

第九條 免許料ヲ納メサルヲ以テ免許ヲ得ヌ又ハ期限前ニ於テ引續願ヲ爲サスシテ免許ノ効ヲ失ヒシ者再ヒ代言ヲ爲サント欲スル片ハ新規出願ノ手續ニ循フヘシ

第十條 免許狀ヲ紛失シ又ハ氏名ヲ改メシ者ハ更ニ免許狀下付ノ願ヲ檢事ニ出スヘシ但願書ノ副本ニ檢事ノ檢印ヲ受ケ置キ引替免許狀下付迄ハ之ヲ以テ免許代言人タルノ證ト爲ス可シ

第十一條 代言ヲ爲スニハ必ス詞訟本人ノ委任狀ヲ受ケヘシ

第十二條 代言人ノ懲罰ハ第三款ニ依テ處分スヘシ

第十三條 代言人ノ所業ニ因リ生シタル詞訟本人並ニ相手方關係人ノ損害ハ其代言人ニ於テ之ヲ償フ可シ

第二款 議會

第十四條 代言人ハ各地方裁判所本支廳所轄毎ニ一ノ組合ヲ立テ議會ヲ設ケ左ノ目的ヲ以テ規則ヲ定メ契約ヲ固クスヘシ但組合ハ各裁判區ノ廣狹遠近ニ因リ檢事ノ見計ヲ以テ之ヲ分合スルコトアル可シ

- 一 互ニ風儀ヲ矯正スル事
- 二 名譽ヲ保存スル事
- 三 法律ヲ研究スル事
- 四 誠實ヲ以テ本人ノ依頼ニ應スル事
- 五 強テ本人ノ權利ヲ捏造セサル事
- 六 妄リニ言詞ヲ變改セサル事
- 七 故ナク時日ヲ遷延セサル事
- 八 相當謝金ノ額ヲ定ムル事

但該規則ハ必ス檢事ノ照閱ヲ經可シ其改正増補モ亦之ニ同シ

第十五條 組合毎ニ會長一名副會長一名又ハ二名ヲ毎年第一次會ニ於テ投票ノ多數ヲ

第四類 訴訟法 代言人規則

以テ定ムヘシ若シ投票ノ數相均シキ片ハ先キニ免許ヲ得タル者ヲ以テシ其時日相同シキ片ハ年長ノ者ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第十六條 會長ハ議會ノ管理ヲ爲シ副會長ハ會長ヲ補助シ會長差支アル片ハ之カ代理ヲ爲スヘシ其任期ハ各滿一年トス但每期投票多數ヲ得ル者ト雖モ其職務ヲ繼續スルハ三期ヲ以テ限リトス

第十七條 第二十二條ニ記載シタル條件ヲ犯ス者アル片ハ各代言人ハ之ヲ會長ニ報告シ會長ハ之ヲ檢事ニ告發スヘシ

若シ會長告發ヲ遷延シ又ハ其所犯會長ニ係ル片ハ各代言人ヨリ直チニ檢事ニ告發スヘシ

第十八條 議會ヲ開クハ毎年二次ヲ以テ定例ト爲シ其日數一次十五日ヲ過ルヲ得ス若シ已ムヲ得サル場合ニ於テ期日ヲ延サントスルカ又ハ臨時會ヲ開カントスル片ハ必ス檢事ノ認可ヲ受クヘシ但其會費ハ各代言人ニ於テ之ヲ擔當スル者ト爲ス

第十九條 會長ハ組合總員ノ名簿ヲ作り其本貫族籍住所年齡及ヒ代言免許ノ年月日ヲ記シ轉住廢業懲罰ノ事アル毎ニ其旨ヲ記スヘシ

第二十條 議會中詞訟事件ニ付參會スルヲ得サル場合ニ於テハ其旨ヲ會長ニ届出ツヘシ

第二十一條 會長及ヒ副會長ト雖モ代言ノ職業ニ付テハ一般ノ代言人ト異ナルナシ

第三款 懲罰

第二十二條 代言人左ノ條件ヲ犯ス片ハ輕重ヲ量リ第二十三條及ヒ第二十四條ニ依テ懲罰スヘシ

- 一 訟廷ニ於テ現行ノ法律ヲ誹議スル者
 - 二 訟廷ニ於テ官吏ニ對シ不敬ノ所業ヲ爲ス者
 - 三 訟廷ニ於テ相手方ヲ凌辱罵詈シタル者
 - 四 詞訟ヲ教唆シタル者
 - 五 證據ト爲ルヘキ者ヲ捏造シタル者
 - 六 他人ノ詞訟ヲ買取リ自己ノ利ヲ圖ル者
 - 七 強テ謝金ヲ前收シ又ハ過當ノ謝金ヲ貪リタル者
 - 八 故ヲニ時日ヲ遷延シ本人並ニ相手方關係人ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 九 議會組合ノ外私ニ社ヲ結ヒ號ヲ設ケ營業ヲ爲シタル者
 - 十 議會ニ於テ定メタル取締規則ヲ犯シタル者
- 第二十三條 懲戒ノ目次左ノ如シ
- 一 罷責

二 停業

三 除名

第二十四條 所犯法律ニ該ル者ハ法律ニ依テ處斷シ仍ホ第二十三條ノ罰目ヲ併科スルコアルヘシ

第二十五條 譴責ハ止タ呵責シテ業ヲ停メス停業ハ一月以上一年以下其業ヲ停メ除名ハ代名人名簿ノ名ヲ除キ三年ヲ經ルノ後ニ非ラサレハ復タ代名人タルヲ得ス若シ其所爲ノ情狀重キ者ハ終身之レヲ許サス

第二十二條ノ懲罰ヲ受ケタル者アルハ其旨ヲ裁判所ノ扣所ニ揭示スヘシ

第四款 出願

第二十六條 代言免許ヲ願フ者ハ第二十九條ノ書式ニ倣ヒ願書ヲ作り現住戸長又ハ區長ノ奥印ヲ受ケ履歷書ヲ添ヘ其所轄ノ檢事ニ差出シ定式ノ試験ヲ受ケヘシ

第二十七條 出願定月
二月 八月 各上半ヶ月ヲ以テ限ト爲ス

第二十八條 試験ノ課目左ノ如シ

- 一 民事ニ關スル法律
- 二 刑事ニ關スル法律

三 訴訟ノ手續

四 裁判ニ關スル諸規則

第二十九條 願書及ヒ履歷書式

代言願

本貫住所(寄留ナル片ハ其寄留所ヲ記入ス可シ)

身分

氏

年 齡

右

名

氏

名 印

年 號 月 日

司法卿某殿

前書ノ通出願候ニ付奥印致候也

履歷書

右戸長(又ハ區長) 氏 名 印

本貫住所(寄留ナルトキハ其寄留所ヲ記ス可シ)

身分
職業
氏名
年 齡

一地名身分何某ニ隨ヒ何年ヨリ何年迄何學修行何某ニ隨ヒ何技術ヲ修行
 一何年月日何(官職)ニ任シ何年月日(免官)
 一何年月日何々ノ(職)廉ヲ以テ何廳ヨリ賞典ヲ受ク
 一何年月日何々ノ犯罪ニ依リ何ノ刑ヲ受ク
 一何年月日身代限ノ處分ヲ受ケ何年月日辨償ノ義務ヲ終フ
 右ノ通ニ御座候也

年號月日

氏 名 印

代官引續願(免許狀紛失氏名改換ノ時)

引續代官營業仕度候ニ付キ免許狀御下付被下度此段奉願候也

本貫住居(寄留ナルキハ其寄)

免許代官人

氏 名 印

年號月日

司法卿某殿

○第二款 所屬代官人規則

明治十四年十二月 司法省甲第八號布達

大審院諸裁判所々屬代官人規則別紙ノ通相定候條此旨布達候事

所屬代官人規則

第一條 治罪法中所屬代官人ト稱スルハ大審院及ヒ各裁判所々在ノ地ニ住居スル免許代官人ヲ云フ

第二條 裁判官ノ職權ヲ以テ選任シタル代官人辨護人ハ正當ノ事山ヲ證明スルニアラサレハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三條 代官又ハ辨護受任中代官免許滿期ニ至リ引續營業セス又ハ廢業スト雖モ該事件終結ニ至ルマテ其代官辨護ヲ擔當ス可シ

第四條 代官又ハ辨護受任中ハ他ノ訴訟事件ヲ以テ其任ヲ闕クコトヲ得ス

第五條 裁判官ノ職權ヲ以テ代官人辨護人ヲ選任シタル場合ニ於テモ其謝金ハ被告人之ヲ擔當スヘシ

○第三款 法律學卒業者代官免許方

明治十三年十一月 司法省丙第十六號達

明治十二年(五月)司法省丙第七號達左ノ通改正候條此旨可相心得事

第四類 訴訟法 所屬代官人規則 代人規則

文部省所轄東京大學法學部ニ於テ法律學卒業ノ者代理人營業出願セシ時ハ明治十三年五月司法省中第一號布達改正代理人規則第廿七條(出願)第二十八條(試驗)ニ關セス免許狀授與候條右出願ノ節ハ卒業免狀ヲ檢査シ願書ニ其寫ヲ添ヘ進達可致此旨相達候事但本文試驗ニ關スルモノ、外代理人規則ニ準據スルハ一般代理人ト異ナルヲナシ

○第六章 代人

○第一款 代人規則 明治六年六月第二十五號布告

人民一般商業及ヒ其他ノ事ニ因リ代人ヲ以テ契約取引等致シ候規則別紙ノ通被定候條此旨相達候事

第一條 凡ソ何人ニ限ラス己レノ名義ヲ以テ他人ヲシテ其事ヲ代理セシムルノ權アル可シ

但本人幼年者ニテ其事理ヲ辨シ難キ片ハ其後見人及ヒ親族ノ者協議ノ上代人ヲ任スルヲ得ヘシ

第二條 凡ソ他人ノ委任ヲ受ケ其事件ヲ取扱フ者ハ代人ニシテ其事件ヲ委任スル者ハ本人ナリ故ニ代人委任上ノ所行ハ本人ノ關係タル可シ

第三條 凡ソ代人ハ心術正實ニシテ滿二十歳以上ノ者ヲ撰ム可シ

第四條 代人ハ總理代人部理代人ノ別アリ總理代人ハ其代人身上諸般ノ事務ヲ代理スル者ニシテ部理代人ハ特ニ其委任スル部内ノ事務ヲ代理スルヲ得ルモノトス

第五條 凡ソ本人ヨリ代人ヲ任シ他人ト契約取引等ヲ爲サント欲スルトキハ必ラス實印ヲ押シタル委任狀ヲ與フ可シ

但シ其家業取扱フ場所ニ於テ通常ノ事務ヲ取扱ハシムルノ類ハ別段委任狀ヲ與フルコト及ハス

第六條 委任狀ハ總理代人又ハ部理代人タル事及ヒ其委任シタル權限ヲ明白ニ記載ス可シ

第七條 委任狀書式左之通

拙者儀某ノ事件ニ付何誰ヲ以テ總理代人ト定メ拙者ノ名義ニテ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候事

一何々ノ事但權限ノ次第ヲ分條記載ス可シ
右代理ノ委任狀仍テ如件

年號何年何月何日

住所身分

名印

第八條 代人ヲ任スルノ期限ハ豫メ規定シ難キモノト雖モ其本人幼弱疾病事故等ニテ

(後見人等ハ住所身分何誰ノ後見人何誰ト記シ可シ)

長ク委任セントスル時ハ其地方ニ新聞紙アラハ之ニ記入セシメ世上ニ公布ス可シ

○第二款 詞訟勸解代人 明治十七年一月

第一號布達

明治十三年(五月)司法省甲第二號布達左ノ通改正ス

詞訟又ハ勸解ニ付己ムヲ得ス代人ヲ出サントスル者ハ親屬又ハ相當ノ者ヲ撰ミ管轄裁判所ノ許可ヲ受ク可シ(但代人タル者同時ニ二人以上ヨリ二件以上ヲ受任シ其他不適當ノ所爲アリト認ムル時ハ裁判所ニ於テ之ヲ差止ムルコトアル可シ)

○第三款 土地所有者代人 明治十八年六月大藏省

第二十九號(府縣へ)達

土地所有者ニシテ其土地所在ノ戸長役場所轄内ニ居住セサル片ハ地租地方稅備荒儲蓄金區町村費ヲ納ムル爲メ代人ヲ定メ土地所轄ノ戸長役場へ屆置カシムヘシ

○第七章 庭規

○第一款 裁判所取締規則 明治七年五月

司法省甲第九號達

今般裁判所取締規則左之通相定候條此旨相達候事

裁判所取締規則

第一條 訟庭ハ訴訟口詰必ス出席シ訴訟人ヲ順序ニ呼込ミ裁判官ノ命ニ從ヒ失敬又ハ紛鬧ノ事アラサル様其取締ヲ爲スヘキ事

第二條 原被告人ヲ始メ代言人等總テ訟庭ニ出ル者ハ呼込ノ次第ニ從ヒ沈黙整列シ裁

判官出席スレハ各々起テ禮ヲ爲スヘシ

第三條 原被告共其事情ヲ餘蘊ナク幾回モ詳細ニ陳述スヘシトイヘモ互ニ先ツ發言スル者ノ言終リタル後ニ非サレハ更ニ其言ヲ發スヘカラス

第四條 凡ソ進退動作ハ輕躁ニ涉ラス言語ハ憤怒高激ニ涉ラス諄々トシテ其事情ヲ陳述シ且裁判官ニ對シテ尊敬ヲ致スニ注意スヘシ

第五條 (明治七年司法省甲第十九號達改正)前條ニ記載シタル事ヲ守ラヌ裁判官ニ對シテ尊敬ヲ欠ク者アル片ハ裁判官直ニ譴責ヲ加フヘシ

第六條 (明治七年司法省甲第十九號達改正)譴責ヲ加フヘキ者アル片ハ其裁判ヲ中止シ犯則ニ關係ナキ者ハ一旦扣所ニ退カシメ然ル後犯則ノ者ヲ譴責スヘシ

第七條 (明治七年司法省甲第十九號達改正)裁判官ヲ罵ル者アル片ハ前條ノ如ク其裁判ヲ中止シ之ヲ斷獄課ニ付シ本律ヲ科ス可キ事

第八條 (明治七年司法省甲第十九號達改正)裁判ノ時公聽ヲ許サレタル者ハ人々皆沈黙敬聽スヘシ(但裁判官審問ノ際公聽ノ者若シ紛鬧ニシテ審問ノ妨礙アリト思量スル片ハ便宜ヲ以テ訴訟口詰ニ命シ公聽ノ者ヲ退カシムヘシ)

○第二款 使丁規則 明治十四年十二月

司法省丁第廿六號達

第一條 各裁判所書記局ハ刑事民事ニ關スル召喚狀其他書類ヲ送達セシムル爲メ其請

負人ヲ定メ之ヲ使丁取締トス使丁取締ハ一人トス但場所ニ因リ二人以上ヲ命スルコトアルヘシ

第二條 使丁ハ使丁取締之ヲ撰ヒ其氏名ヲ書記局ニ届出鑑札ヲ受クルモノトス

使丁ノ人員ハ使丁取締適宜之ヲ定メ書記局ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 使丁取締ハ送達ノ事ニ付總テ其責ニ任スルモノトス

第四條 使丁取締ハ常ニ裁判所ニ在テ送達ノ事ヲ取扱フヘシ

第五條 使丁ハ送達ヲ爲スル片裁判所ノ鑑札ヲ帶行スヘシ

第六條 送達ヲ爲スニハ其法律規則ニ從フヘシ

第七條 使丁取締及ヒ使丁ハ訴訟ニ付キ代人トナリテ訟廷ニ出ルコトヲ許サス

第八條 送達ノ事ニ關シ他人ニ損害ヲ被ラシメタル片ハ使丁取締其償ヲ擔當スヘシ

但使丁ノ過失懈怠ニヨル片使丁取締ハ之ニ對シ更ニ其償ヲ求ムルコト得

第九條 送達賃錢ハ地方ノ便否ニ從ヒ書記局ニ於テ適宜其定期ヲ立ツヘシ(明治十五年六月同)

省丁第三十四號達ヲ以テ但送達書ニ賃錢ノ高ヲ附記スヘシ

第十條 賃錢ノ定限ハ其取扱所ニ貼示シ三日以上新聞紙ニ掲載シ又其他ノ方法ヲ以テ

公告スヘシ

第十一條 刑事ニ付テノ送達賃錢ハ其送達ヲ受ル者ヨリ之ヲ拂フヘシ

第十二條 刑事附帶ノ私訴及ヒ民事ニ付テノ送達賃錢ハ總テ其送達ヲ請求スル者ヨリ之レヲ拂フヘシ

第十三條 送達賃錢ニ付テノ訴訟ハ其書類ヲ發シタル裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

第十四條 使丁取締ハ書類送達ヲ正實ニ取扱フヘキ旨ノ書面ヲ書記局ニ差出スヘシ

第十五條 使丁取締及ヒ使丁ハ此規則ニ違背シタル時裁判所書記局ハ使丁取締ニ左ノ

條件中ニテ相當ノ言渡ヲ爲スヘシ

一 二十圓以下ノ違約金ヲ納メシムル事

二 解職セシムル事

三 事情重キ者ハ違約金ヲ納メ解職セシムル事

第十六條 使丁取締タルニハ其裁判所々在ノ地ニ家屋ヲ有シ滿二十一歳以上ノ者ニシ

テ書記局ノ試験ヲ經ルコトヲ要ス

使丁取締タルニハ身元保證トシテ金五十圓以上ノ價格アル公債證書地券又ハ銀行其

他官許アル株券證書ヲ書記局ニ納ムヘシ

但シ此保證金ハ解職ノ時下戻スヘシ

第十七條 試験ハ書記二名以上ニテ之ヲ爲スヘシ

但シ書記不足ナルトキハ雇ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第四類 訴訟法 使丁規則 裁判傍聽規則